

Ⅱ. 調査結果の分析 (在住者意識調査)

1. 回答者の標本構成

性別、年代、居住区については、さいたま市の人口（令和5年5月1日現在の18歳以上人口）と対比を行った。

(1) 性別

属性	回答者数	比率	市全体の人口比率
男性	938	42.3%	49.2%
女性	1,238	55.9	50.8
選べない・ 答えたくない	14	0.6	
無回答	25	1.1	
全体	2,215	100.0	100.0

(2) 年代

属性	回答者数	比率	市全体の人口比率
18～19歳	35	1.6%	2.2%
20代	186	8.4	13.5
30代	304	13.7	15.0
40代	385	17.4	17.5
50代	435	19.6	17.9
60代	390	17.6	12.2
70歳以上	457	20.6	21.7
無回答	23	1.0	
全体	2,215	100.0	100.0

(3) 性・年代

属性	回答者数	比率	市全体の人口比率	属性	回答者数	比率	市全体の人口比率
男性18～29歳	91	4.1%	7.9%	女性18～29歳	129	5.8%	7.8%
男性30代	122	5.5	7.6	女性30代	178	8.0	7.3
男性40代	156	7.0	9.0	女性40代	225	10.2	8.5
男性50代	185	8.4	9.1	女性50代	248	11.2	8.7
男性60代	175	7.9	6.2	女性60代	213	9.6	6.0
男性70歳以上	209	9.4	9.4	女性70歳以上	244	11.0	12.4
				選べない・ 答えたくない	14	0.6	
				無回答	26	1.2	
				全体	2,215	100.0	100.0

(4) 居住区

属性	回答者数	比率	市全体の人口比率
西区	133	6.0%	7.0%
北区	243	11.0	11.2
大宮区	226	10.2	9.4
見沼区	269	12.1	12.4
中央区	176	7.9	7.8
桜区	134	6.0	7.3
浦和区	313	14.1	12.4
南区	320	14.4	14.3
緑区	202	9.1	9.6
岩槻区	175	7.9	8.5
無回答	24	1.1	
全体	2,215	100.0	100.0

(5) 主に利用する駅

属性	回答者数	比率	属性	回答者数	比率	属性	回答者数	比率
大宮	330	14.9%	大和田	60	2.7%	東岩槻	28	1.3%
浦和	194	8.8	南与野	59	2.7	北与野	27	1.2
北浦和	176	7.9	土呂	58	2.6	加茂宮	13	0.6
武蔵浦和	135	6.1	与野本町	53	2.4	鉄道博物館	13	0.6
南浦和	130	5.9	日進	49	2.2	大宮公園	8	0.4
岩槻	109	4.9	七里	46	2.1	今羽	8	0.4
東大宮	85	3.8	西大宮	46	2.1	東宮原	5	0.2
与野	85	3.8	指扇	41	1.9	北大宮	3	0.1
東浦和	78	3.5	浦和美園	40	1.8	吉野原	0	0.0
宮原	77	3.5	中浦和	34	1.5	その他	53	2.4
さいたま新都心	69	3.1	西浦和	33	1.5	無回答	70	3.2
						全 体	2,215	100.0

(6) 主な移動手段 (複数回答)

属性	回答者数	比率
徒 歩	1,174	53.0%
自転車	998	45.1
自家用車	1,123	50.7
バイク	51	2.3
電 車	1,219	55.0
バ ス	545	24.6
タクシー	93	4.2
その他	9	0.4
無回答	23	1.0

(7) 職業

属性	回答者数	比率
自営業主・家業手伝い	133	6.0%
勤め人(正規職員・正社員)	809	36.5
勤め人(パート・アルバイトなど)	403	18.2
学 生	74	3.3
専業主婦・専業主夫	352	15.9
無職	339	15.3
その他	23	1.0
無回答	82	3.7
全 体	2,215	100.0

(7-1) 勤務先・通学先

属性	回答者数	比率
さいたま市内	646	45.5%
さいたま市以外の埼玉県内	223	15.7
東京都23区	437	30.8
その他の東京都	39	2.7
その他の道府県	54	3.8
無回答	20	1.4
有職者・学生全体	1,419	100.0

(7-2) 通勤・通学時間

属性	回答者数	比率
30分未満	562	39.6%
30分～1時間未満	371	26.1
1時間～1時間半未満	347	24.5
1時間半～2時間未満	95	6.7
2時間以上	16	1.1
無回答	28	2.0
有職者・学生全体	1,419	100.0

(8) 同居している家族構成

属 性	回答者数	比率
一人暮らし	244	11.0%
夫婦だけ	611	27.6
親子（2世代）	1,141	51.5
親と子と孫（3世代）	100	4.5
その他	42	1.9
無回答	77	3.5
全 体	2,215	100.0

(9) 子どもの有無

属 性	回答者数	比率
いる	1,449	65.4%
いない	692	31.2
無回答	74	3.3
全 体	2,215	100.0

(9-1) 子どもの年代（複数回答）

属 性	回答者数	比率
小学校入学前（0～6歳）	225	15.5%
小学生・中学生	293	20.2
高校生・大学生・大学院生・ 短大生・専門学校生	244	16.8
学校教育終了	757	52.2
その他	134	9.2
無回答	9	0.6

(10) 65歳以上の家族の有無

属 性	回答者数	比率
いる	1,113	50.2%
いない	1,046	47.2
無回答	56	2.5
全 体	2,215	100.0

(11) 居住形態

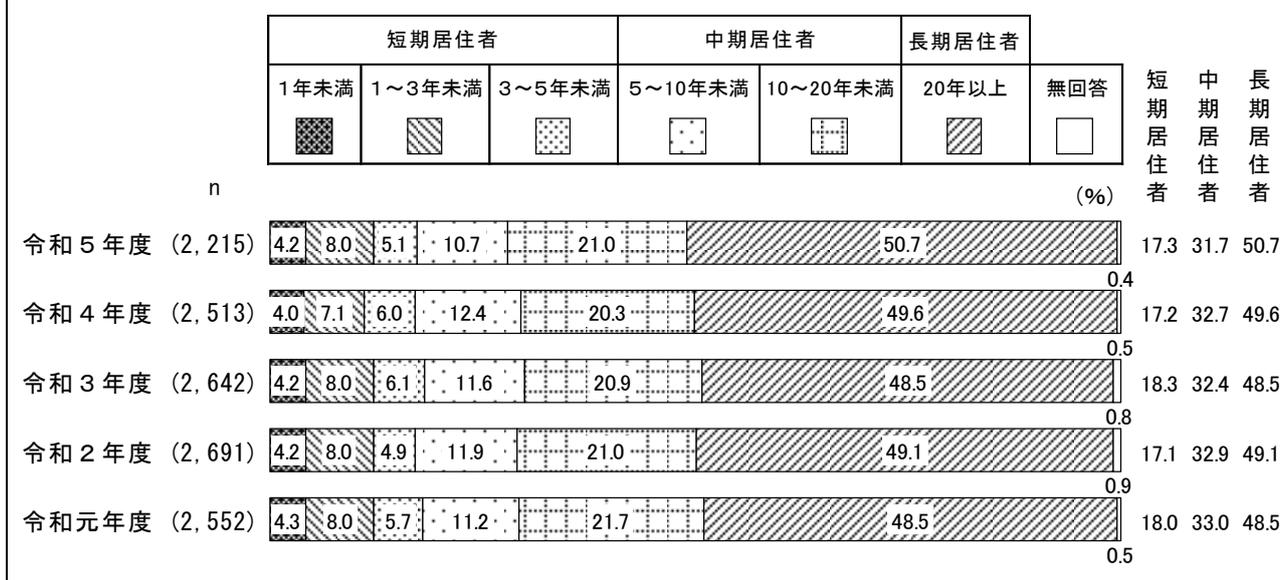
属 性	回答者数	比率
持ち家の一戸建て	1,171	52.9%
持ち家の集合住宅	502	22.7
社宅、公務員住宅など	31	1.4
民間の借家(一戸建て、集合住宅)	367	16.6
公営の借家(UR、市・県営住宅など)	51	2.3
その他	19	0.9
無回答	74	3.3
全 体	2,215	100.0

2. 地域での生活

(1) 居住年数

問1 あなたは、現在の「地域」にお住まいになって何年になりますか。あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)

図2-1-1 居住年数



全体結果

「1年未満」(4.2%)、「1～3年未満」(8.0%)、「3～5年未満」(5.1%)を合わせた『短期居住者』は17.3%、「5～10年未満」(10.7%)と「10～20年未満」(21.0%)を合わせた『中期居住者』は31.7%、「20年以上」の『長期居住者』は50.7%であった。

過去4年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-1-1)

表 2-1-1 居住年数-性・年代別、居住区別-

	n	短期居住者			中期居住者		長期居住者	無回答	短期居住者	中期居住者	長期居住者	(%)
		1年未満	1~3年未満	3~5年未満	5~10年未満	10~20年未満	20年以上					
全 体	2,215	4.2	8.0	5.1	10.7	21.0	50.7	0.4	17.3	31.7	50.7	
<性・年代別>												
男 性	938	3.7	7.8	5.2	9.9	21.6	51.6	0.1	16.7	31.6	51.6	
18~29歳	91	6.6	16.5	7.7	9.9	29.7	29.7	-	30.8	39.6	29.7	
30代	122	7.4	27.9	20.5	17.2	6.6	20.5	-	55.7	23.8	20.5	
40代	156	5.8	9.6	4.5	17.9	32.7	29.5	-	19.9	50.6	29.5	
50代	185	3.2	2.7	2.2	12.4	34.1	45.4	-	8.1	46.5	45.4	
60代	175	1.7	1.1	1.1	2.9	15.4	77.7	-	4.0	18.3	77.7	
70歳以上	209	1.0	1.0	1.9	3.3	12.9	79.4	0.5	3.8	16.3	79.4	
女 性	1,238	4.7	8.4	5.0	11.4	20.5	49.6	0.4	18.1	31.9	49.6	
18~29歳	129	11.6	17.1	6.2	10.1	24.8	30.2	-	34.9	34.9	30.2	
30代	178	17.4	20.2	14.0	20.2	12.9	15.2	-	51.7	33.1	15.2	
40代	225	2.7	10.2	6.7	20.0	32.9	26.7	0.9	19.6	52.9	26.7	
50代	248	1.2	4.4	2.8	8.1	29.8	53.6	-	8.5	37.9	53.6	
60代	213	0.5	1.9	1.9	7.0	12.2	76.1	0.5	4.2	19.2	76.1	
70歳以上	244	0.8	3.3	1.2	4.9	10.2	78.7	0.8	5.3	15.2	78.7	
<居住区別>												
西 区	133	3.8	7.5	7.5	11.3	16.5	53.4	-	18.8	27.8	53.4	
北 区	243	6.6	9.1	5.3	10.3	21.4	47.3	-	21.0	31.7	47.3	
大 宮 区	226	6.2	11.5	2.2	12.8	22.1	44.7	0.4	19.9	35.0	44.7	
見 沼 区	269	3.0	4.1	5.9	7.8	22.7	56.1	0.4	13.0	30.5	56.1	
中 央 区	176	4.0	8.5	3.4	13.1	22.7	48.3	-	15.9	35.8	48.3	
桜 区	134	3.0	11.2	3.7	8.2	17.9	56.0	-	17.9	26.1	56.0	
浦 和 区	313	1.9	8.9	7.3	11.8	22.0	47.6	0.3	18.2	33.9	47.6	
南 区	320	5.0	6.9	4.1	15.3	22.2	46.3	0.3	15.9	37.5	46.3	
緑 区	202	5.0	9.9	5.4	8.9	24.3	46.5	-	20.3	33.2	46.5	
岩 槻 区	175	4.0	4.6	5.1	5.1	14.3	65.7	1.1	13.7	19.4	65.7	

属 性 別

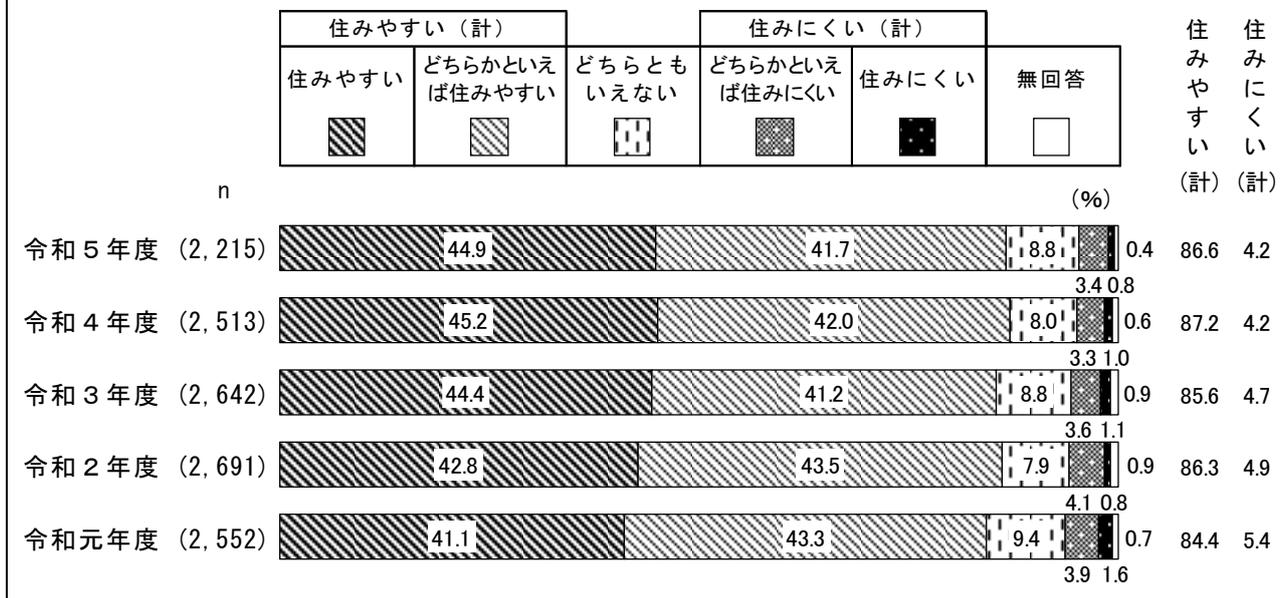
性・年代別でみると、『長期居住者』は、男女とも60代以上で7割台であった。

居住区別でみると、『短期居住者』は、北区(21.0%)、緑区(20.3%)で2割台であった。一方、『長期居住者』は、岩槻区が65.7%で最も高く、見沼区(56.1%)、桜区(56.0%)、西区(53.4%)が5割台で続いた。(表2-1-1)

(2) 住み心地

問2 あなたがお住まいの「地域」の住み心地はどうか。(○は1つ)

図2-2-1 住み心地

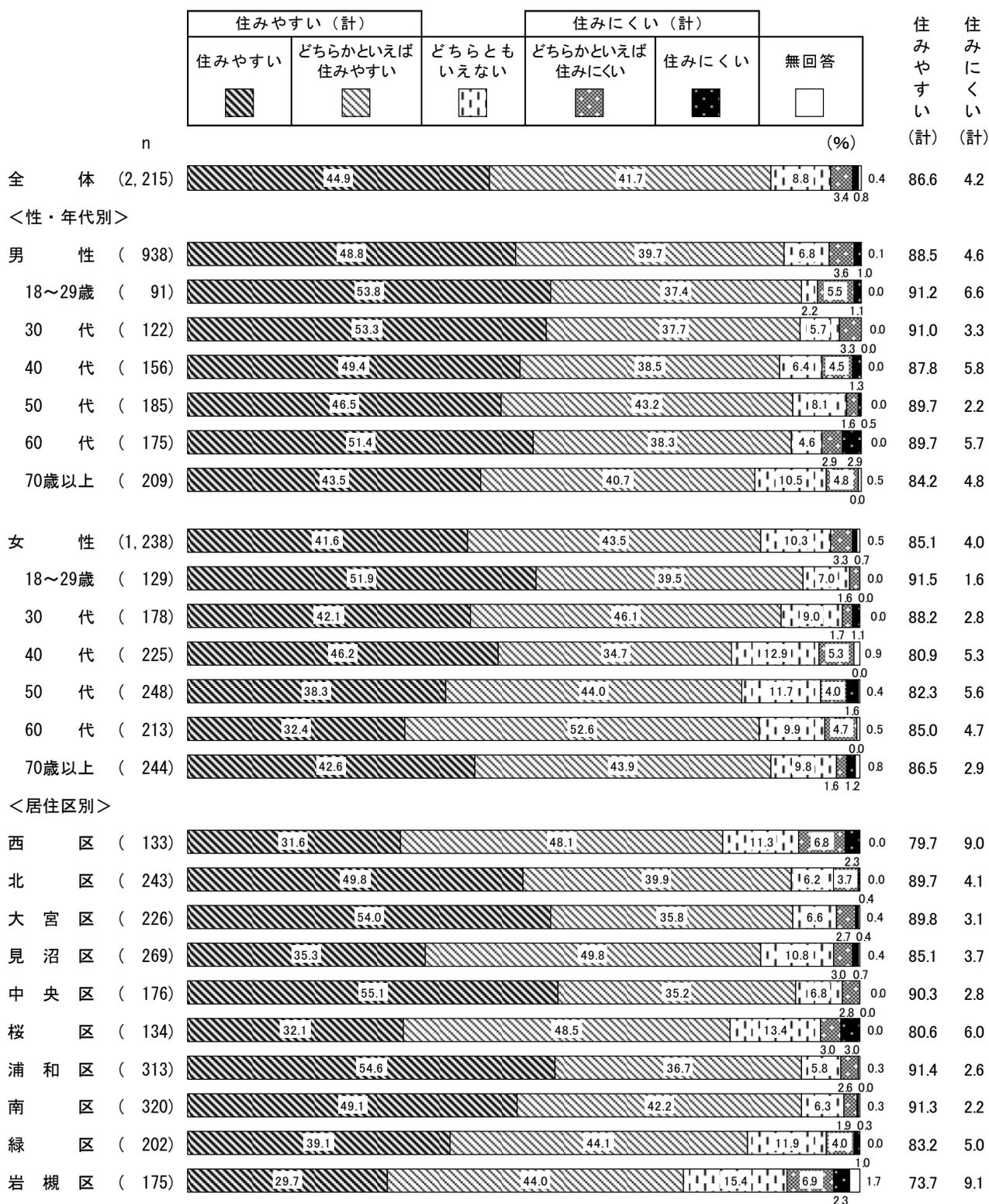


全体結果

「住みやすい」(44.9%)と「どちらかといえば住みやすい」(41.7%)を合わせた『住みやすい(計)』(86.6%)は、9割近くであった。一方、「どちらかといえば住みにくい」(3.4%)と「住みにくい」(0.8%)を合わせた『住みにくい(計)』(4.2%)は、1割未満であった。

過去4年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-2-1)

図 2-2-2 住み心地—性・年代別、居住区別—



属性別

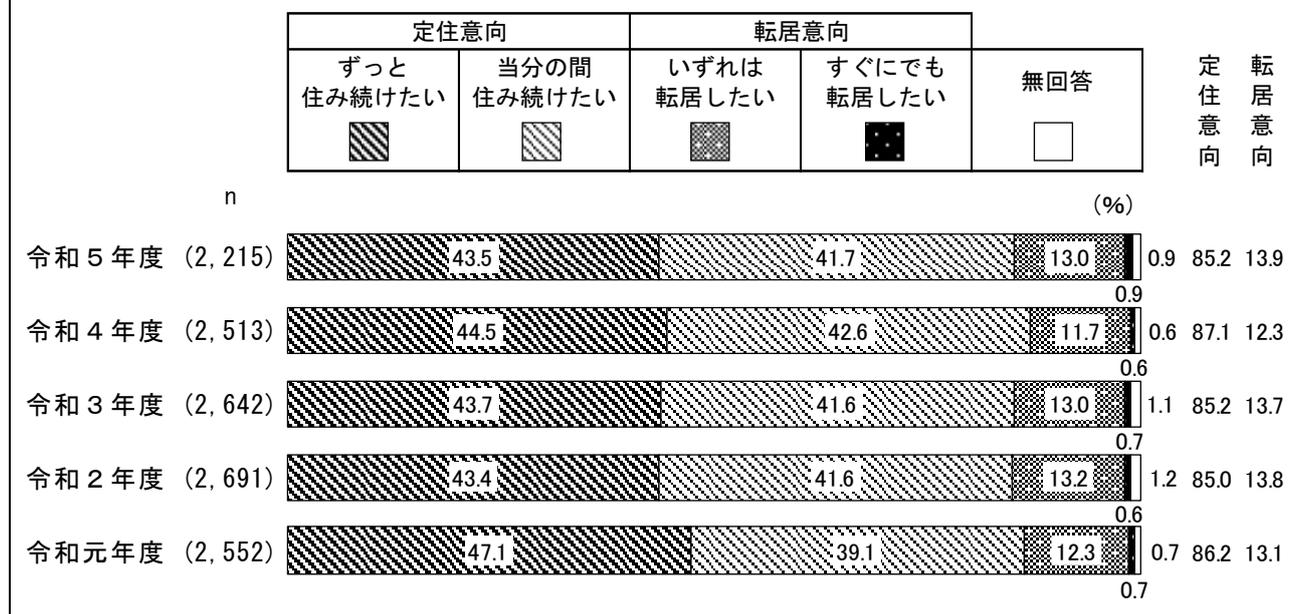
性・年代別でみると、『住みやすい (計)』は、男女とも 18~29 歳が 9 割台で最も高く、男性 30 代 (91.0%) も 9 割を超えた。

居住区別でみると、『住みやすい (計)』は、浦和区 (91.4%)、南区 (91.3%)、中央区 (90.3%) で 9 割台であった。一方、岩槻区 (73.7%)、西区 (79.7%) は 7 割台であった。(図 2-2-2)

(3) 定住意向

問3 あなたは、現在お住まいの「地域」にこれからも住みたいと思いますか。(○は1つ)

図2-3-1 定住意向

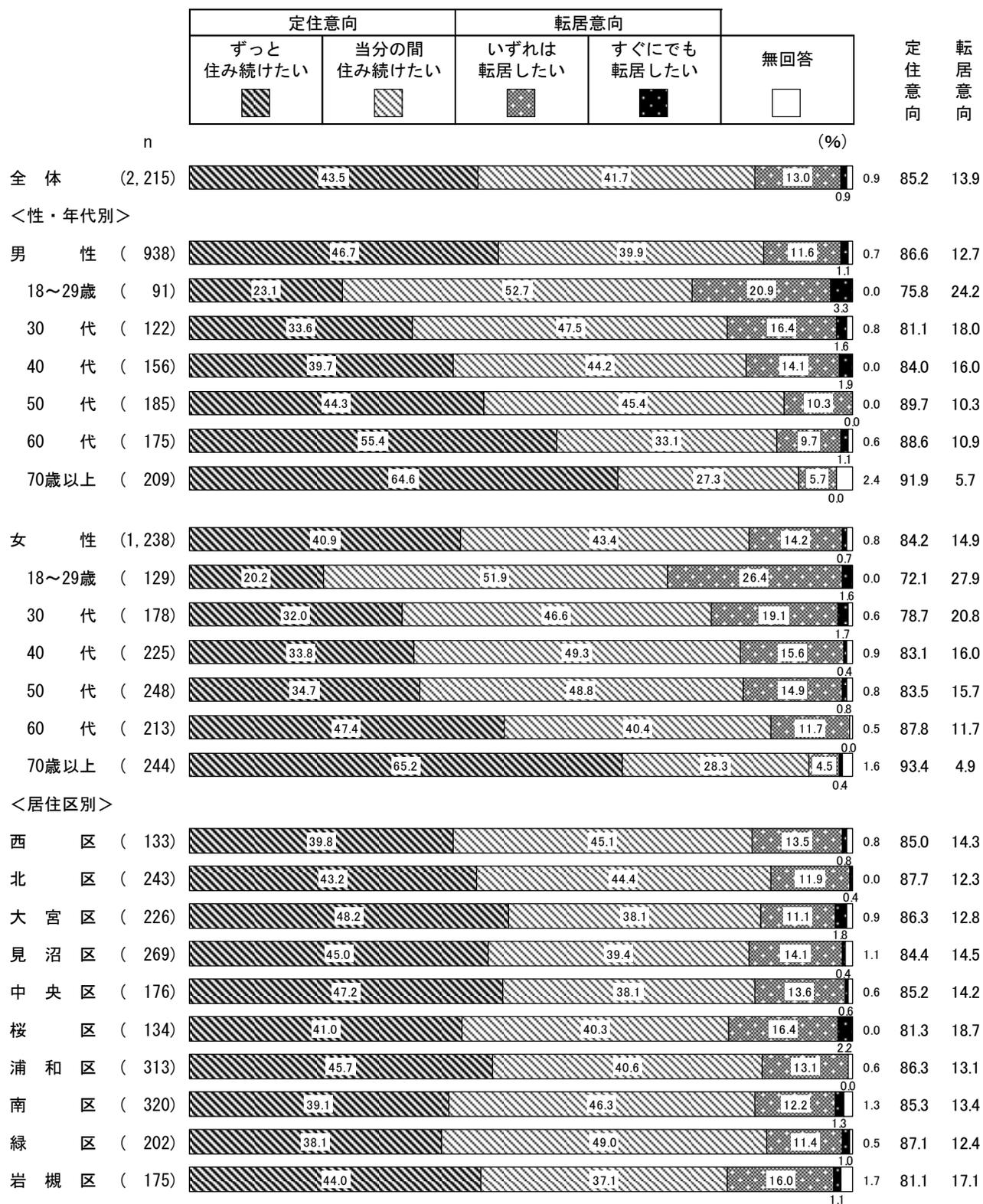


全体結果

「ずっと住みたい」(43.5%)と「当分の間住みたい」(41.7%)を合わせた『定住意向』(85.2%)は、8割半ばであった。一方、「いずれは転居したい」(13.0%)と「すぐにでも転居したい」(0.9%)を合わせた『転居意向』(13.9%)は、1割を超えた。

過去4年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-3-1)

図2-3-2 定住意向一性・年代別、居住区別一



属性別

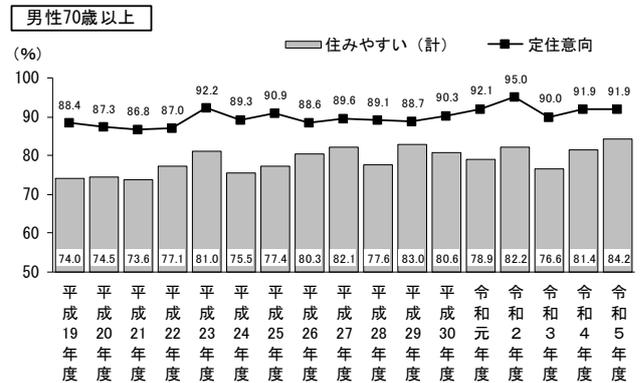
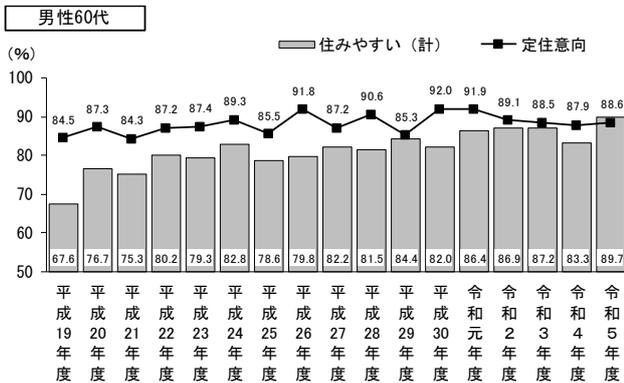
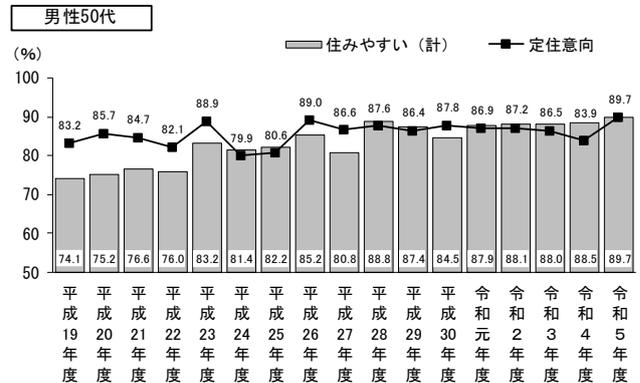
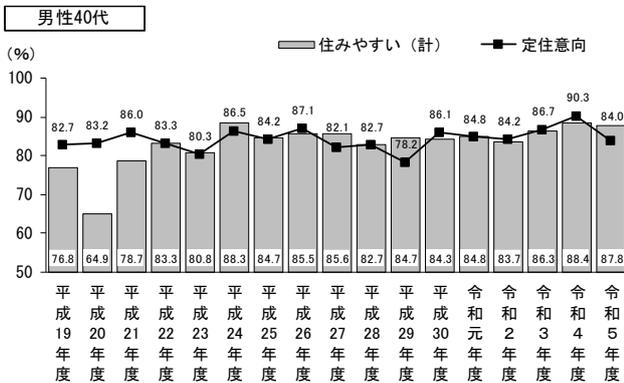
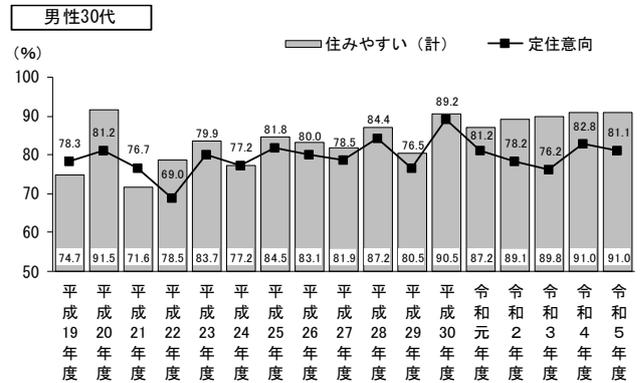
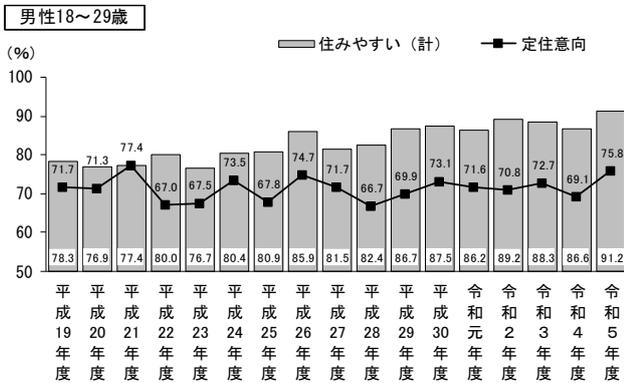
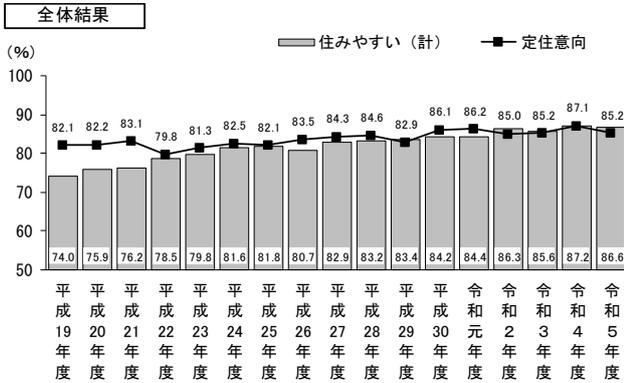
性・年代別でみると、『定住意向』は、男性30代以上、女性40代以上で8割を超え、男女とも70歳以上で9割を超えた。

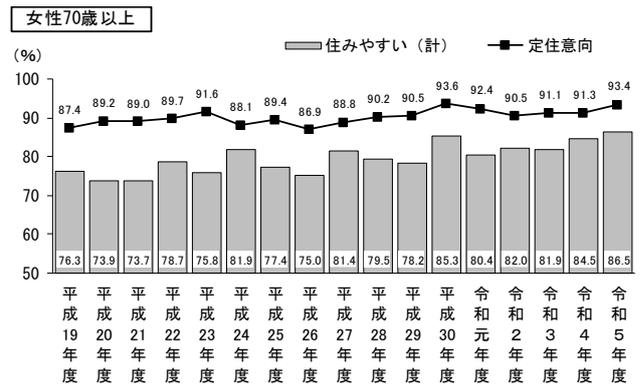
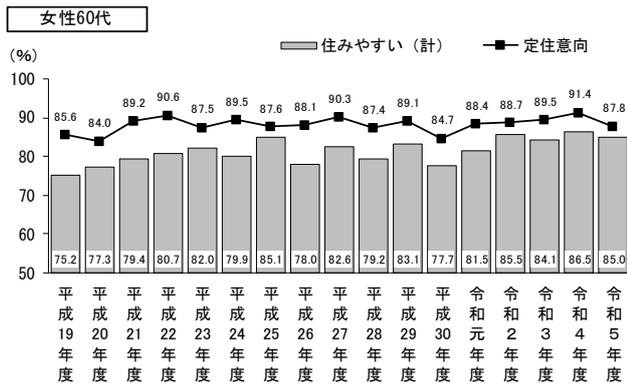
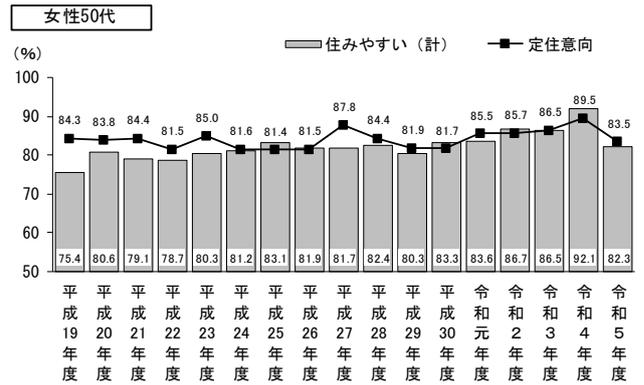
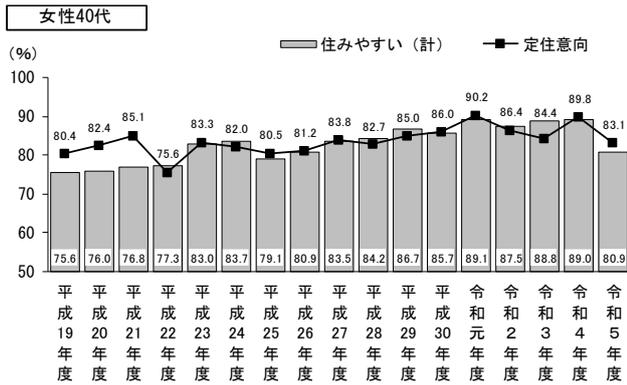
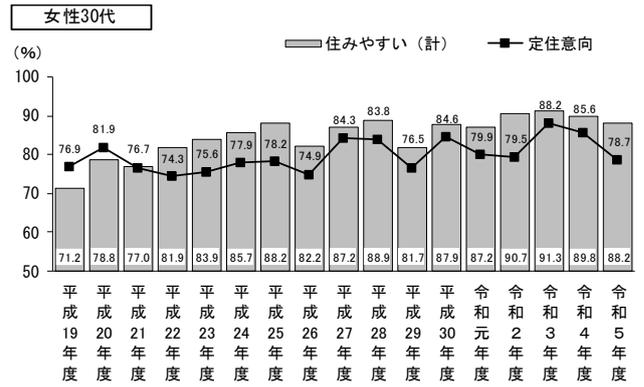
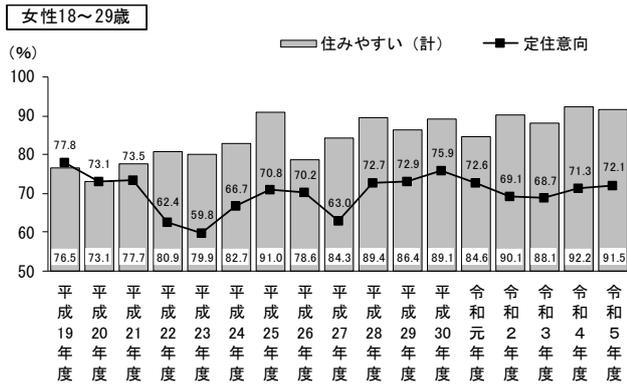
居住区別でみると、『定住意向』は、北区が87.7%で最も高く、すべての区で8割台であった。

(図2-3-2)

(4) 住みやすさと定住意向の推移

図2-4-1 住みやすさと定住意向の推移—性・年代別—



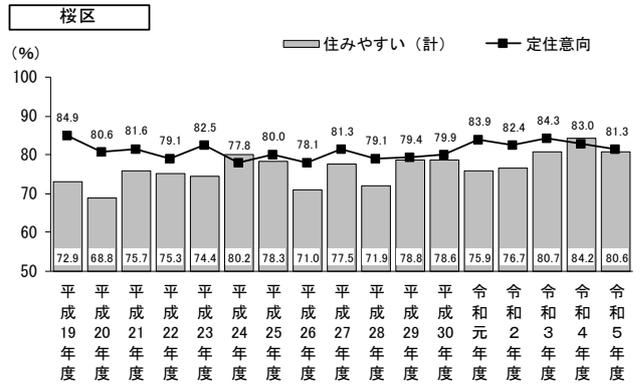
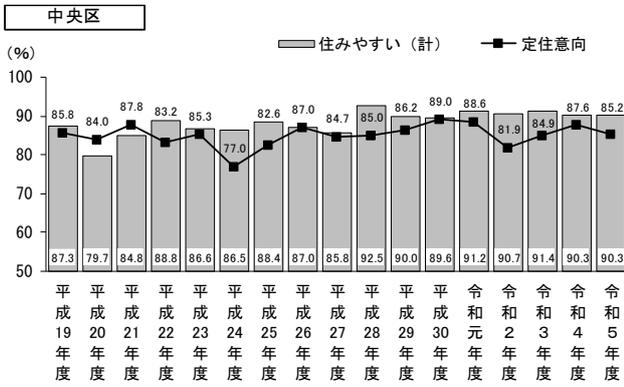
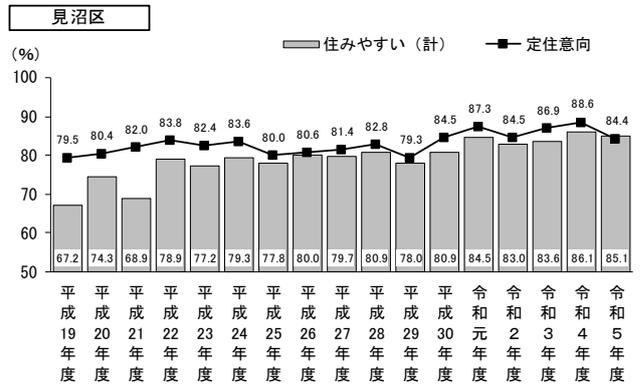
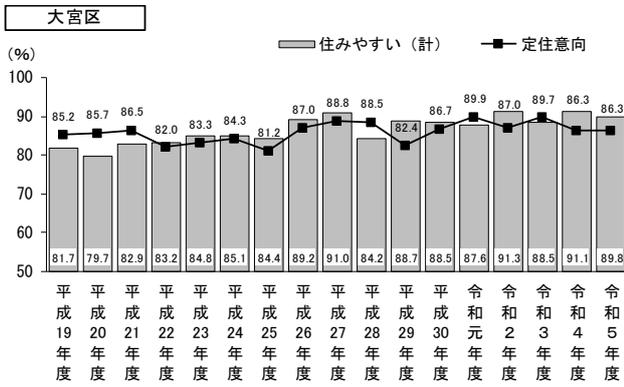
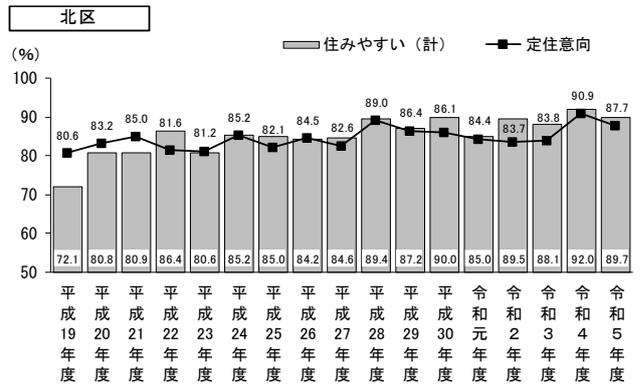
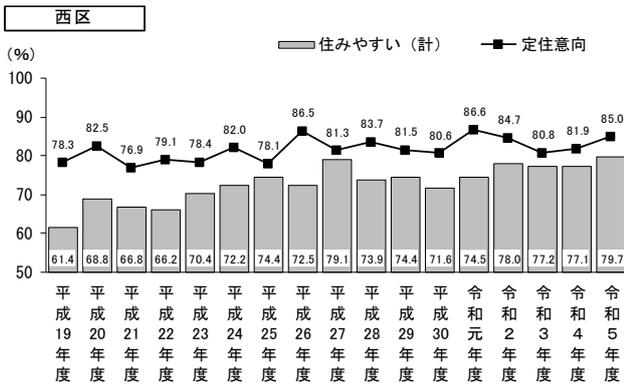
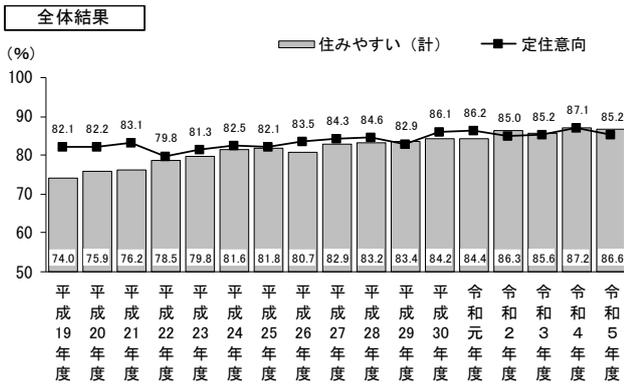


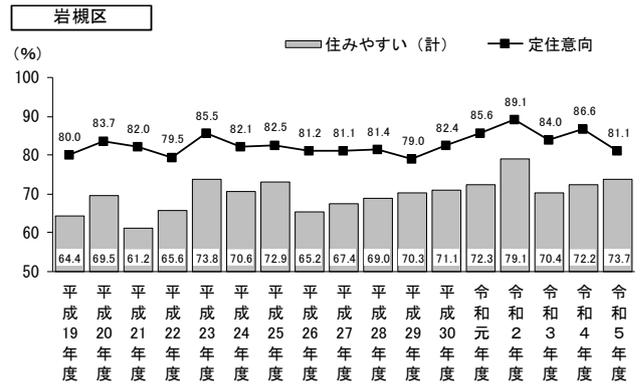
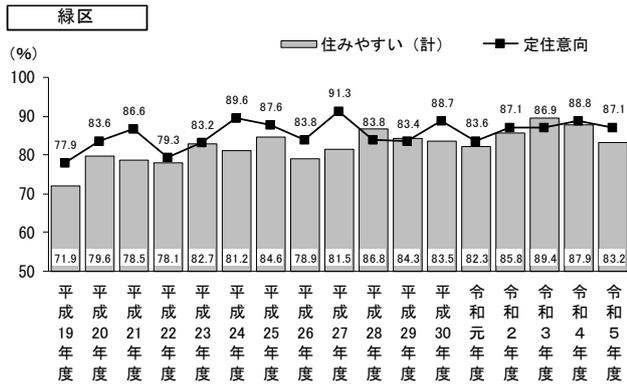
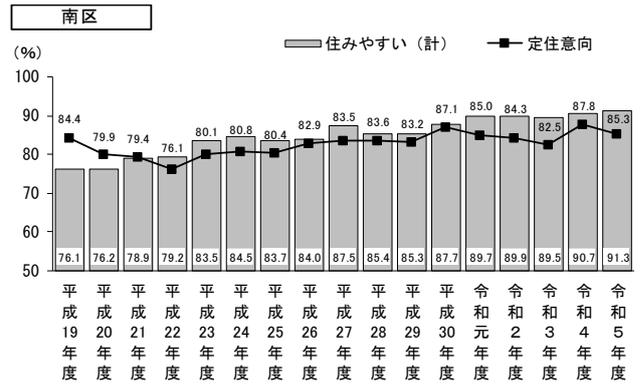
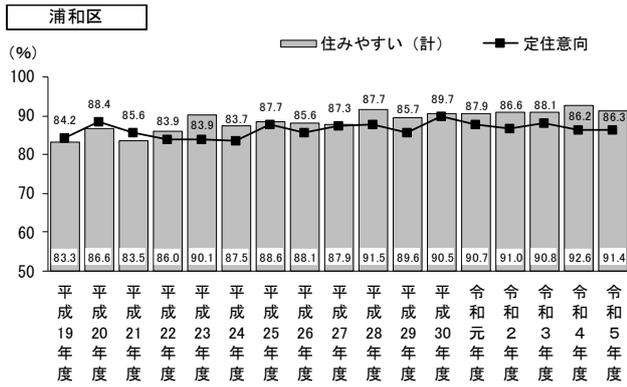
(注記)「男性18～29歳」「女性18～29歳」は、平成27年度までは「男性20～29歳」「女性20～29歳」で集計している。

性・年代別でみると、『住みやすい(計)』は、男女ともすべての年代で平成19年度を上回り、男性はすべての年代、女性は30代以下と70歳以上で10ポイント以上増加した。

『定住意向』は、男性すべての年代で平成19年度を上回った。(図2-4-1)

図2-4-2 住みやすさと定住意向の推移—居住区別—



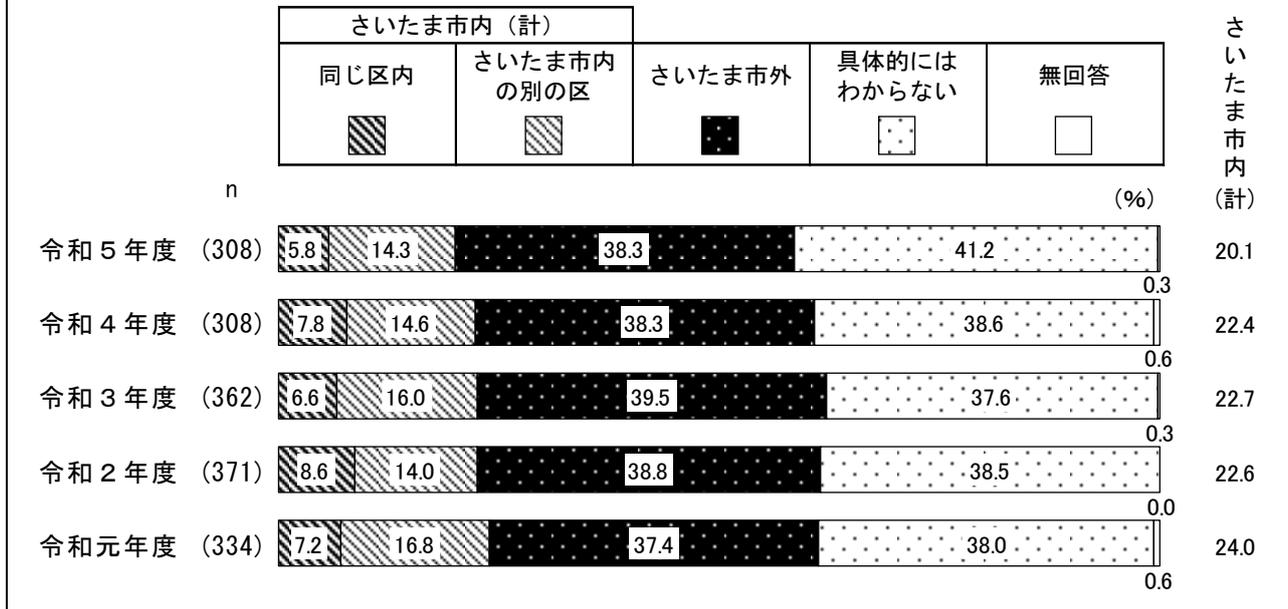


居住区別で見ると、『住みやすい(計)』は、すべての区で平成19年度を上回り、10区中5区は10ポイント以上増加した。(図2-4-2)

(5) 希望する転居先

(問3で「いずれは転居したい」「すぐにでも転居したい」と答えた方に)
 問3-1 どこに転居したいと思いますか。(〇は1つ)

図2-5-1 希望する転居先



全体結果

「いずれは転居したい」、「すぐにでも転居したい」と答えた人の、希望する転居先は、「さいたま市外」が38.3%で、「同じ区内」(5.8%)と「さいたま市内の別の区」(14.3%)を合わせた『さいたま市内(計)』(20.1%)を上回った。

過去4年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-5-1)

図 2-5-2 希望する転居先一性・年代別、居住区別一



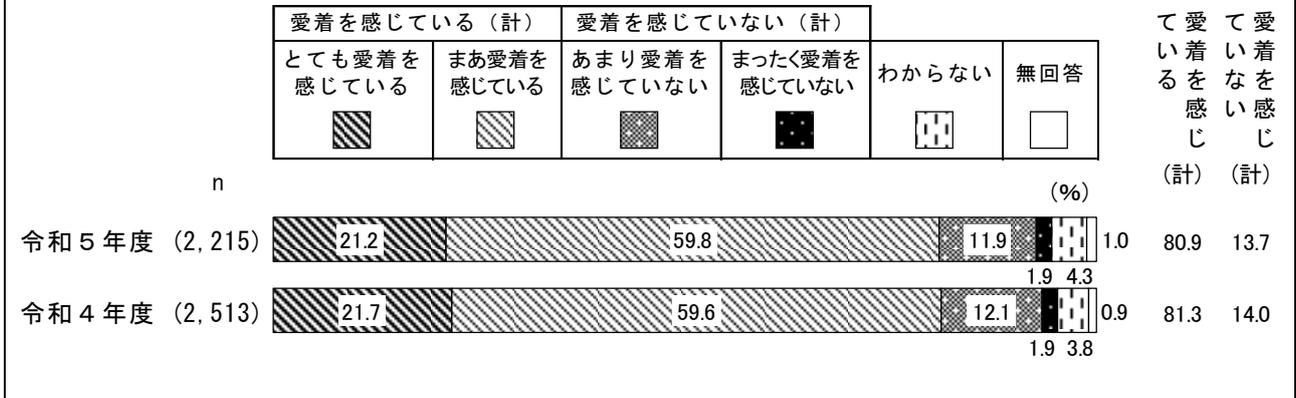
属性別

性別でみると、「具体的にはわからない」は、男女とも4割台であった。(図2-5-2)

(6) 地域への愛着

問4 あなたは、現在お住まいの「地域」に愛着を感じていますか。(○は1つ)

図2-6-1 地域への愛着

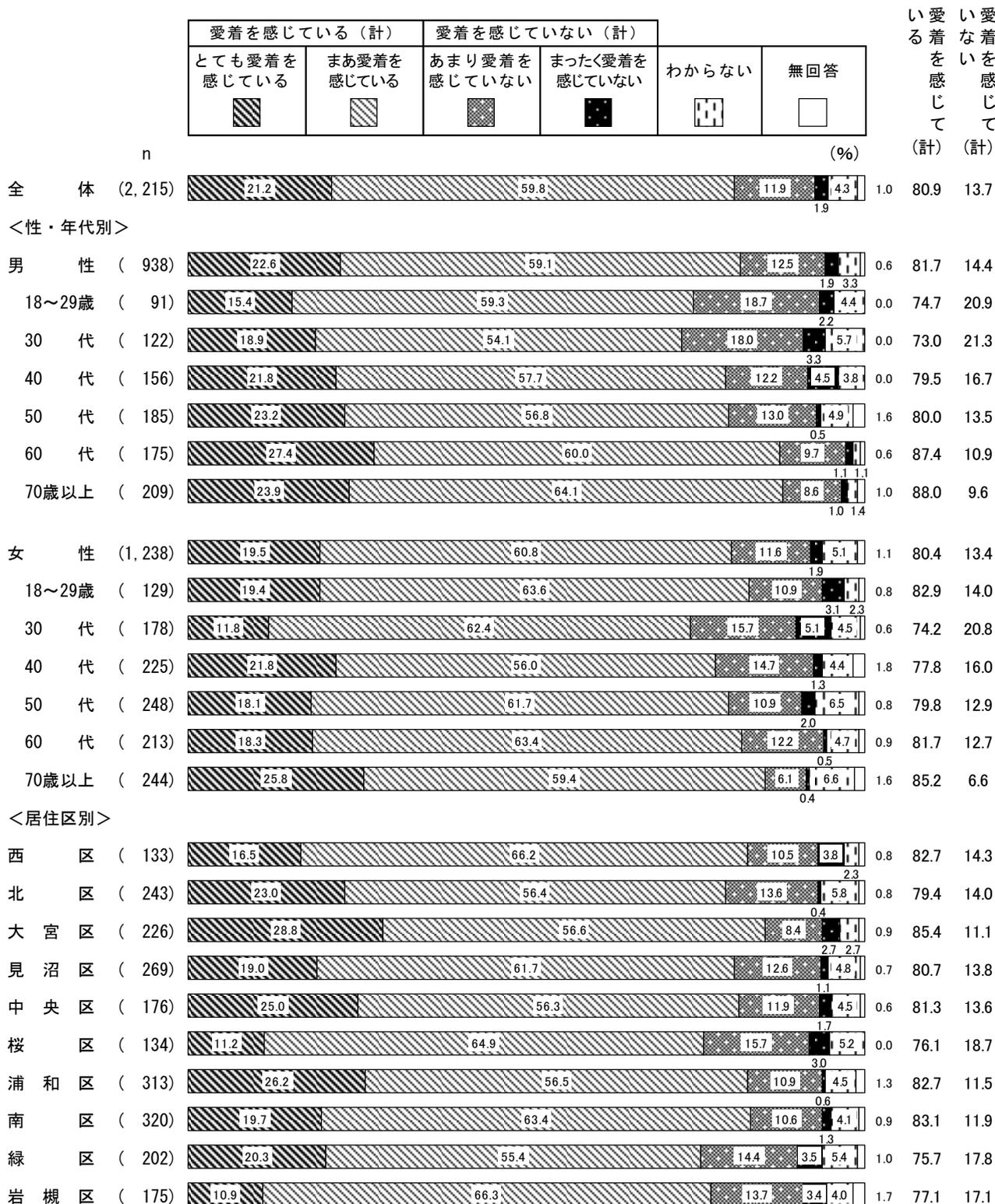


全体結果

「とても愛着を感じている」(21.2%)と「まあ愛着を感じている」(59.8%)を合わせた『愛着を感じている(計)』(80.9%)は、ほぼ8割であった。一方、「あまり愛着を感じていない」(11.9%)と「まったく愛着を感じていない」(1.9%)を合わせた『愛着を感じていない(計)』(13.7%)は、1割を超えた。

令和4年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-6-1)

図2-6-2 地域への愛着—性・年代別、居住区別—



属性別

性・年代別でみると、『愛着を感じている (計)』は、男女とも70歳以上が8割台で最も高かった。

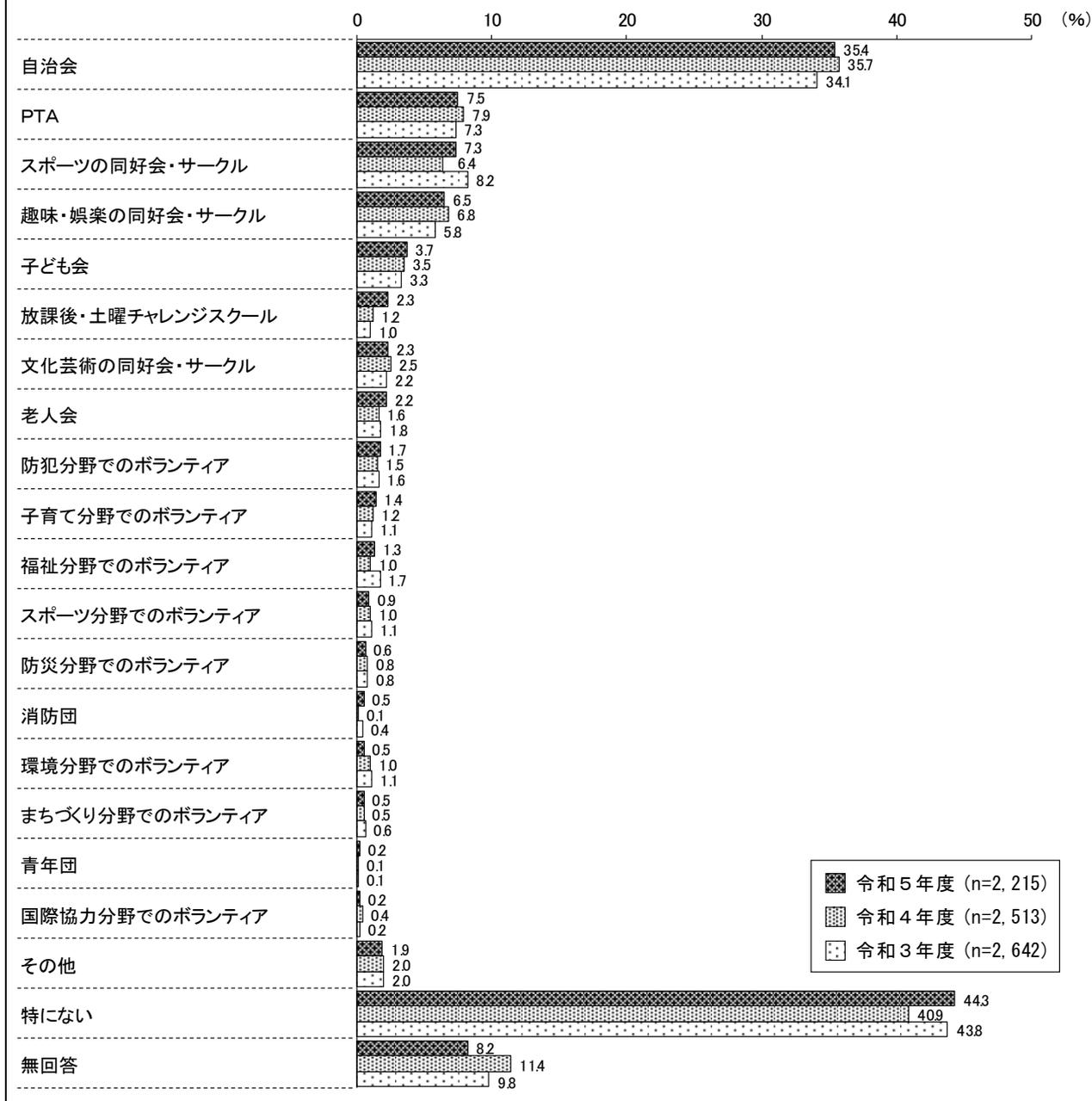
居住区別でみると、『愛着を感じている (計)』は、大宮区が85.4%で最も高く、南区(83.1%)、西区、浦和区(ともに82.7%)、中央区(81.3%)、見沼区(80.7%)で8割台であった。一方、緑区(75.7%)、桜区(76.1%)、岩槻区(77.1%)、北区(79.4%)は7割台であった。(図2-6-2)

(7) 現在参加している地域活動

問5 あなたは、どんな活動に参加していますか。

(1) 現在、参加しているすべての活動に○をつけてください。(○はいくつでも)

図2-7-1 現在参加している地域活動



全体結果

「自治会」(35.4%)が3割半ばで、それ以外の活動はいずれも1割未満であった。一方、「特にない」(44.3%)は、4割半ばであった。

過去2年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-7-1)

表 2-7-1 現在参加している地域活動－性・年代別、居住区別－（上位 10 項目）

(%)											
	n	自治会	P T A	サ ポ ー ツ の 同 好 会 ・ サ ー ク ル	・ 趣 味 ・ サ ー ク ル ・ サ ー ク ル の 同 好 会	子 ど も 会	放 課 後 ・ 土 曜 チ ャ レ ン ジ ス ク ー ル	文 化 芸 術 の 同 好 会 ・ サ ー ク ル	老 人 会	防 犯 分 野 で の ボ ラ ン テ ィ ア	子 育 て 分 野 で の ボ ラ ン テ ィ ア
全 体	2,215	35.4	7.5	7.3	6.5	3.7	2.3	2.3	2.2	1.7	1.4
<性・年代別>											
男 性	938	34.3	4.6	6.9	4.2	2.9	1.5	2.1	1.8	2.6	0.5
18～29歳	91	7.7	1.1	8.8	1.1	1.1	-	1.1	-	-	-
30 代	122	27.9	4.9	1.6	0.8	4.1	0.8	0.8	-	1.6	0.8
40 代	156	35.9	16.7	4.5	1.9	10.9	3.8	-	-	0.6	0.6
50 代	185	31.9	4.9	5.9	1.6	1.6	0.5	1.1	-	1.1	0.5
60 代	175	41.1	0.6	5.7	5.1	-	0.6	2.9	1.7	1.1	-
70歳以上	209	45.0	-	12.9	10.5	0.5	2.4	5.3	6.7	8.1	1.0
女 性	1,238	36.1	9.9	7.7	8.4	4.3	3.0	2.3	2.3	1.0	2.1
18～29歳	129	12.4	-	0.8	1.6	-	0.8	0.8	-	-	0.8
30 代	178	32.0	15.2	1.7	1.1	9.6	2.8	-	-	0.6	1.7
40 代	225	36.4	33.3	3.6	2.7	13.3	6.2	0.9	-	1.3	4.0
50 代	248	39.5	7.7	4.4	6.5	2.0	4.0	2.4	-	0.8	2.4
60 代	213	41.8	0.5	11.3	12.2	-	1.9	3.8	1.9	0.5	1.4
70歳以上	244	43.0	-	19.7	21.3	0.4	1.2	4.5	9.8	2.0	1.6
<居住区別>											
西 区	133	46.6	6.8	9.0	7.5	1.5	1.5	3.0	4.5	3.0	2.3
北 区	243	36.2	8.6	7.0	5.8	1.6	2.5	2.1	1.6	0.8	0.4
大 宮 区	226	34.5	7.5	7.5	5.8	1.3	2.2	3.1	3.5	2.7	0.9
見 沼 区	269	39.8	7.1	7.8	7.1	1.1	2.6	1.5	3.0	3.0	2.6
中 央 区	176	35.8	5.7	5.7	4.5	9.7	3.4	1.7	1.1	1.7	2.3
桜 区	134	29.1	6.7	5.2	6.7	-	0.7	3.0	3.7	1.5	2.2
浦 和 区	313	28.8	8.3	4.8	7.3	5.8	2.6	2.6	0.6	1.6	1.3
南 区	320	30.6	9.1	8.4	9.1	7.5	3.1	1.9	0.9	0.3	0.6
緑 区	202	43.1	7.9	8.4	5.0	4.5	2.0	2.5	0.5	1.0	1.0
岩 槻 区	175	36.6	5.1	9.7	4.6	0.6	1.1	2.3	4.0	2.3	1.7

属 性 別

性・年代別でみると、「自治会」は、男性 40 代以上、女性 30 代以上で 3 割を超え、男女とも 60 代以上で 4 割を超えた。一方、男性 18～29 歳は 1 割未満であった。また、「P T A」は、女性 40 代（33.3%）で 3 割を超えた。「スポーツの同好会・サークル」、「趣味・娯楽の同好会・サークル」は、女性 70 歳以上で 2 割前後であった。

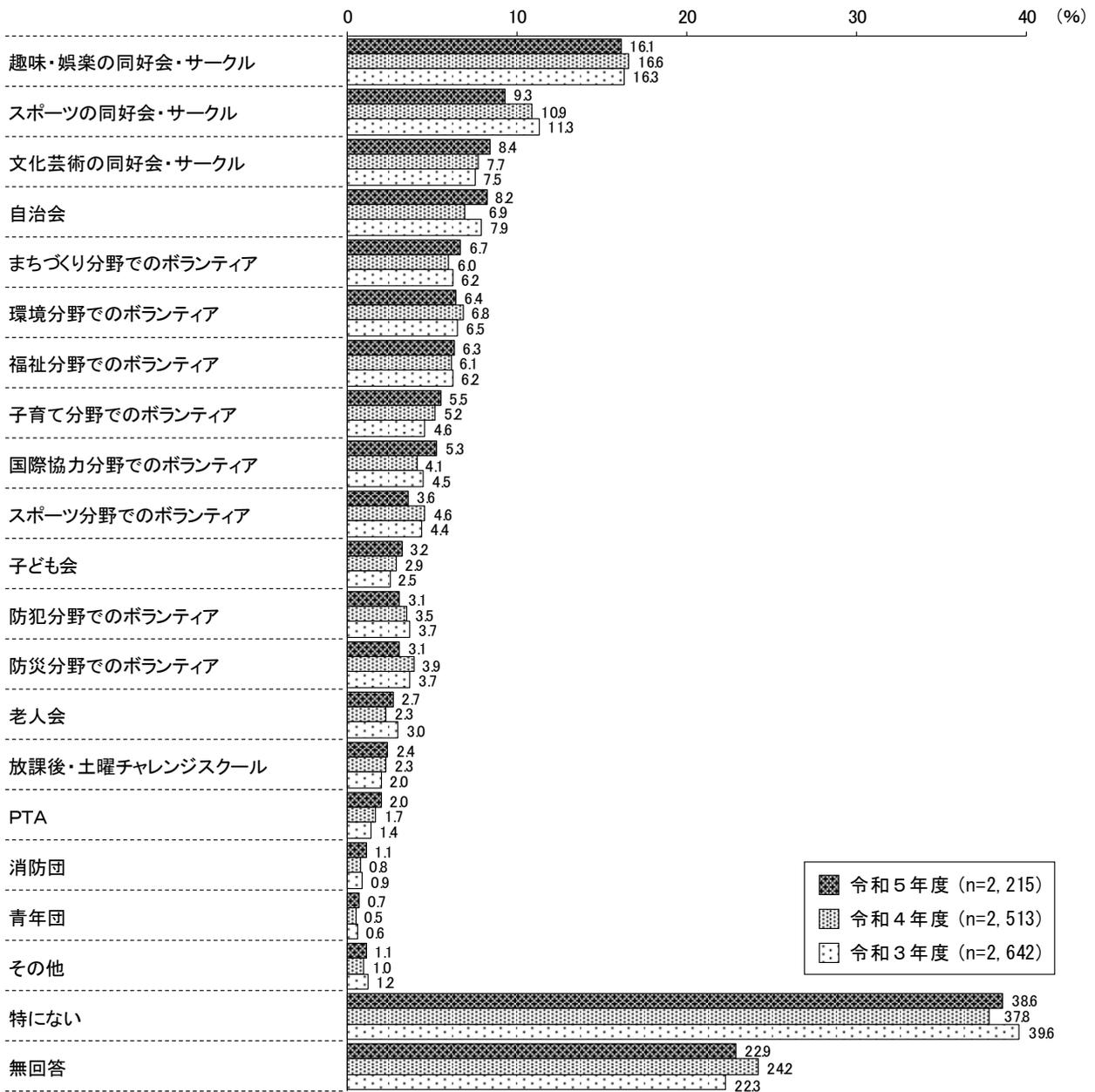
居住区別でみると、「自治会」は、西区が 46.6%で最も高く、緑区（43.1%）も 4 割を超えた。一方、浦和区（28.8%）、桜区（29.1%）は 2 割台であった。（表 2-7-1）

(8) 今後参加したい地域活動

問5 あなたは、どんな活動に参加していますか。

(2) 今後、参加したいと思うすべての活動に○をつけてください。引き続き参加したい活動も含みます。(○はいくつでも)

図2-8-1 今後参加したい地域活動



全体結果

「趣味・娯楽の同好会・サークル」(16.1%)が1割半ばで、それ以外の活動はいずれも1割未満であった。一方、「特にない」(38.6%)は、4割近くであった。

過去2年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-8-1)

表 2-8-1 今後参加したい地域活動－性・年代別、居住区別－（上位 10 項目）

(%)												
	n	会 趣 味 ・ サ ー ク ル の 同 好	サ ー ク ル の 同 好 会 ・	サ ー ク ル の 同 好 会 ・	自 治 会	ボ ラ ン テ ィ ア 分 野 で の	ま ち づ く り 分 野 で の	環 境 分 野 で の ボ ラ ン テ ィ ア	福 祉 分 野 で の ボ ラ ン テ ィ ア	子 育 て 分 野 で の ボ ラ ン テ ィ ア	国 際 協 力 分 野 で の ボ ラ ン テ ィ ア	ラ ス ポ ー テ ィ ア 分 野 で の ボ ラ ン テ ィ ア
全 体	2,215	16.1	9.3	8.4	8.2	6.7	6.4	6.3	5.5	5.3	3.6	
<性・年代別>												
男 性	938	12.9	8.6	6.1	8.1	7.8	6.8	4.8	3.9	5.8	4.7	
18～29歳	91	15.4	12.1	6.6	5.5	6.6	8.8	5.5	2.2	7.7	6.6	
30 代	122	5.7	8.2	0.8	7.4	4.9	3.3	2.5	7.4	3.3	4.1	
40 代	156	10.3	8.3	5.1	9.0	8.3	6.4	5.8	7.7	3.8	5.1	
50 代	185	8.6	6.5	4.3	7.6	11.9	8.1	4.9	4.9	8.1	5.9	
60 代	175	18.9	12.0	12.0	6.9	9.7	10.3	5.7	1.1	6.9	4.0	
70歳以上	209	16.7	6.7	6.2	10.5	4.3	4.3	4.3	1.4	4.8	3.3	
女 性	1,238	18.7	9.9	10.4	8.3	5.9	6.2	7.5	6.8	5.0	2.7	
18～29歳	129	9.3	11.6	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	7.8	9.3	4.7	
30 代	178	12.9	11.2	6.2	11.2	6.7	5.6	5.6	8.4	6.7	3.4	
40 代	225	15.1	7.6	8.0	6.2	8.9	7.1	8.0	11.6	5.3	2.7	
50 代	248	21.0	11.3	12.1	9.7	3.6	4.8	9.3	8.1	4.8	3.2	
60 代	213	26.8	9.9	17.4	9.9	7.5	8.5	9.4	5.2	4.2	2.3	
70歳以上	244	21.7	8.6	11.1	7.4	4.1	6.1	6.6	0.8	2.0	1.2	
<居住区別>												
西 区	133	15.0	7.5	7.5	8.3	8.3	5.3	3.8	2.3	4.5	4.5	
北 区	243	15.6	11.5	6.6	8.2	5.8	5.3	5.8	6.2	2.5	2.1	
大 宮 区	226	17.3	10.2	12.8	7.1	8.4	9.7	6.6	5.3	7.1	4.4	
見 沼 区	269	17.1	9.3	8.9	11.9	7.1	7.8	8.6	4.1	4.8	2.2	
中 央 区	176	16.5	8.5	5.1	6.8	4.5	5.1	7.4	7.4	3.4	4.5	
桜 区	134	14.2	9.7	6.0	8.2	4.5	4.5	3.0	3.0	3.0	3.7	
浦 和 区	313	14.1	10.9	9.9	7.7	9.9	6.7	6.7	4.8	8.3	4.2	
南 区	320	17.2	5.9	9.7	8.4	6.9	8.4	6.3	8.1	7.5	4.1	
緑 区	202	16.3	10.9	7.9	7.9	3.5	5.9	6.9	8.9	5.0	4.0	
岩 槻 区	175	17.7	9.1	6.9	6.3	5.1	1.7	5.1	2.3	2.9	2.3	

属 性 別

性・年代別でみると、「趣味・娯楽の同好会・サークル」は、女性 50 代以上で 2 割台であった。

居住区別でみると、現在参加率の高い「自治会」は、見沼区（11.9%）を除き 1 割未満であった。

（表 2-8-1）

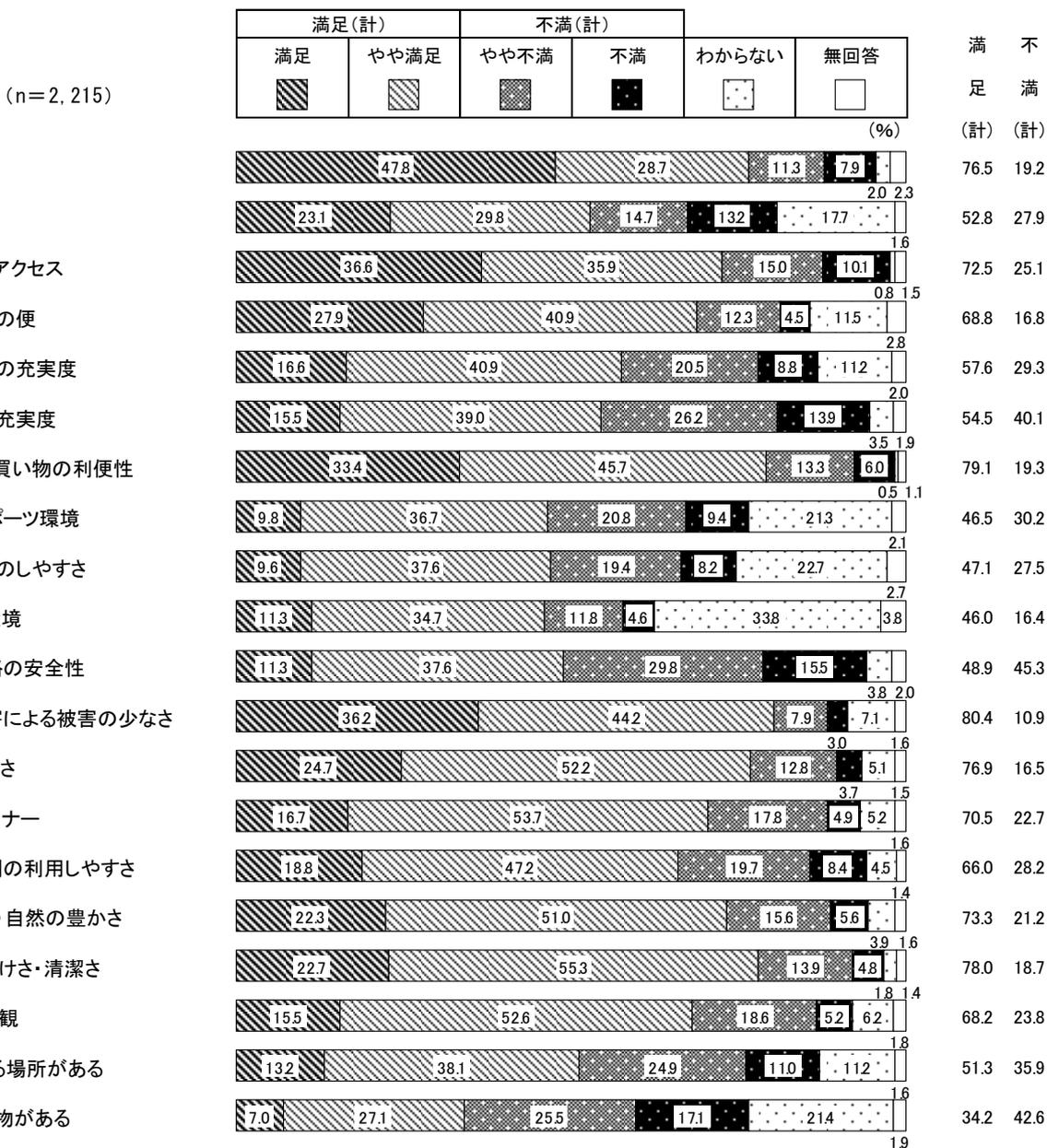
(9) 居住地域の満足度と今後の発展の方向性

問6 あなたの現在お住まいの「地域」について質問します。

(1) あなたは、お住まいの「地域」について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

図2-9-1 居住地域の満足度



全体結果

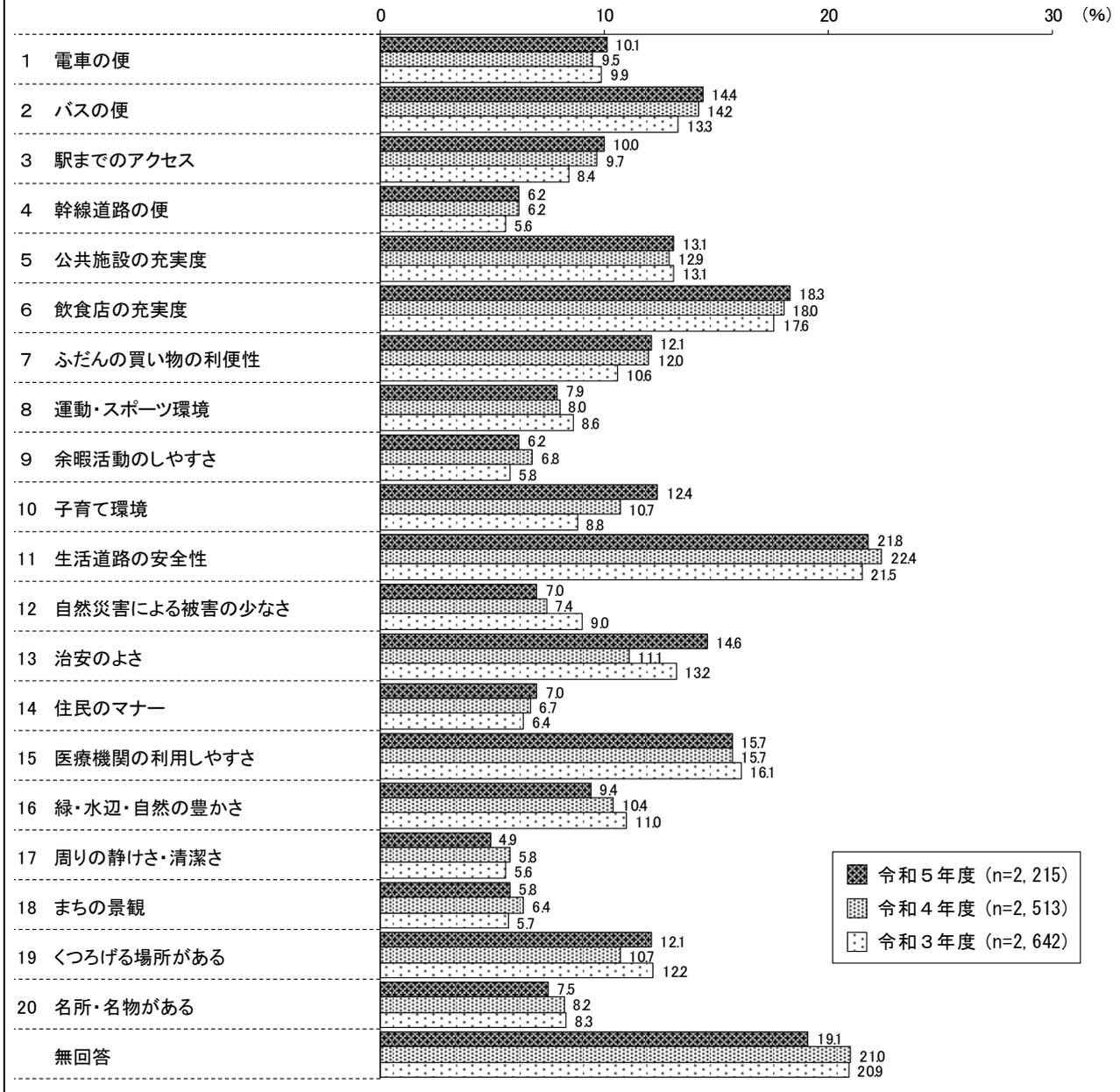
「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』は、「自然災害による被害の少なさ」が80.4%で最も高く、「ふだんの買い物の利便性」(79.1%)、「周りの静けさ・清潔さ」(78.0%)が続き、20項目中15項目が5割を超えた。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満(計)』は、「生活道路の安全性」が45.3%で最も高く、「名所・名物がある」(42.6%)、「飲食店の充実度」(40.1%)が続いた。

(図2-9-1)

問6 あなたの現在お住まいの「地域」について質問します。

(2) あなたは、お住まいの「地域」が、今後どのような方向へ発展してほしいと思いますか。
(〇は3つまで)

図2-9-2 居住地域の今後の発展の方向性



全体結果

「生活道路の安全性」が21.8%で最も高く、「飲食店の充実度」(18.3%)、「医療機関の利用しやすさ」(15.7%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「子育て環境」は増加傾向にある。(図2-9-2)

20項目に分けて質問した「居住地域の満足度」にあてはまる割合（「満足」、「やや満足」、「やや不満」、「不満」の4段階）を得点化し、スコアを算出して比較を行った。

満足	+ 2
やや満足	+ 1
わからない	0
やや不満	- 1
不満	- 2

居住地域の満足度と今後の発展の方向性は、表2-9-1に示した4分野・20項目を設定している。

表2-9-1 居住地域の満足度と今後の発展の方向性（質問項目）

分野	質問項目
交通便利	1 電車の便
	2 バスの便
	3 駅までのアクセス
	4 幹線道路の便
生活利便	5 公共施設の充実度
	6 飲食店の充実度
	7 ふだんの買い物の利便性
	8 運動・スポーツ環境
	9 余暇活動のしやすさ
	10 子育て環境
安心・安全	11 生活道路の安全性
	12 自然災害による被害の少なさ
	13 治安のよさ
	14 住民のマナー
	15 医療機関の利用しやすさ
快適さ・親しみ	16 緑・水辺・自然の豊かさ
	17 周りの静けさ・清潔さ
	18 まちの景観
	19 くつろげる場所がある
	20 名所・名物がある

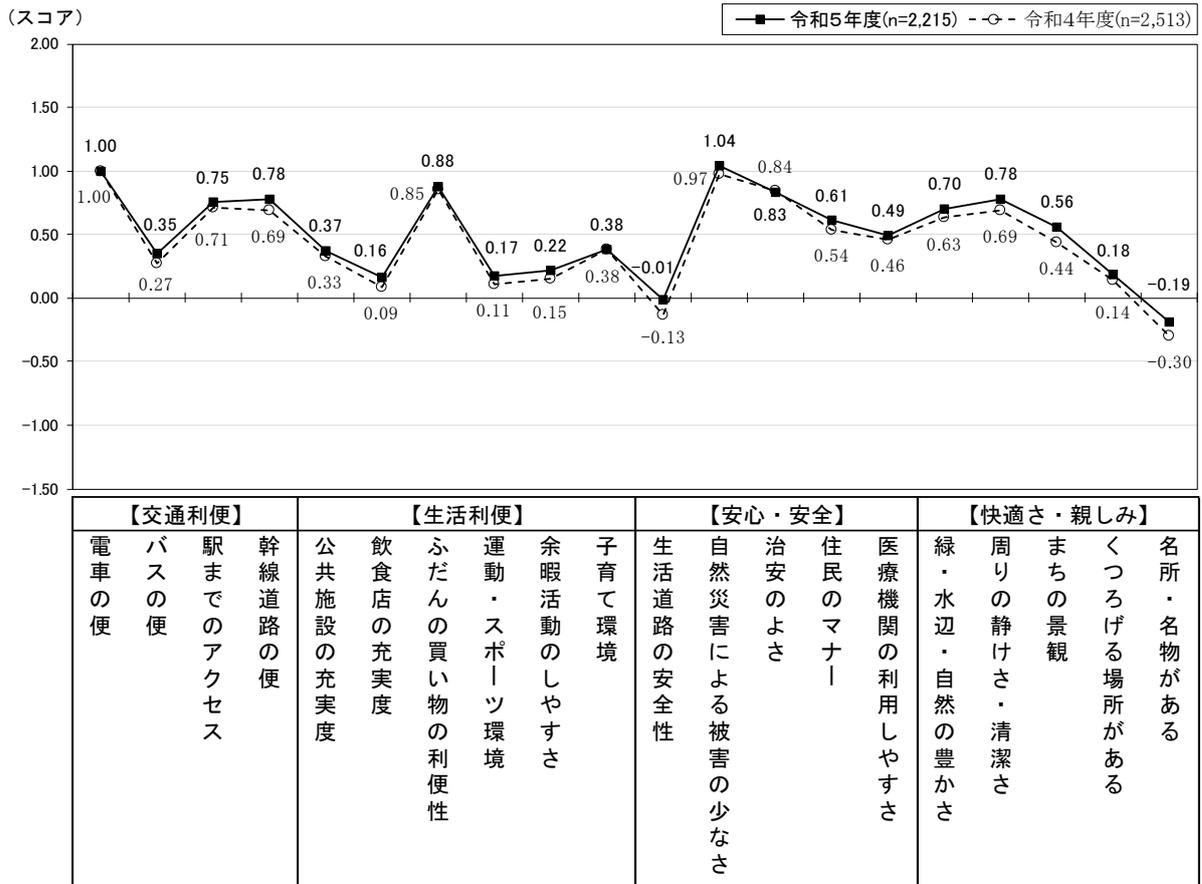
「居住地域の満足度」のスコアを算出した結果は表 2-9-2 のとおりである。「居住地域の今後の発展の方向性」の回答比率と合わせて示した。

表 2-9-2 居住地域の満足度と今後の発展の方向性（全体結果）

分野	質問項目	(1) 居住地域の満足度	(2) 今後の発展の方向性 (%)
交通利便	1 電車の便	1.00	10.1
	2 バスの便	0.35	14.4
	3 駅までのアクセス	0.75	10.0
	4 幹線道路の便	0.78	6.2
生活利便	5 公共施設の充実度	0.37	13.1
	6 飲食店の充実度	0.16	18.3
	7 ふだんの買い物の利便性	0.88	12.1
	8 運動・スポーツ環境	0.17	7.9
	9 余暇活動のしやすさ	0.22	6.2
	10 子育て環境	0.38	12.4
安心・安全	11 生活道路の安全性	-0.01	21.8
	12 自然災害による被害の少なさ	1.04	7.0
	13 治安のよさ	0.83	14.6
	14 住民のマナー	0.61	7.0
	15 医療機関の利用しやすさ	0.49	15.7
快適さ・ 親しみ	16 緑・水辺・自然の豊かさ	0.70	9.4
	17 周りの静けさ・清潔さ	0.78	4.9
	18 まちの景観	0.56	5.8
	19 くつろげる場所がある	0.18	12.1
	20 名所・名物がある	-0.19	7.5

図 2-9-3～図 2-9-24 は、「居住地域の満足度」のスコアと、「居住地域の今後の発展の方向性」の回答比率を、全体結果および居住区別に算出したものである。

図 2-9-3 居住地域の満足度（全体結果）



令和5年度

満足(計)(%)	76.5	52.8	72.5	68.8	57.6	54.5	79.1	46.5	47.1	46.0	48.9	80.4	76.9	70.5	66.0	73.3	78.0	68.2	51.3	34.2
不満(計)(%)	19.2	27.9	25.1	16.8	29.3	40.1	19.3	30.2	27.5	16.4	45.3	10.9	16.5	22.7	28.2	21.2	18.7	23.8	35.9	42.6

令和4年度

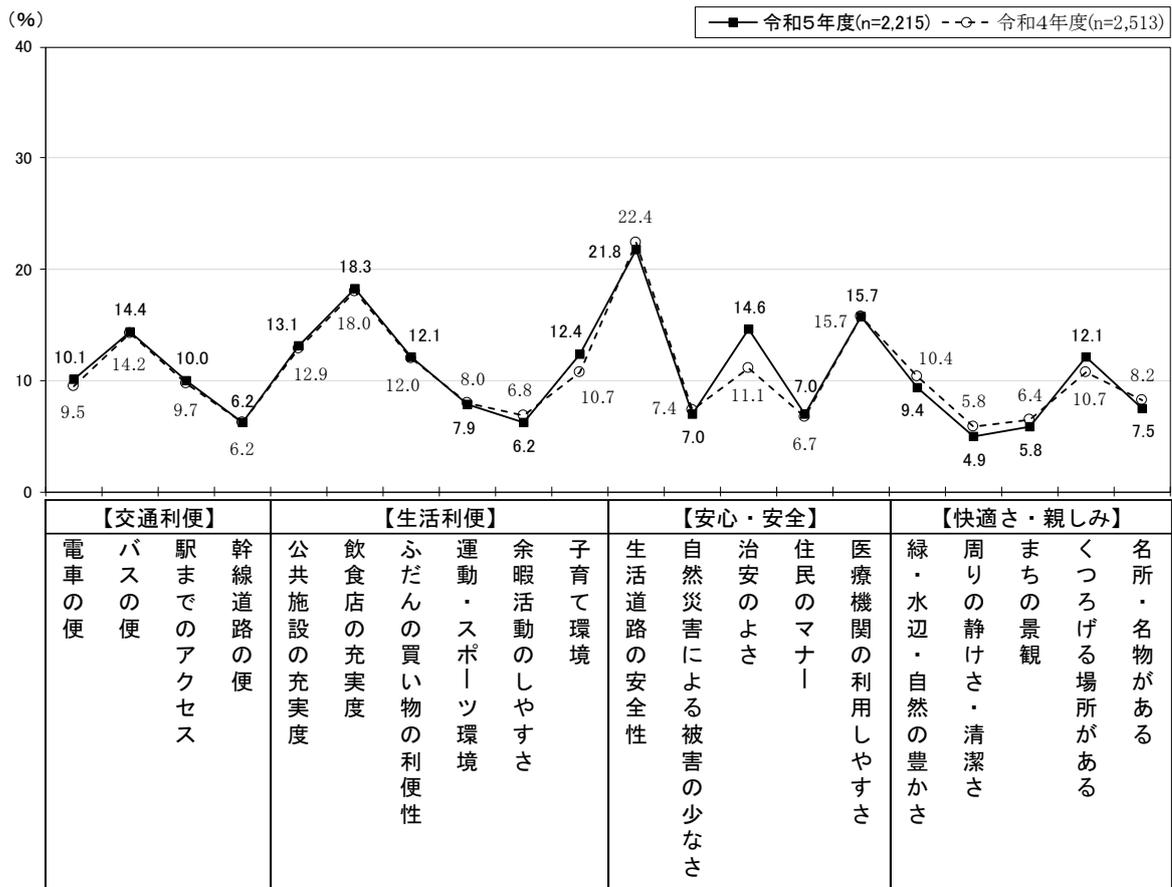
満足(計)(%)	76.7	48.0	69.7	65.3	55.6	50.9	76.9	42.1	42.8	44.3	44.6	76.5	76.8	67.2	63.5	69.5	73.6	62.8	48.8	28.4
不満(計)(%)	18.9	30.0	27.1	19.1	29.4	42.1	21.1	32.4	29.9	15.3	49.3	12.8	16.8	24.8	29.6	24.6	22.9	29.0	37.3	45.4

全体結果

居住地域の満足度をスコアで見ると、「自然災害による被害の少なさ」が 1.04 で最も高く、「電車の便」(1.00)、「ふだんの買い物の利便性」(0.88)が続いた。「名所・名物がある」(-0.19)、「生活道路の安全性」(-0.01)はマイナスとなった。

令和4年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2-9-3)

図2-9-4 居住地域の今後の発展の方向性（全体結果）



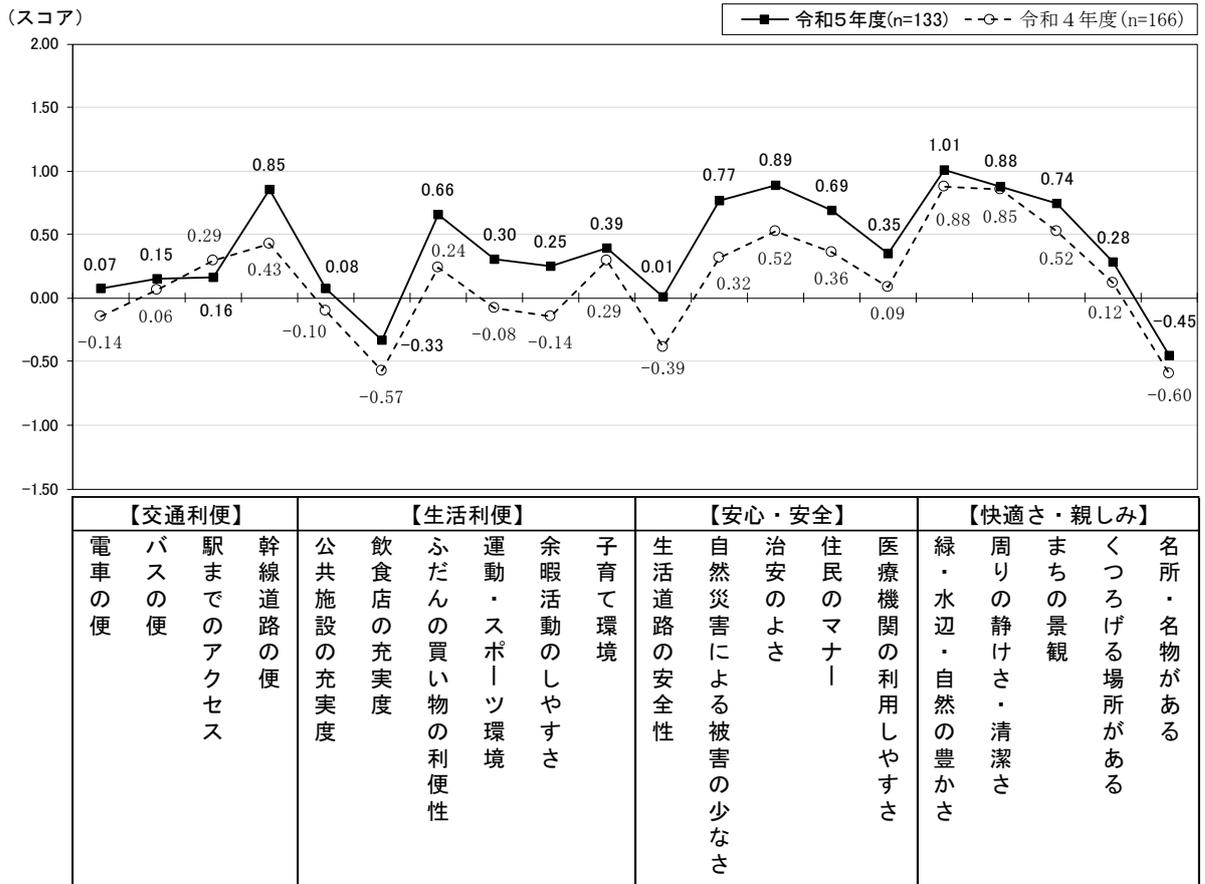
全体結果

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が21.8%で最も高く、「飲食店の充実度」(18.3%)、「医療機関の利用しやすさ」(15.7%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」(14.6%)は3.5ポイント増加した。

(図2-9-4)

図 2-9-5 居住地域の満足度（西区）



令和5年度

満足(計)(%)	48.9	51.1	55.6	74.4	50.4	37.6	74.4	52.6	48.9	48.9	52.6	72.9	81.2	72.2	58.6	84.2	80.5	74.4	51.9	24.8
不満(計)(%)	43.6	36.1	42.9	12.8	37.6	57.9	23.3	25.6	25.6	12.8	40.6	15.8	13.5	20.3	31.6	10.5	15.0	14.3	29.3	52.6

令和4年度

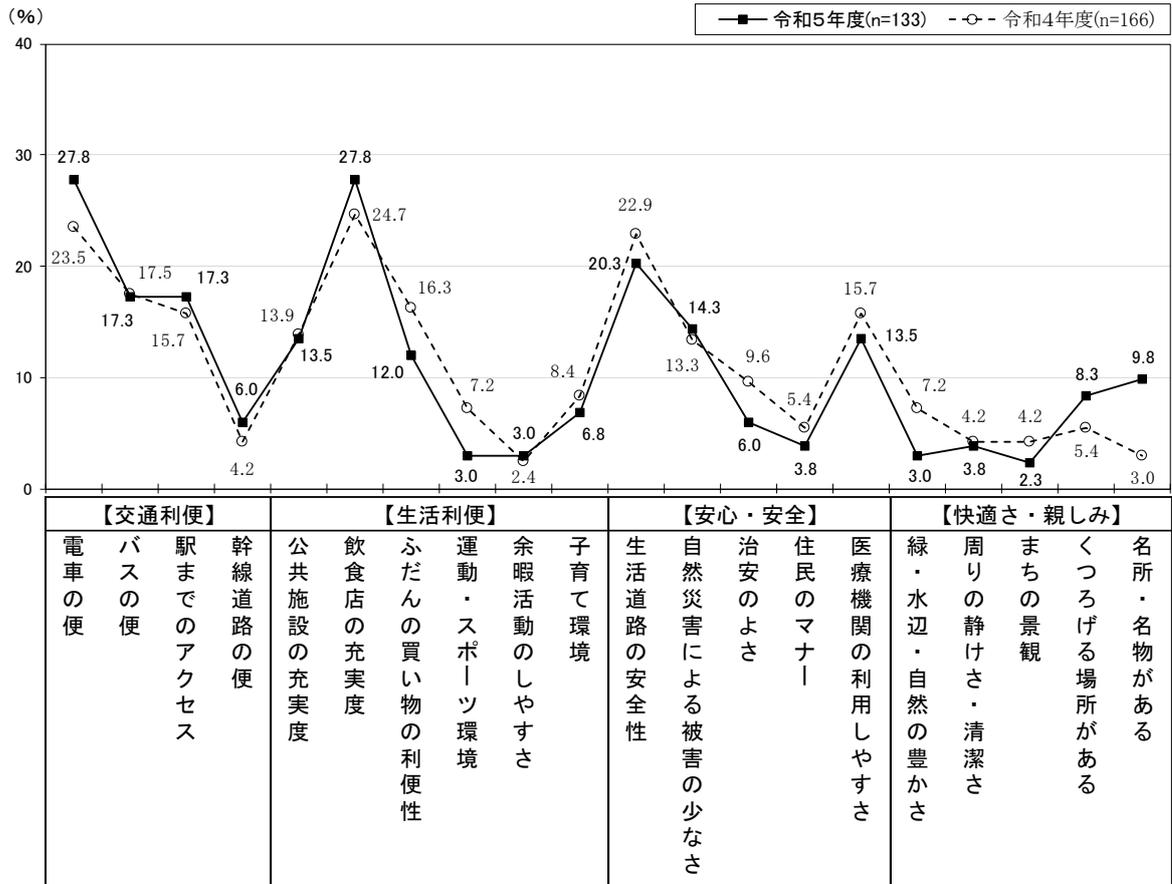
満足(計)(%)	42.8	44.0	58.4	58.4	40.4	29.5	59.6	34.9	31.9	44.6	35.5	54.8	65.1	60.8	50.6	76.5	78.3	62.7	48.8	17.5
不満(計)(%)	48.8	36.7	38.0	27.1	43.4	62.7	38.0	38.0	36.7	18.7	54.8	33.1	25.9	31.9	39.2	16.9	17.5	25.9	36.7	53.0

西 区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「緑・水辺・自然の豊かさ」が1.01で最も高く、「治安のよさ」(0.89)、「周りの静けさ・清潔さ」(0.88)が続いた。「名所・名物がある」(-0.45)、「飲食店の充実度」(-0.33)はマイナスとなった。

令和4年度の調査結果と比較すると、「駅までのアクセス」を除く項目が令和4年度を上回り、「自然災害による被害の少なさ」(0.77)は0.45ポイント、「幹線道路の便」(0.85)、「ふだんの買い物の利便性」(0.66)は0.42ポイント、「生活道路の安全性」(0.01)は0.4ポイント増加した。また、【生活利便】、【安心・安全】分野が全体的に増加した。(図2-9-5)

図2-9-6 居住地域の今後の発展の方向性（西区）

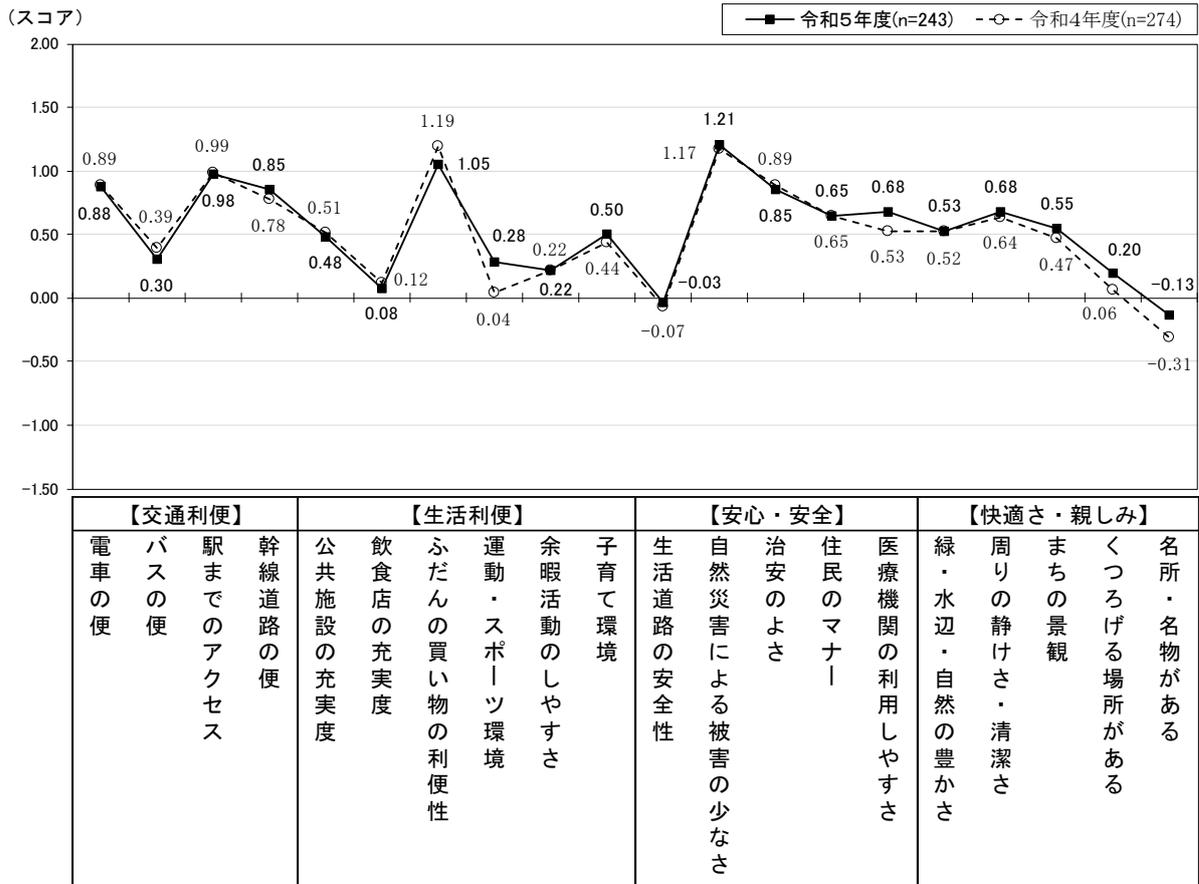


西 区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「電車の便」、「飲食店の充実度」がともに 27.8%で最も高く、「生活道路の安全性」(20.3%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「名所・名物がある」(9.8%)は6.8ポイント、「電車の便」は4.3ポイント増加した。一方、「ふだんの買い物の利便性」(12.0%)は4.3ポイント、「運動・スポーツ環境」、「緑・水辺・自然の豊かさ」(ともに3.0%)は4.2ポイント減少した。(図2-9-6)

図 2-9-7 居住地域の満足度（北区）



令和5年度

満足(計)(%)	74.1	49.8	78.6	71.6	60.9	51.9	84.8	47.3	46.5	50.2	46.1	83.1	77.4	71.2	73.3	67.1	74.1	67.5	51.9	36.6
不満(計)(%)	23.0	25.9	18.5	15.2	27.2	42.0	13.6	25.1	25.9	11.9	46.9	7.4	15.2	21.0	20.2	25.9	22.2	24.3	34.2	40.3

令和4年度

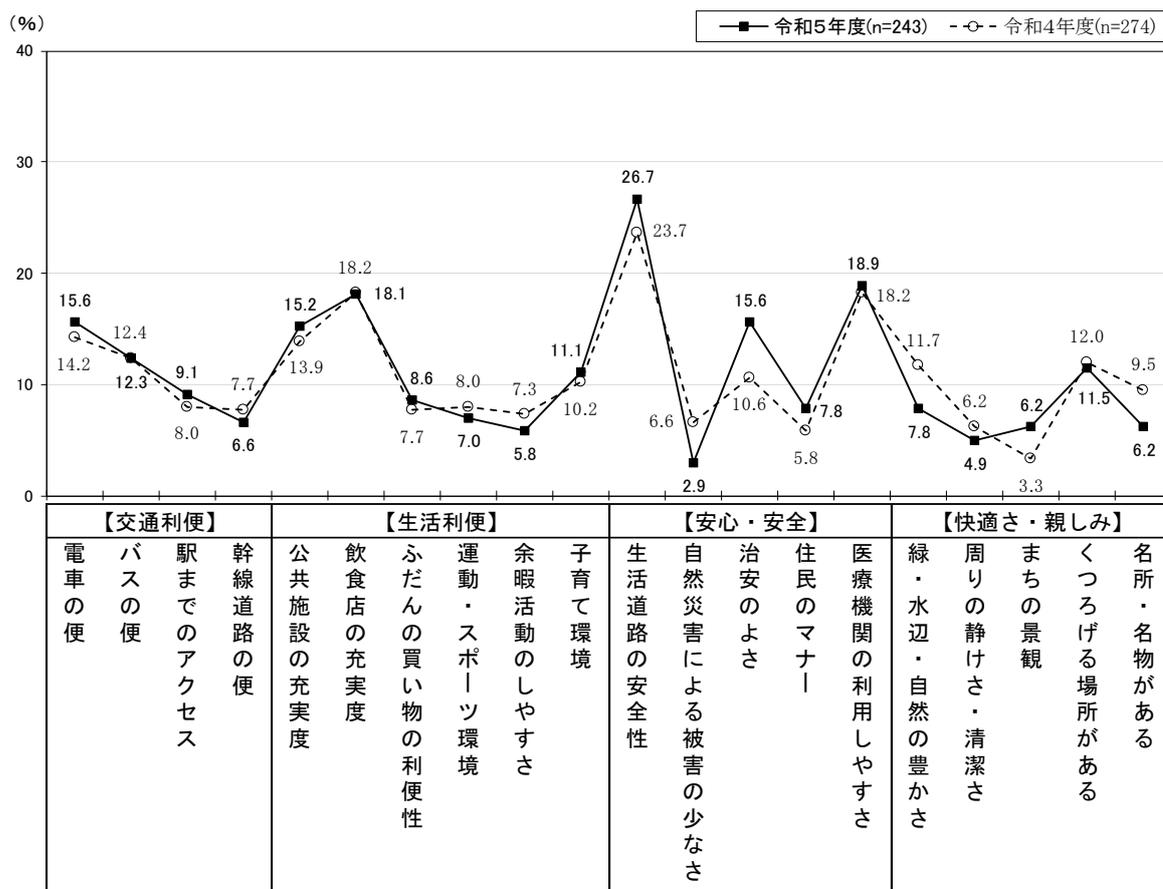
満足(計)(%)	75.9	51.5	79.6	69.0	61.3	54.0	88.3	39.1	45.6	47.8	45.3	84.3	79.9	71.2	67.9	65.3	73.7	65.7	46.0	28.1
不満(計)(%)	20.8	25.9	18.6	16.1	25.2	40.1	10.2	35.0	30.3	13.1	49.6	6.9	15.0	20.8	27.0	28.1	24.1	27.0	41.6	44.5

北 区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「自然災害による被害の少なさ」が1.21で最も高く、「ふだんの買い物の利便性」(1.05)、「駅までのアクセス」(0.98)が続いた。「名所・名物がある」(-0.13)、「生活道路の安全性」(-0.03)はマイナスとなった。

令和4年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-9-7)

図2-9-8 居住地域の今後の発展の方向性（北区）

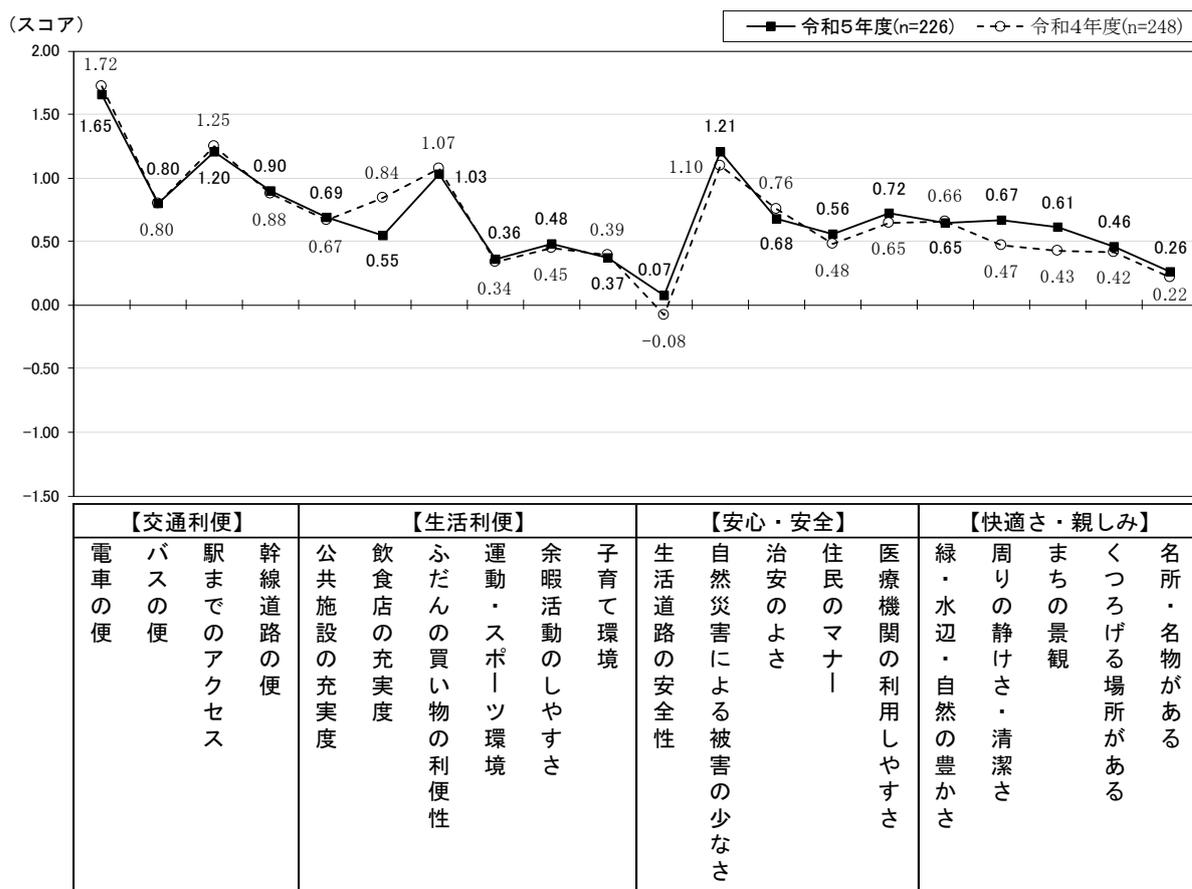


北 区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が26.7%で最も高く、「医療機関の利用しやすさ」(18.9%)、「飲食店の充実度」(18.1%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」(15.6%)は5.0ポイント増加した。一方、「緑・水辺・自然の豊かさ」(7.8%)は3.9ポイント、「自然災害による被害の少なさ」(2.9%)は3.7ポイント減少した。(図2-9-8)

図 2-9-9 居住地域の満足度（大宮区）



令和5年度

満足(計)(%)	89.8	64.2	83.6	70.8	68.6	66.4	82.3	53.5	58.8	42.9	50.0	87.2	71.7	69.0	73.0	70.4	73.5	71.2	63.3	52.2
不満(計)(%)	6.2	19.0	14.6	13.7	18.1	29.2	16.8	24.8	20.4	15.9	42.9	6.2	22.1	25.2	21.2	23.0	23.9	22.6	26.5	33.6

令和4年度

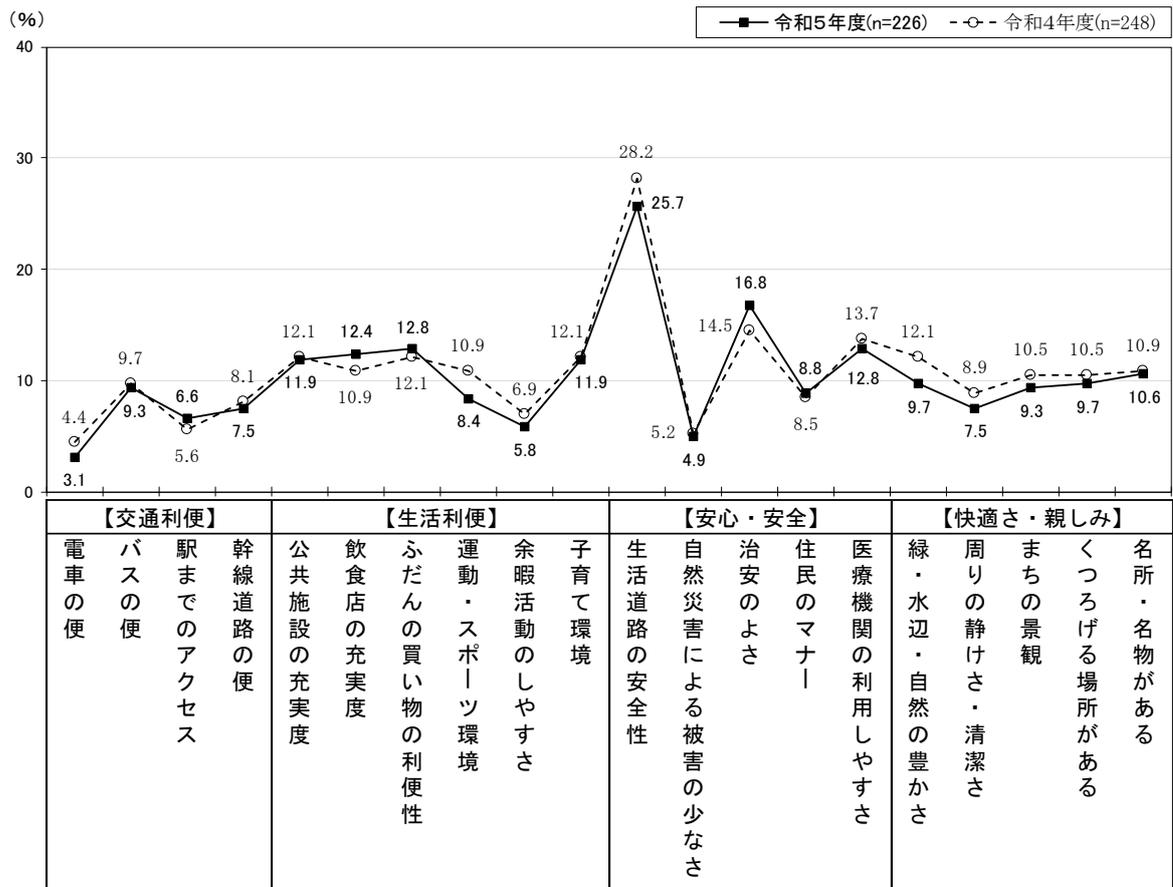
満足(計)(%)	93.5	61.3	83.5	71.4	64.5	73.4	81.5	52.4	55.2	43.1	46.0	80.6	74.2	64.9	69.4	70.6	65.7	62.9	58.1	47.6
不満(計)(%)	2.8	18.1	14.5	17.7	20.2	19.8	16.5	24.2	21.8	14.1	48.4	8.1	19.4	27.0	21.8	23.4	31.0	27.8	29.4	30.6

大宮区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「電車の便」が 1.65 で最も高く、「自然災害による被害の少なさ」(1.21)、「駅までのアクセス」(1.20)が続いた。マイナスとなった項目はなく、【交通利便】分野が特に高かった。

令和4年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2-9-9)

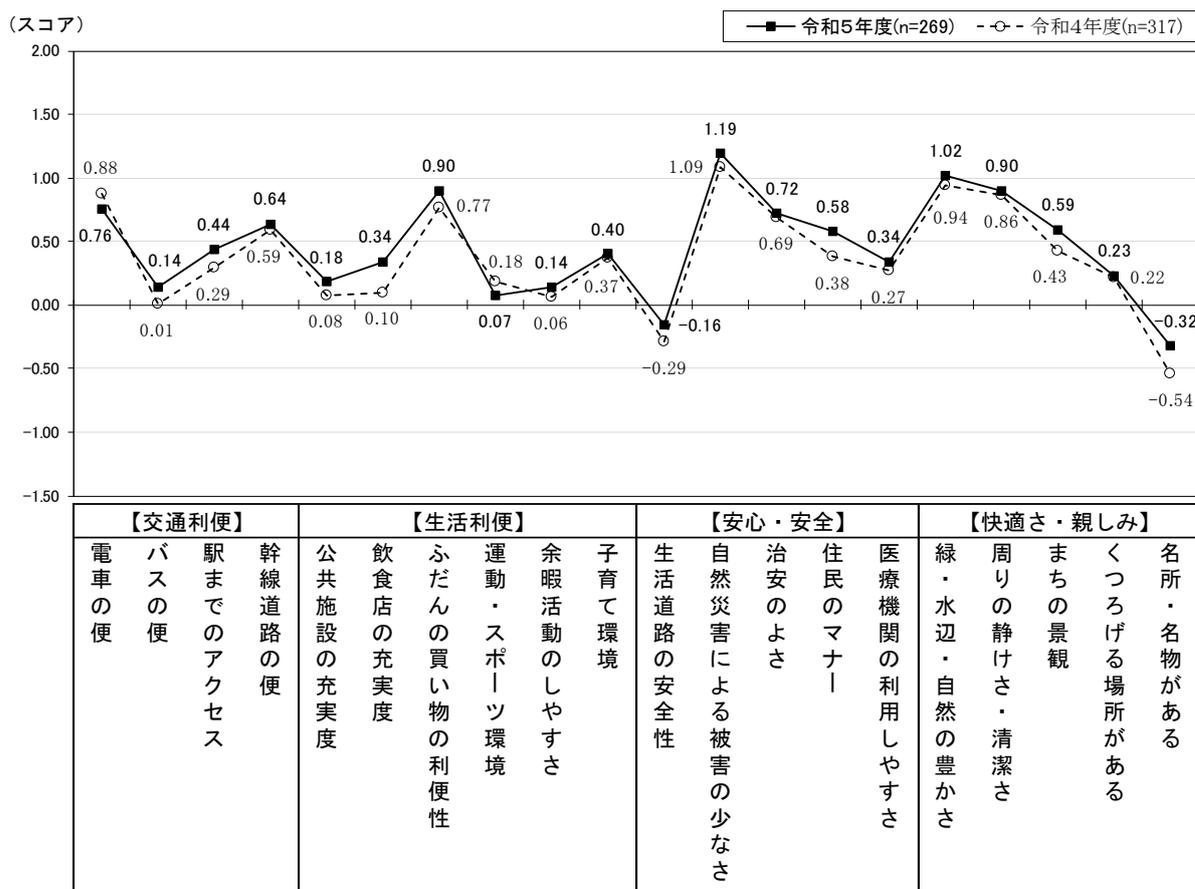
図2-9-10 居住地域の今後の発展の方向性（大宮区）



大宮区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が 25.7%で最も高く、「治安のよさ」(16.8%)、「ふだんの買い物の利便性」、「医療機関の利用しやすさ」(ともに 12.8%)が続いた。令和4年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-9-10)

図 2-9-11 居住地域の満足度（見沼区）



令和5年度

満足(計)(%)	70.6	45.4	63.2	63.9	48.7	58.0	80.3	43.1	44.6	46.5	43.5	86.2	72.9	68.4	62.1	84.4	82.2	69.5	52.0	28.6
不満(計)(%)	23.8	34.2	33.8	21.6	35.7	34.9	18.6	34.9	29.0	16.7	50.2	7.1	18.6	21.9	34.2	10.8	15.2	23.0	34.6	45.0

令和4年度

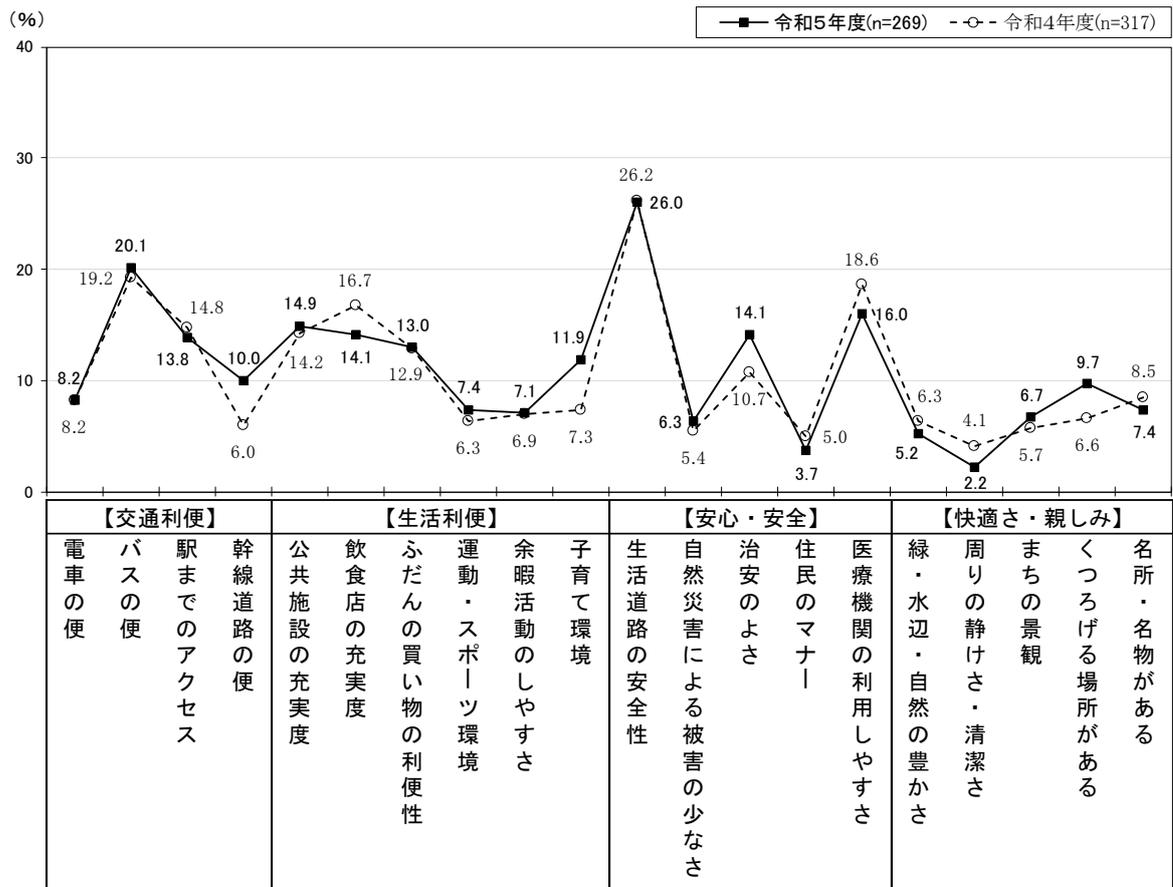
満足(計)(%)	73.8	40.7	56.8	61.8	45.4	52.1	75.1	43.5	39.7	43.2	37.9	80.1	71.9	60.6	56.5	78.9	79.5	62.5	51.4	20.8
不満(計)(%)	20.2	35.6	38.2	21.1	38.2	40.1	22.7	29.3	30.6	15.1	53.6	10.4	20.8	29.7	36.9	16.4	16.1	29.3	33.4	53.3

見沼区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「自然災害による被害の少なさ」が 1.19 で最も高く、「緑・水辺・自然の豊かさ」(1.02)、「ふだんの買い物の利便性」、「周りの静けさ・清潔さ」(ともに 0.90) が続いた。「名所・名物がある」(-0.32)、「生活道路の安全性」(-0.16) はマイナスとなった。

令和 4 年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2-9-11)

図2-9-12 居住地域の今後の発展の方向性（見沼区）

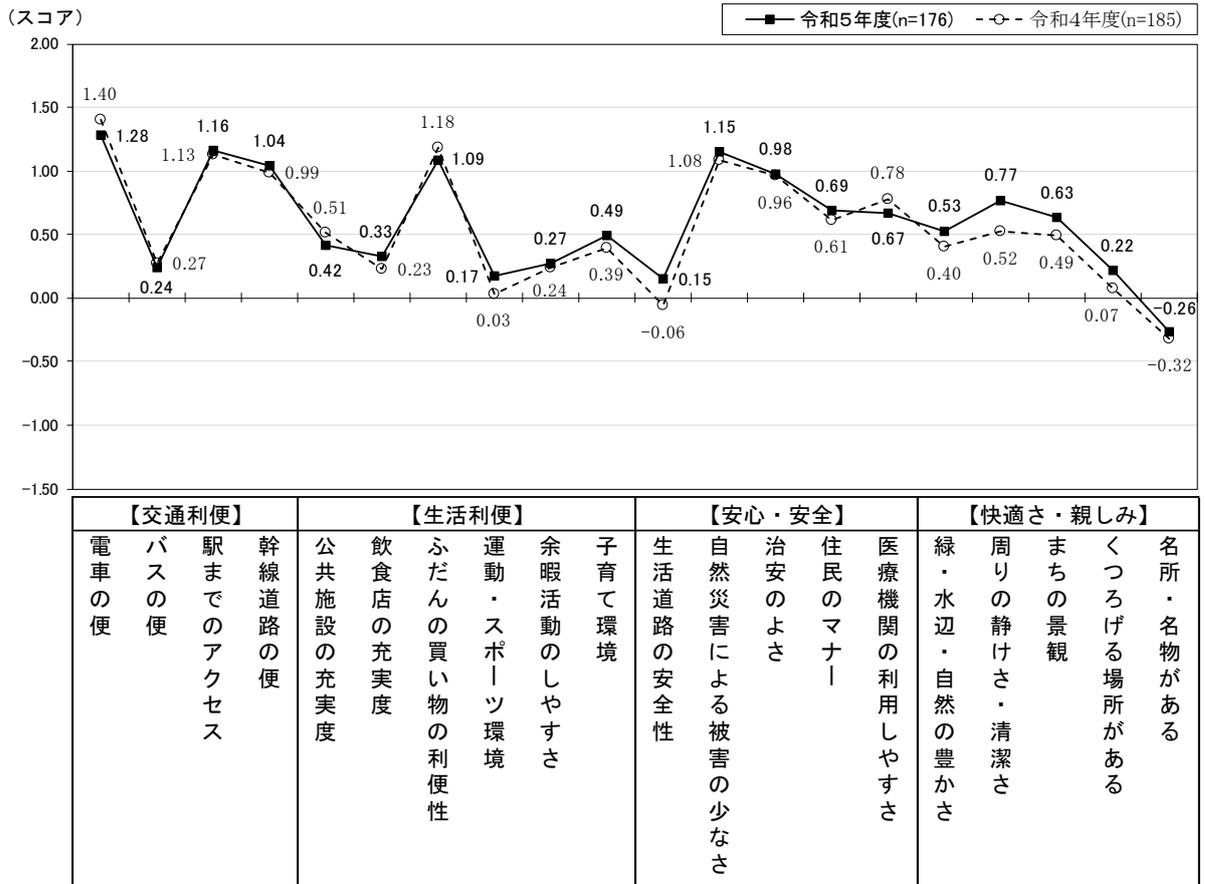


見沼区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が26.0%で最も高く、「バスの便」(20.1%)、「医療機関の利用しやすさ」(16.0%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「子育て環境」(11.9%)は4.6ポイント、「幹線道路の便」(10.0%)は4.0ポイント増加した。(図2-9-12)

図 2-9-13 居住地域の満足度（中央区）



令和5年度

満足(計)(%)	85.8	43.2	83.0	78.4	59.1	61.4	85.2	43.2	50.0	52.8	52.3	82.4	83.0	75.0	71.6	68.8	80.1	72.2	54.5	32.4
不満(計)(%)	11.9	24.4	15.3	12.5	27.8	36.4	13.1	29.5	25.6	13.6	42.0	9.1	13.1	21.0	23.3	28.4	18.8	21.6	35.8	48.9

令和4年度

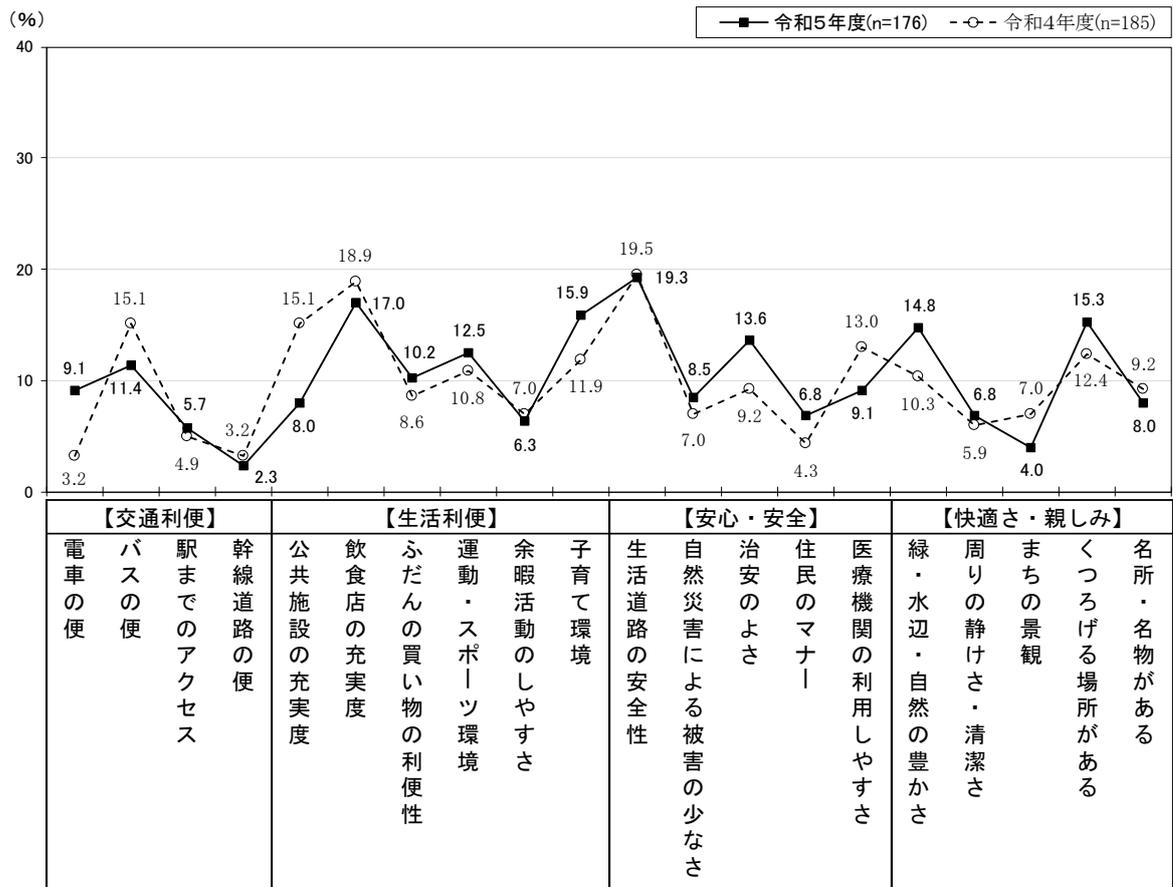
満足(計)(%)	88.1	44.3	81.1	71.4	62.7	56.8	85.9	38.9	47.6	44.9	47.0	82.7	80.5	71.9	74.1	63.2	68.1	67.6	49.2	30.8
不満(計)(%)	9.7	27.0	17.3	11.9	23.8	37.8	12.4	34.6	25.4	14.1	47.0	11.4	14.6	22.7	19.5	31.9	30.3	28.1	40.0	49.7

中央区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「電車の便」が1.28で最も高く、「駅までのアクセス」(1.16)、「自然災害による被害の少なさ」(1.15)が続いた。「名所・名物がある」(-0.26)のみマイナスとなり、【交通利便】分野が高かった。

令和4年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図2-9-13)

図2-9-14 居住地域の今後の発展の方向性（中央区）

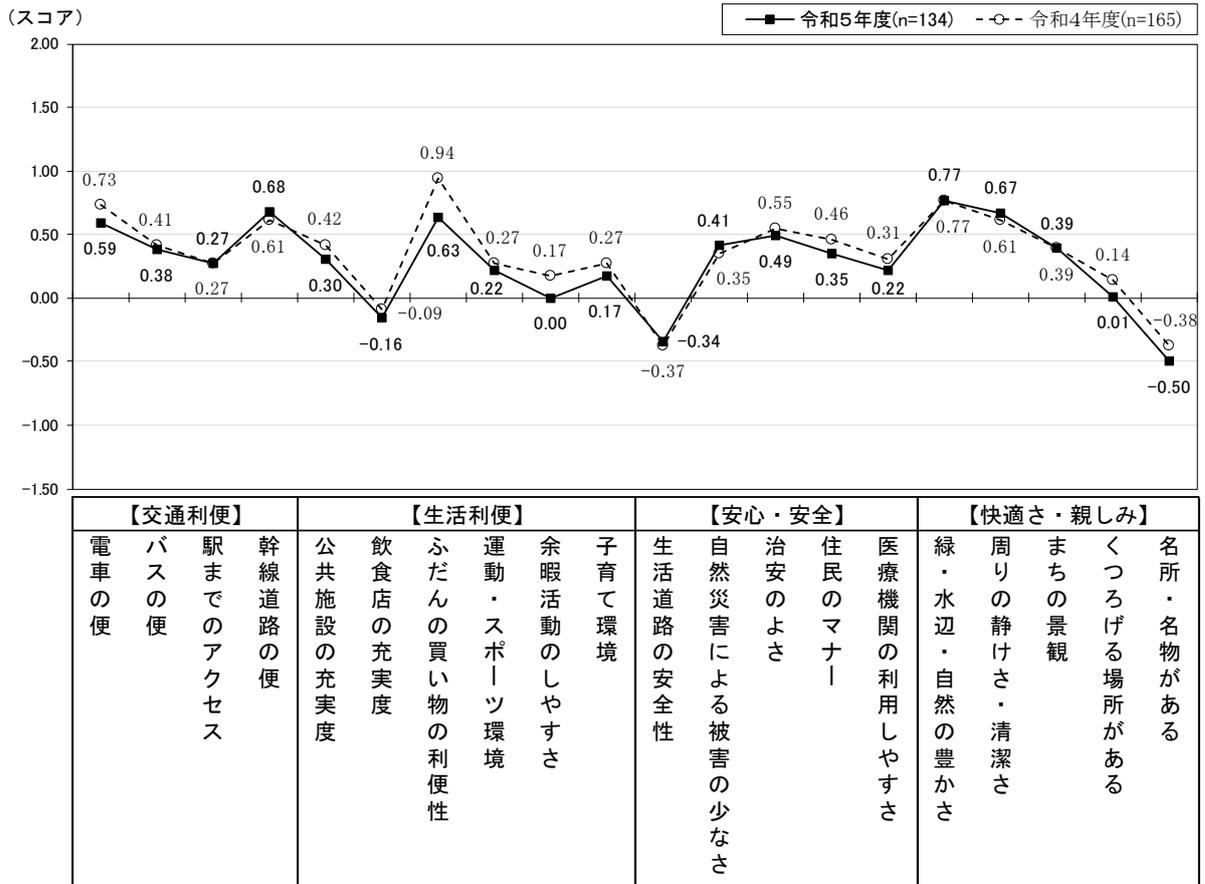


中央区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が19.3%で最も高く、「飲食店の充実度」(17.0%)、「子育て環境」(15.9%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「電車の便」(9.1%)は5.9ポイント、「緑・水辺・自然の豊かさ」(14.8%)は4.5ポイント、「治安のよさ」(13.6%)は4.4ポイント、「子育て環境」は4.0ポイント増加した。一方、「公共施設の充実度」(8.0%)は7.1ポイント、「医療機関の利用しやすさ」(9.1%)は3.9ポイント、「バスの便」(11.4%)は3.7ポイント減少した。(図2-9-14)

図2-9-15 居住地域の満足度（桜区）



令和5年度

満足(計)(%)	67.2	59.0	57.5	65.7	56.7	44.8	70.9	44.8	33.6	35.1	37.3	62.7	67.9	61.9	55.2	74.6	73.1	58.2	40.3	18.7
不満(計)(%)	26.9	34.3	41.0	20.1	31.3	50.7	26.9	25.4	32.8	17.9	58.2	29.9	24.6	28.4	36.6	20.9	20.9	29.9	39.6	46.3

令和4年度

満足(計)(%)	71.5	56.4	58.2	66.7	56.4	42.4	78.8	43.0	43.0	37.0	35.8	56.4	67.3	62.4	56.4	75.8	70.3	58.8	45.5	17.6
不満(計)(%)	23.0	28.5	36.4	19.4	21.8	47.3	17.6	27.9	28.5	16.4	56.4	26.7	23.6	24.8	33.3	17.6	22.4	25.5	35.2	41.8

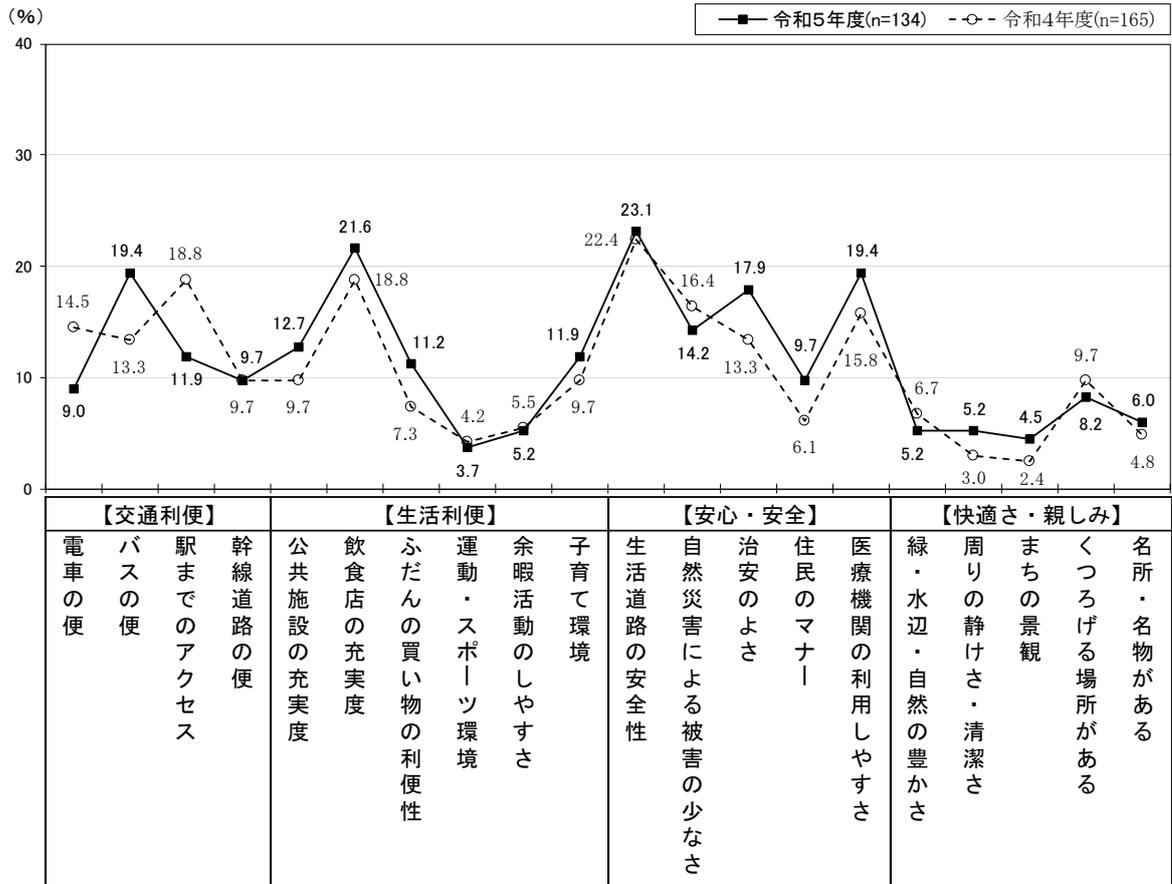
桜区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「緑・水辺・自然の豊かさ」が0.77で最も高く、「幹線道路の便」(0.68)、「周りの静けさ・清潔さ」(0.67)が続いた。「名所・名物がある」(-0.50)、「生活道路の安全性」(-0.34)、「飲食店の充実度」(-0.16)はマイナスとなった。

令和4年度の調査結果と比較すると、「ふだんの買い物の利便性」(0.63)は0.31ポイント減少した。

(図2-9-15)

図 2-9-16 居住地域の今後の発展の方向性（桜区）

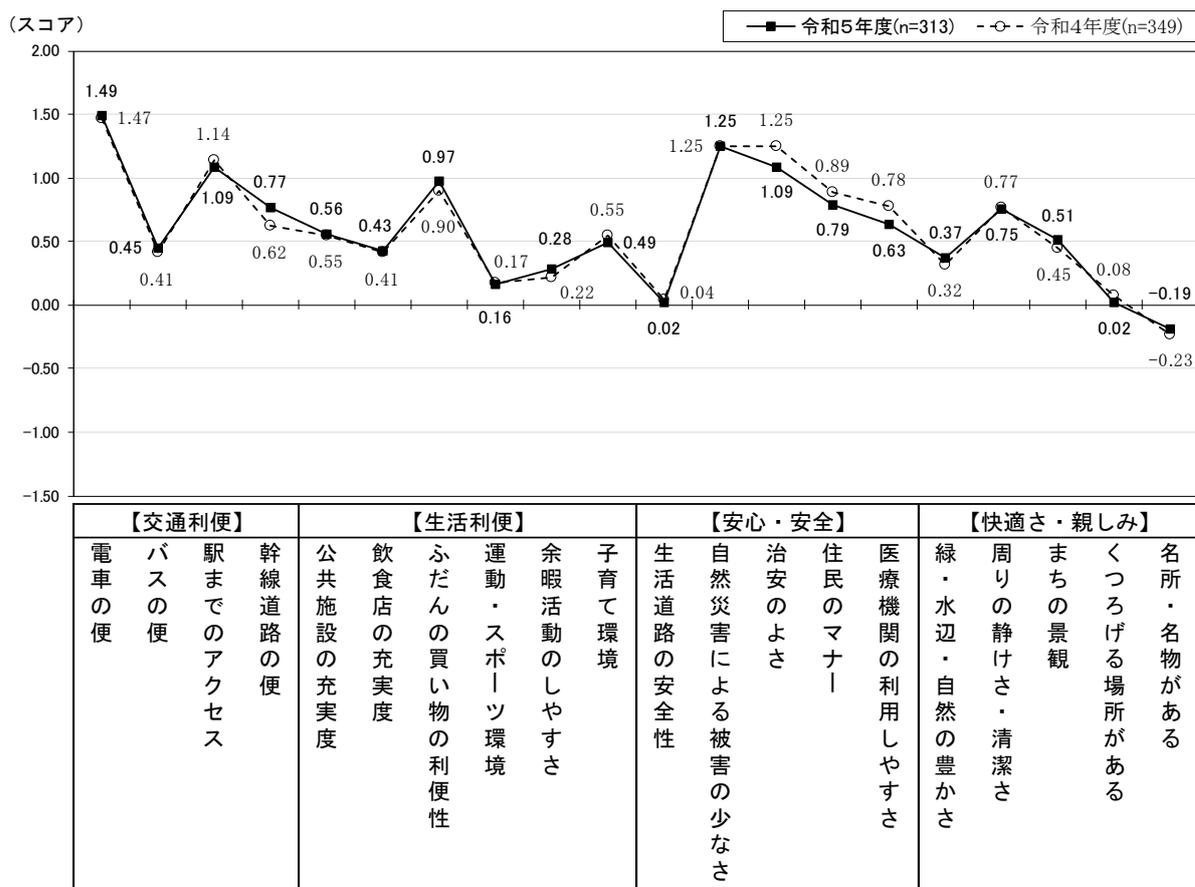


桜 区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が23.1%で最も高く、「飲食店の充実度」(21.6%)、「バスの便」、「医療機関の利用しやすさ」(ともに19.4%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「バスの便」は6.1ポイント、「治安のよさ」(17.9%)は4.6ポイント、「ふだんの買い物の利便性」(11.2%)は3.9ポイント、「住民のマナー」(9.7%)、「医療機関の利用しやすさ」は3.6ポイント増加した。一方、「駅までのアクセス」(11.9%)は6.9ポイント、「電車の便」(9.0%)は5.5ポイント減少した。(図2-9-16)

図 2-9-17 居住地域の満足度（浦和区）



令和5年度

満足(計)(%)	91.7	54.0	82.7	68.1	64.9	64.5	79.9	45.4	48.6	50.8	50.2	85.6	85.0	77.6	70.6	61.3	77.3	66.8	44.7	34.2
不満(計)(%)	5.8	23.6	15.7	14.7	24.3	31.3	18.8	29.7	25.9	13.1	45.7	5.8	9.6	18.8	23.0	31.3	19.8	26.2	43.5	42.8

令和4年度

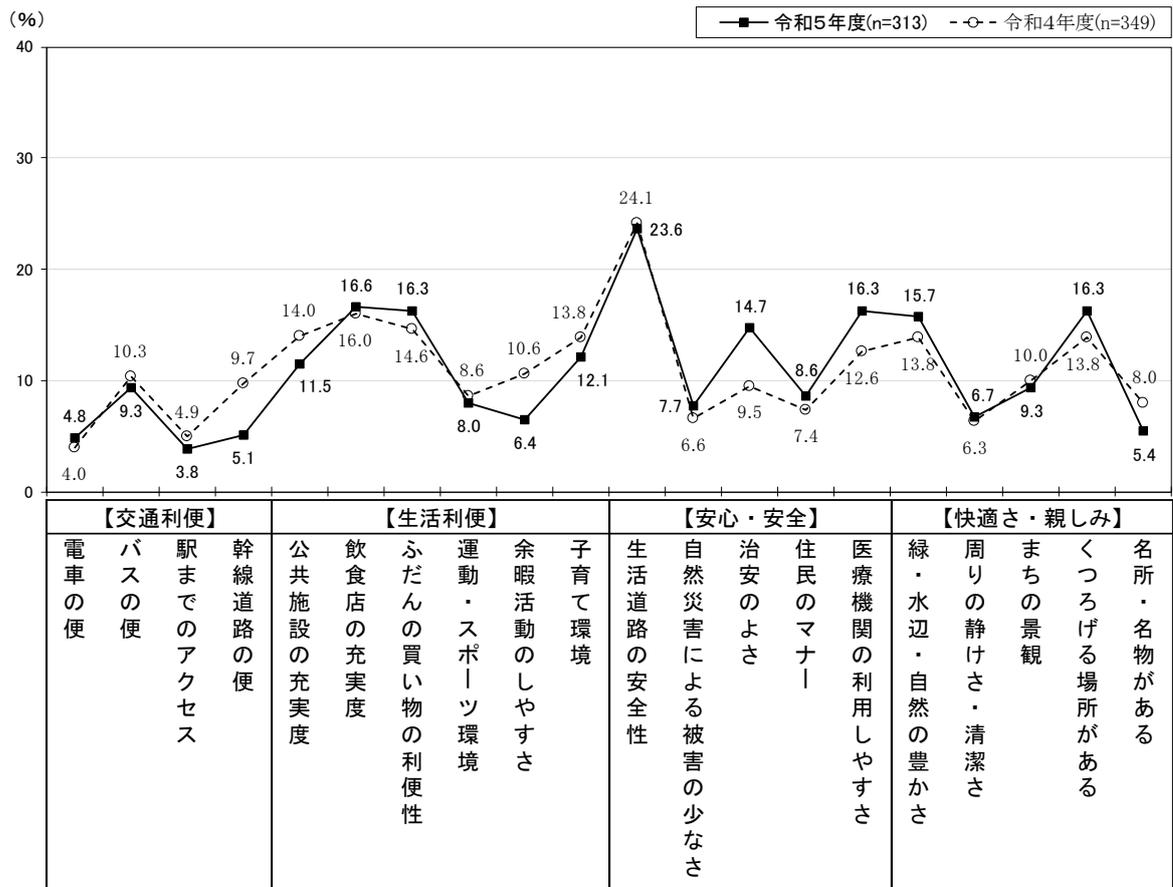
満足(計)(%)	90.8	47.3	82.2	63.3	62.8	61.6	78.2	44.4	44.4	50.1	50.1	84.0	89.4	80.2	74.2	60.5	75.4	65.6	49.0	32.7
不満(計)(%)	6.9	23.8	15.5	22.3	23.2	33.0	20.6	32.1	28.9	12.9	45.3	6.9	8.0	15.5	20.9	35.2	22.1	30.7	40.4	44.4

浦和区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「電車の便」が 1.49 で最も高く、「自然災害による被害の少なさ」(1.25)、「駅までのアクセス」、「治安のよさ」(ともに 1.09)が続いた。「名所・名物がある」(-0.19)のみマイナスとなり、【交通便利】分野が高かった。

令和4年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2-9-17)

図2-9-18 居住地域の今後の発展の方向性（浦和区）

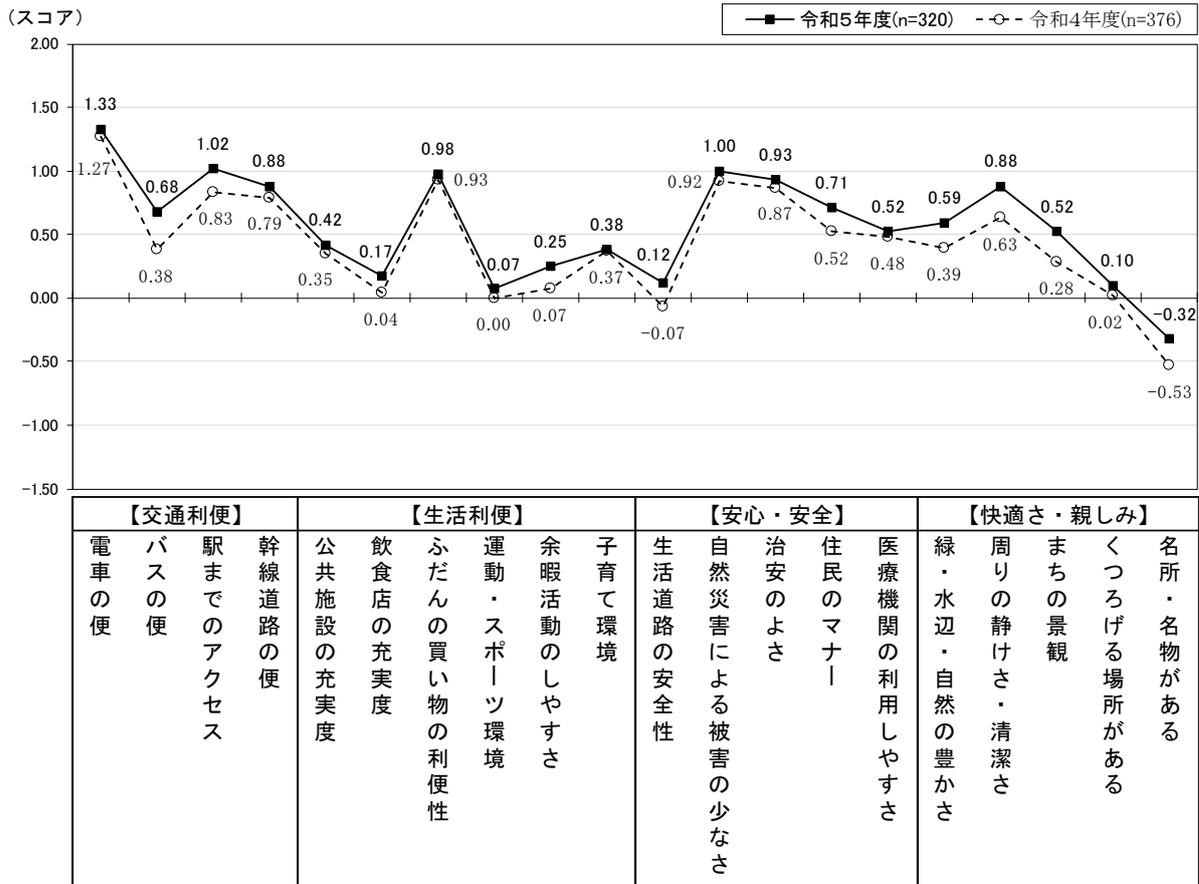


浦和区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が23.6%で最も高く、「飲食店の充実度」(16.6%)、「ふだんの買い物の利便性」、「医療機関の利用しやすさ」、「くつろげる場所がある」(ともに16.3%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」(14.7%)は5.2ポイント、「医療機関の利用しやすさ」は3.7ポイント増加した。一方、「幹線道路の便」(5.1%)は4.6ポイント、「余暇活動のしやすさ」(6.4%)は4.2ポイント減少した。(図2-9-18)

図 2-9-19 居住地域の満足度（南区）



令和5年度

満足(計)(%)	86.9	63.4	82.2	68.8	58.4	54.1	82.5	45.6	50.0	46.6	53.8	79.4	80.9	75.9	67.2	71.9	81.3	68.4	48.8	27.5
不満(計)(%)	10.3	19.1	15.9	13.1	29.4	39.7	16.3	32.8	26.6	17.2	41.9	11.9	15.0	19.1	28.1	24.1	15.9	24.4	37.5	44.7

令和4年度

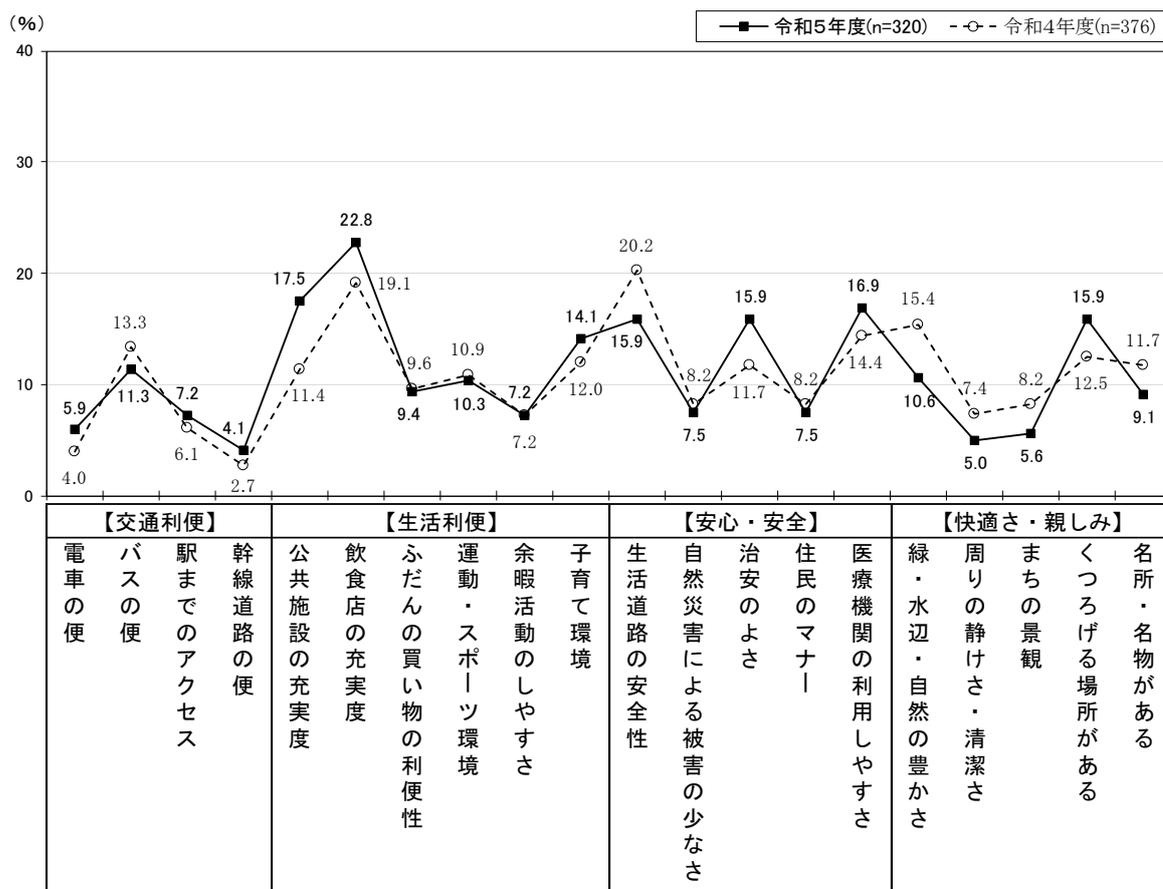
満足(計)(%)	85.4	53.2	74.2	65.7	57.4	50.8	79.3	35.4	39.4	43.6	47.6	74.7	80.1	67.0	65.4	63.3	74.2	57.4	44.4	19.4
不満(計)(%)	13.0	24.5	24.5	13.6	29.8	44.7	18.9	37.8	33.5	15.4	46.8	10.4	15.2	26.3	27.7	30.9	23.7	35.6	42.3	54.5

南 区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「電車の便」が1.33で最も高く、「駅までのアクセス」(1.02)、「自然災害による被害の少なさ」(1.00)が続いた。「名所・名物がある」(-0.32)のみマイナスとなり、【交通利便】分野が高かった。

令和4年度の調査結果と比較すると、すべての項目が令和4年度を上回り、「バスの便」(0.68)は0.30ポイント増加した。(図2-9-19)

図2-9-20 居住地域の今後の発展の方向性（南区）

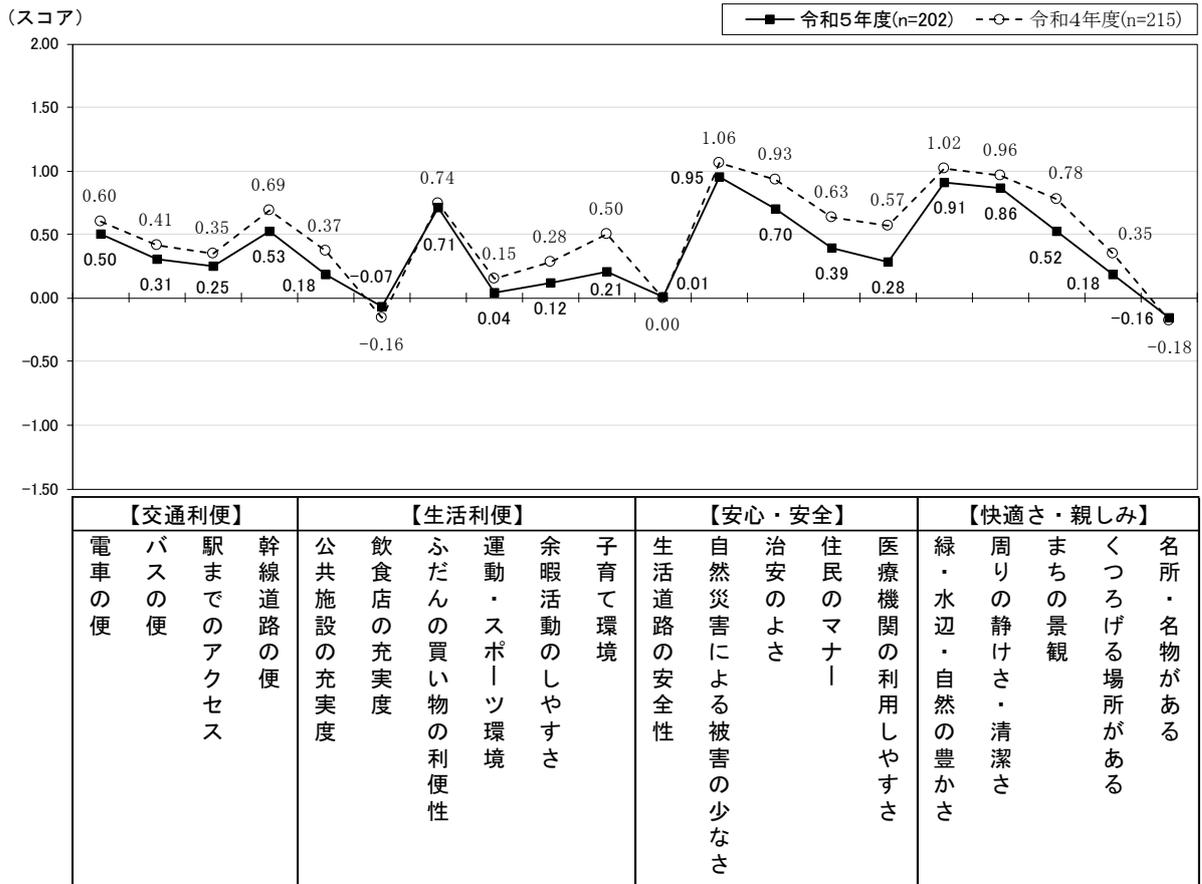


南区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「飲食店の充実度」が22.8%で最も高く、「公共施設の充実度」(17.5%)、「医療機関の利用しやすさ」(16.9%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「公共施設の充実度」は6.1ポイント、「治安のよさ」(15.9%)は4.2ポイント、「飲食店の充実度」は3.7ポイント増加した。一方、「緑・水辺・自然の豊かさ」(10.6%)は4.8ポイント、「生活道路の安全性」(15.9%)は4.3ポイント減少した。(図2-9-20)

図 2-9-21 居住地域の満足度（緑区）



令和5年度

満足(計)(%)	62.9	57.9	59.4	65.3	53.0	48.5	75.7	45.0	45.0	40.6	51.5	77.2	72.8	62.9	60.4	81.2	80.7	66.3	52.0	37.6
不満(計)(%)	33.7	34.7	40.1	25.2	33.2	47.5	22.8	38.1	36.1	26.2	44.1	13.4	19.8	31.7	36.1	15.8	17.3	26.7	38.6	42.1

令和4年度

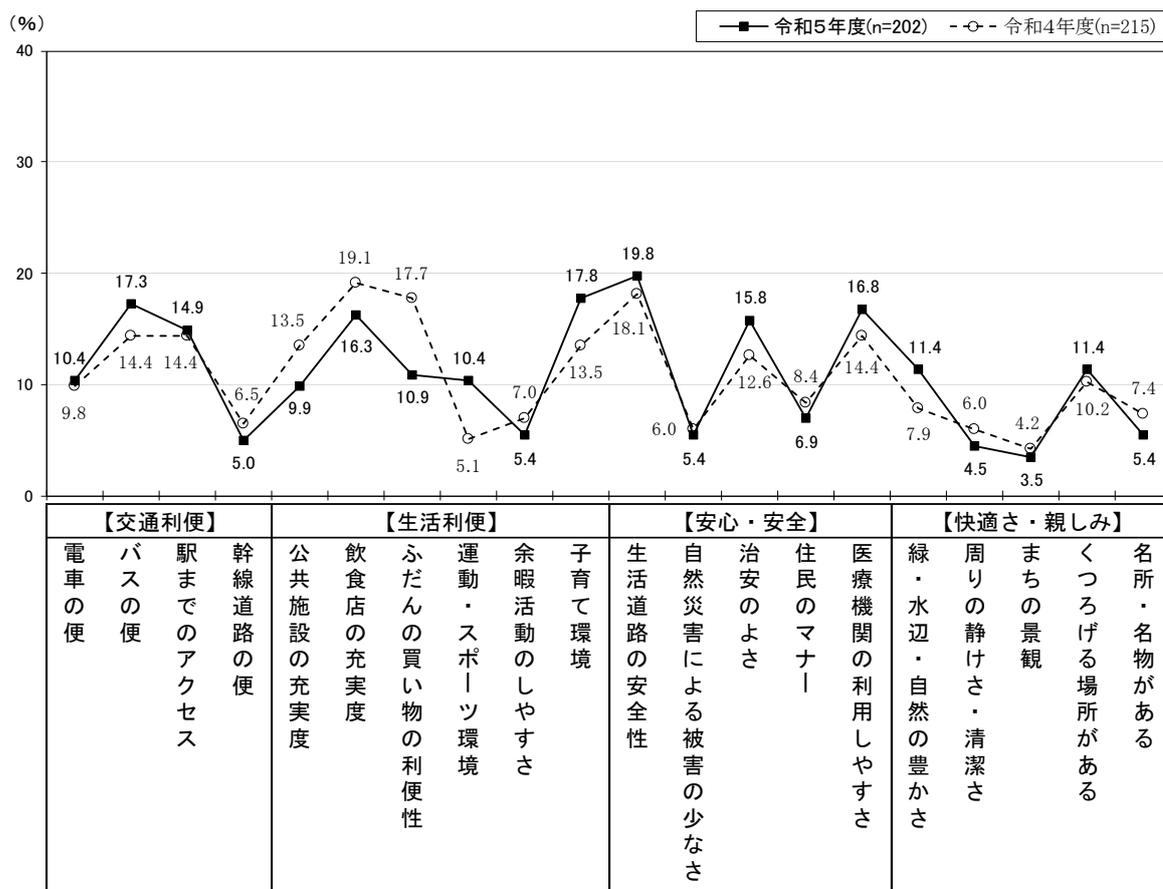
満足(計)(%)	65.6	59.1	60.0	68.4	60.0	42.3	74.0	46.5	47.0	50.7	51.2	81.4	79.5	69.3	66.5	79.5	80.5	73.5	54.4	31.2
不満(計)(%)	28.4	32.6	37.7	20.5	28.4	50.2	24.7	29.8	26.0	12.6	44.7	9.3	12.6	21.9	27.4	14.9	16.7	20.0	30.7	39.5

緑 区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「自然災害による被害の少なさ」が 0.95 で最も高く、「緑・水辺・自然の豊かさ」(0.91)、「周りの静けさ・清潔さ」(0.86)が続いた。「名所・名物がある」(-0.16)、「飲食店の充実度」(-0.07)はマイナスとなった。

令和4年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図 2-9-21)

図2-9-22 居住地域の今後の発展の方向性（緑区）



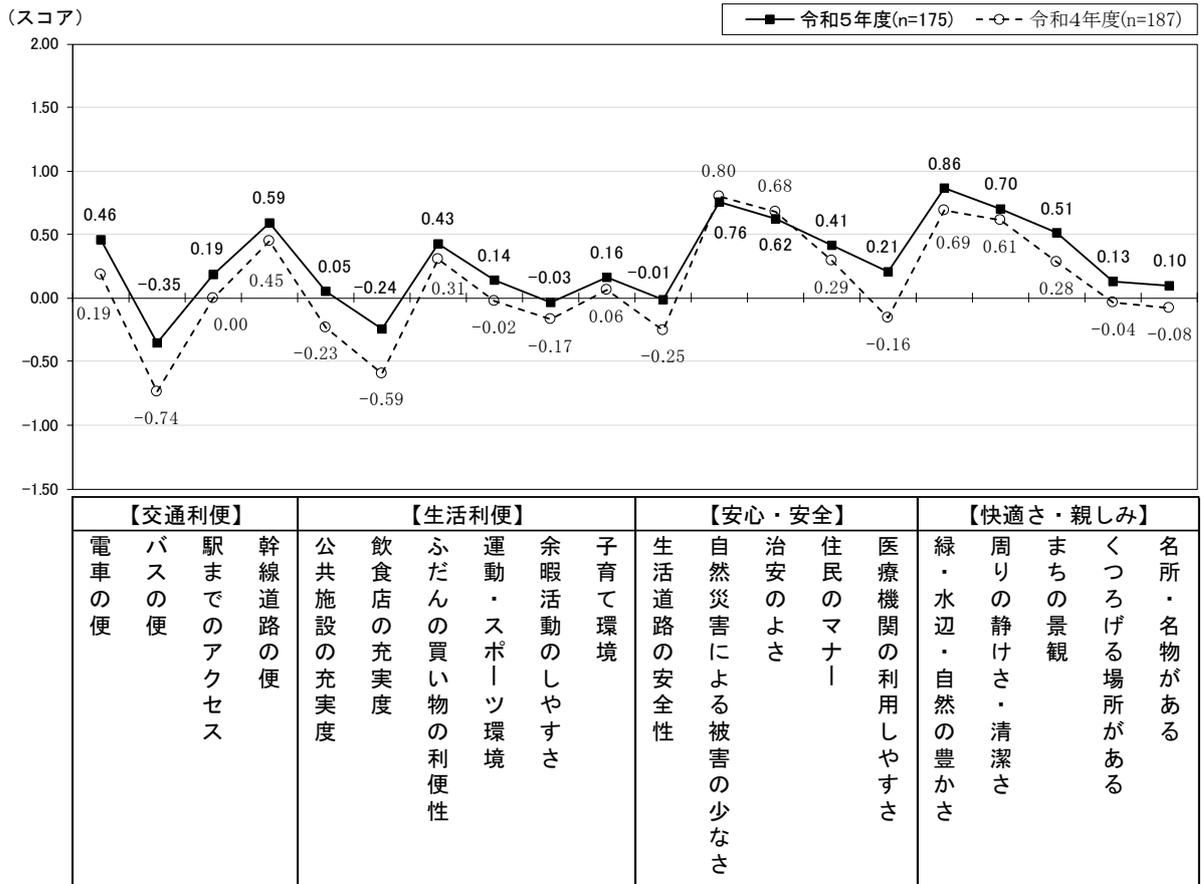
緑 区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「生活道路の安全性」が 19.8%で最も高く、「子育て環境」(17.8%)、「バスの便」(17.3%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「運動・スポーツ環境」(10.4%)は5.3ポイント、「子育て環境」は4.3ポイント、「緑・水辺・自然の豊かさ」(11.4%)は3.5ポイント増加した。一方、「ふだんの買い物物の利便性」(10.9%)は6.8ポイント、「公共施設の充実度」(9.9%)は3.6ポイント減少した。

(図2-9-22)

図 2-9-23 居住地域の満足度（岩槻区）



令和5年度

満足(計)(%)	61.7	32.6	60.0	65.7	47.4	42.9	67.4	48.6	37.7	39.4	50.3	73.7	69.7	62.3	58.3	78.9	76.6	66.3	54.3	45.7
不満(計)(%)	29.7	41.7	34.9	20.6	34.9	49.7	29.7	30.9	32.0	21.1	42.9	16.0	20.0	27.4	34.9	14.3	18.3	23.4	36.0	32.6

令和4年度

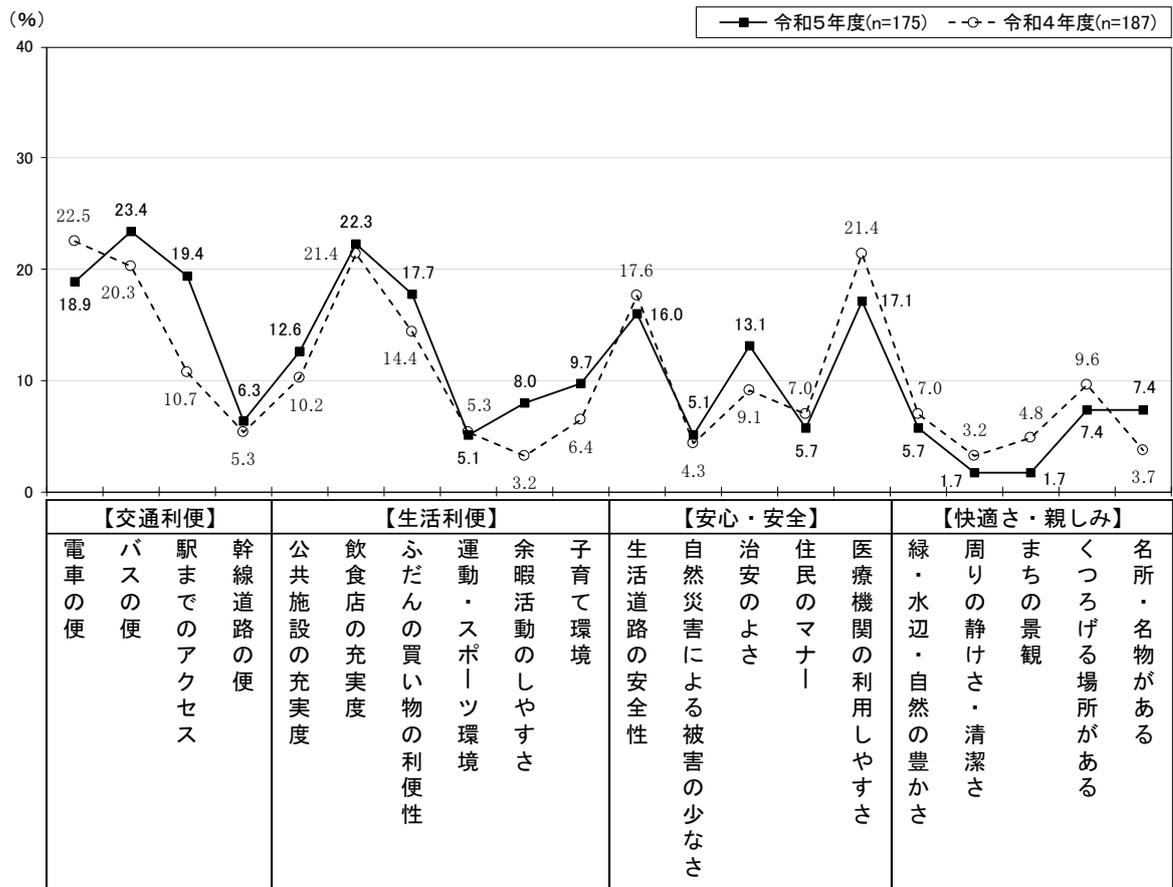
満足(計)(%)	54.0	17.6	50.3	57.8	39.6	28.9	60.4	42.8	33.2	34.8	43.3	71.7	70.1	58.3	44.4	72.7	70.1	55.1	43.9	40.1
不満(計)(%)	38.5	59.9	43.9	24.6	44.4	62.0	36.4	36.9	38.5	25.1	52.9	20.3	20.3	31.0	48.7	20.3	24.6	33.2	40.6	37.4

岩槻区

居住地域の満足度をスコアで見ると、「緑・水辺・自然の豊かさ」が 0.86 で最も高く、「自然災害による被害の少なさ」(0.76)、「周りの静けさ・清潔さ」(0.70)が続いた。「バスの便」(-0.35)、「飲食店の充実度」(-0.24)、「余暇活動のしやすさ」(-0.03)、「生活道路の安全性」(-0.01)はマイナスとなった。

令和4年度の調査結果と比較すると、「バスの便」は 0.39 ポイント、「医療機関の利用しやすさ」(0.21)は 0.37 ポイント、「飲食店の充実度」は 0.35 ポイント増加した。(図 2-9-23)

図 2-9-24 居住地域の今後の発展の方向性（岩槻区）



岩槻区

居住地域の今後の発展の方向性をみると、「バスの便」が 23.4%で最も高く、「飲食店の充実度」(22.3%)、「駅までのアクセス」(19.4%)が続いた。

令和4年度の調査結果と比較すると、「駅までのアクセス」は 8.7ポイント、「余暇活動のしやすさ」(8.0%)は 4.8ポイント、「治安のよさ」(13.1%)は 4.0ポイント、「名所・名物がある」(7.4%)は 3.7ポイント増加した。一方、「医療機関の利用しやすさ」(17.1%)は 4.3ポイント、「電車の便」(18.9%)は 3.6ポイント減少した。(図 2-9-24)

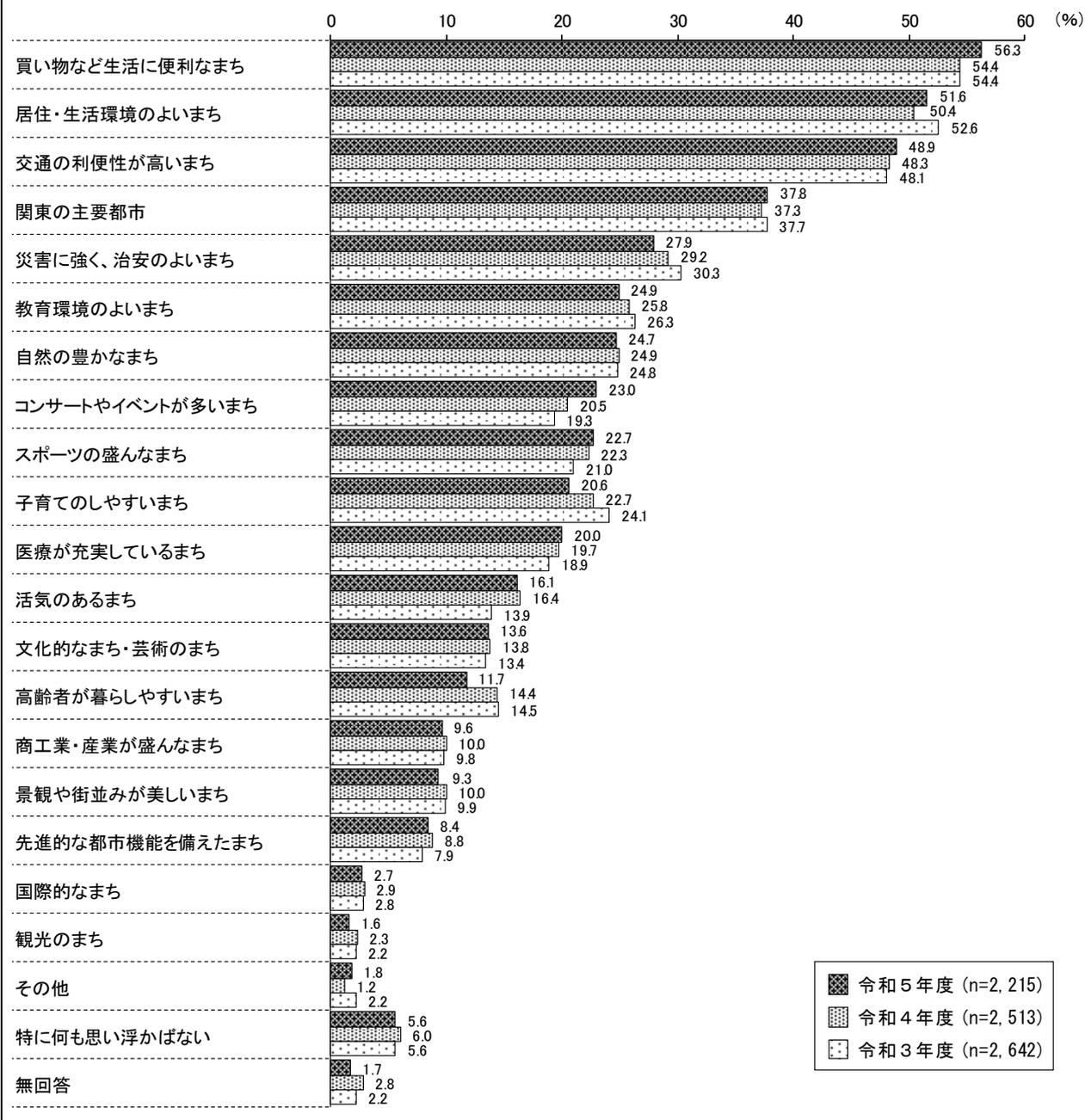
3. さいたま市のイメージ

(1) さいたま市のイメージ

問7 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(1) あなたは、「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

図3-1-1 さいたま市のイメージ



全体結果

「買い物など生活に便利なまち」が56.3%で最も高く、「居住・生活環境のよいまち」(51.6%)、「交通の利便性が高いまち」(48.9%)が続いた。

過去2年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図3-1-1)

表3-1-1 さいたま市のイメージ性・年代別、居住区別ー（上位10項目）

(%)											
	n	買い物など生活に便利なまち	居住・生活環境のよいまち	交通の利便性が高いまち	関東の主要都市	災害に強く、治安のよいまち	教育環境のよいまち	自然の豊かなまち	まちコンサートやイベントが多い	スポーツの盛んなまち	子育てのしやすいまち
全 体	2,215	56.3	51.6	48.9	37.8	27.9	24.9	24.7	23.0	22.7	20.6
<性・年代別>											
男 性	938	54.5	52.6	50.0	41.8	29.7	23.9	26.1	21.0	26.1	21.4
18～29歳	91	45.1	56.0	57.1	45.1	39.6	24.2	16.5	35.2	31.9	19.8
30 代	122	54.9	57.4	50.0	38.5	23.8	28.7	23.0	26.2	25.4	34.4
40 代	156	53.8	53.2	51.3	37.8	28.2	28.8	24.4	26.3	38.5	28.8
50 代	185	56.2	49.7	45.9	42.7	27.6	22.2	27.6	19.5	28.6	21.6
60 代	175	57.7	57.1	45.7	44.6	28.6	20.0	25.7	16.6	19.4	16.6
70歳以上	209	54.5	46.4	53.1	42.1	33.0	22.0	32.5	12.9	18.2	12.9
女 性	1,238	57.5	50.6	48.3	34.7	26.0	25.7	23.3	24.7	19.9	20.1
18～29歳	129	51.9	58.1	55.0	33.3	25.6	17.1	14.7	27.9	9.3	18.6
30 代	178	68.5	59.0	58.4	41.6	19.7	29.8	16.3	33.7	17.4	23.6
40 代	225	58.7	52.0	47.6	32.9	23.6	35.6	19.6	29.3	28.9	31.1
50 代	248	58.5	49.2	47.2	37.5	25.4	29.4	24.6	31.5	25.8	23.0
60 代	213	52.6	46.0	42.7	37.6	25.8	24.9	28.2	20.2	20.2	10.3
70歳以上	244	54.5	45.1	43.9	26.6	33.6	15.2	30.7	9.4	12.7	13.9
<居住区別>											
西 区	133	46.6	49.6	39.8	44.4	26.3	15.0	30.8	16.5	15.0	15.0
北 区	243	65.8	51.4	56.4	37.0	28.0	16.0	17.3	23.9	14.4	19.8
大 宮 区	226	63.3	50.4	74.8	48.7	26.1	15.0	21.7	35.8	15.9	19.0
見 沼 区	269	54.6	47.6	43.5	40.9	27.5	14.5	41.6	23.8	20.4	18.6
中 央 区	176	63.6	51.7	52.3	34.1	25.6	21.0	10.2	37.5	19.9	18.8
桜 区	134	47.0	41.0	40.3	32.8	23.9	23.9	28.4	17.9	17.2	19.4
浦 和 区	313	61.7	63.9	49.5	37.1	36.7	49.2	18.5	24.6	32.9	27.2
南 区	320	58.1	60.0	54.4	35.9	26.3	37.8	16.9	18.8	28.4	21.9
緑 区	202	45.5	50.5	32.7	34.7	25.7	27.2	34.7	17.8	34.2	24.8
岩 槻 区	175	41.7	30.9	32.6	29.7	23.4	8.0	30.9	10.3	17.7	14.9

属 性 別

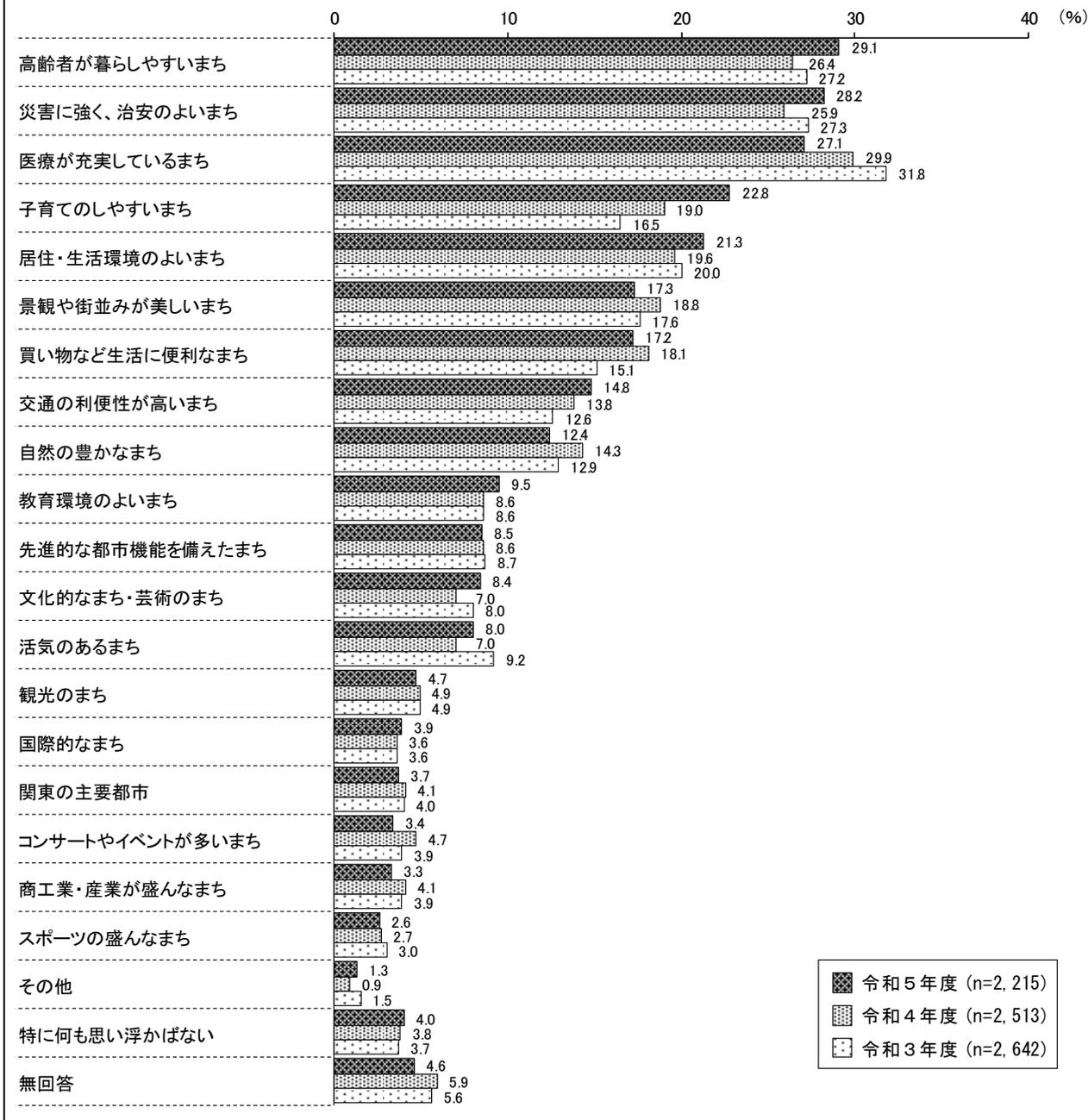
性・年代別でみると、「関東の主要都市」、「スポーツの盛んなまち」は、男性が女性より6ポイント以上高かった。また、「買い物など生活に便利なまち」は、女性30代（68.5%）で7割近かった。

居住区別でみると、「居住・生活環境のよいまち」は、浦和区（63.9%）、南区（60.0%）で6割台であった。一方、岩槻区（30.9%）は、ほぼ3割であった。また、「交通の利便性が高いまち」は大宮区、「教育環境のよいまち」は浦和区で特に高く、区による差が大きかった。（表3-1-1）

(2) さいたま市の発展の方向性

問7 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。
 (2) あなたは、「さいたま市」が、今後どのような方向へ発展してほしいと思いますか。
 (〇は3つまで)

図3-2-1 さいたま市の発展の方向性



全体結果

「高齢者が暮らしやすいまち」が29.1%で最も高く、「災害に強く、治安のよいまち」(28.2%)、「医療が充実しているまち」(27.1%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「医療が充実しているまち」は減少傾向にある。一方、「子育てのしやすいまち」は増加傾向にあり、令和4年度と比べ3.8ポイント増加した。(図3-2-1)

表3-2-1 さいたま市の発展の方向性－性・年代別、居住区別－（上位10項目）

		(%)									
	n	高齢者が暮らしやすいまち	災害に強く、治安のよいまち	医療が充実しているまち	子育てのしやすいまち	居住・生活環境のよいまち	景観や街並みが美しいまち	買い物など生活に便利なまち	交通の利便性が高いまち	自然の豊かなまち	教育環境のよいまち
全 体	2,215	29.1	28.2	27.1	22.8	21.3	17.3	17.2	14.8	12.4	9.5
<性・年代別>											
男 性	938	25.7	26.2	23.1	20.6	23.1	18.0	16.8	16.4	14.6	8.7
18～29歳	91	7.7	18.7	18.7	19.8	13.2	19.8	20.9	15.4	18.7	14.3
30 代	122	8.2	18.0	18.0	45.1	24.6	18.9	21.3	23.8	14.8	14.8
40 代	156	14.7	26.9	19.9	27.6	17.3	16.7	17.9	16.7	10.3	12.8
50 代	185	23.2	33.5	23.2	12.4	29.7	16.2	17.3	17.8	11.4	5.9
60 代	175	41.7	26.9	25.7	16.0	23.4	22.9	12.6	12.6	17.1	6.3
70歳以上	209	40.7	26.8	28.2	12.4	24.9	15.3	14.8	14.4	16.7	4.3
女 性	1,238	31.8	29.6	30.0	24.5	20.0	16.7	17.6	13.4	10.6	10.2
18～29歳	129	10.1	24.8	14.7	30.2	17.8	17.1	20.2	14.0	7.0	10.1
30 代	178	10.1	29.2	28.1	50.0	22.5	16.9	21.9	11.2	7.9	21.9
40 代	225	21.3	28.4	29.3	30.7	18.2	15.6	16.4	15.1	12.0	15.1
50 代	248	35.9	31.5	31.0	15.3	20.6	17.3	17.7	17.7	9.7	6.5
60 代	213	43.2	34.3	33.3	19.2	22.1	21.6	16.0	8.9	14.1	4.7
70歳以上	244	54.9	27.9	36.5	10.7	18.4	12.7	15.6	12.7	11.1	5.7
<居住区別>											
西 区	133	24.1	37.6	23.3	21.1	20.3	15.0	19.5	24.1	9.8	9.0
北 区	243	30.5	23.5	28.8	22.2	16.5	17.7	13.6	20.2	10.7	13.2
大 宮 区	226	29.2	27.9	27.4	23.5	23.5	23.9	16.4	5.8	10.2	10.6
見 沼 区	269	33.1	22.3	31.6	23.0	18.2	14.5	14.9	18.6	10.8	6.3
中 央 区	176	27.8	32.4	25.0	27.3	26.1	19.3	11.4	10.8	13.6	7.4
桜 区	134	28.4	32.8	28.4	19.4	26.1	15.7	17.2	12.7	11.9	8.2
浦 和 区	313	27.5	31.9	23.3	20.8	22.4	22.0	18.2	10.2	16.3	9.3
南 区	320	27.8	28.4	24.7	24.7	19.1	16.3	17.8	11.9	12.8	13.1
緑 区	202	31.7	28.7	27.2	25.7	21.8	17.3	17.8	15.3	13.9	7.9
岩 槻 区	175	29.7	21.1	33.1	20.0	23.4	7.4	26.9	22.9	10.9	7.4

属 性 別

性・年代別でみると、「高齢者が暮らしやすいまち」、「医療が充実しているまち」は、女性が男性より6ポイント以上高く、男女とも年代が上がるにつれ高くなる傾向があった。また、「子育てのしやすいまち」は、男女とも30代が最も高かった。

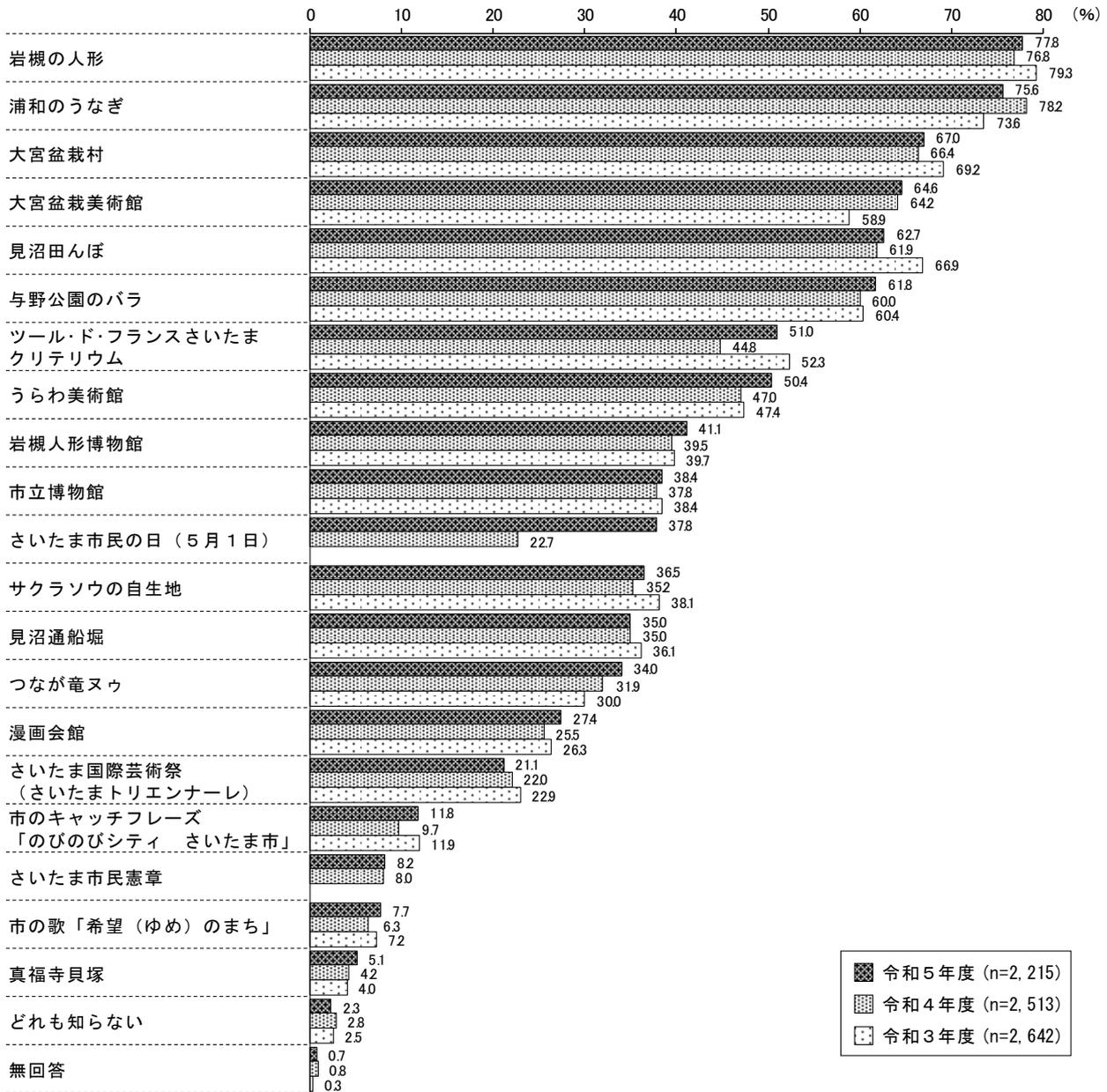
居住区別でみると、「高齢者が暮らしやすいまち」は、見沼区(33.1%)、緑区(31.7%)、北区(30.5%)、「災害に強く、治安のよいまち」は、西区(37.6%)、桜区(32.8%)、中央区(32.4%)、浦和区(31.9%)、「医療が充実しているまち」は、岩槻区(33.1%)、見沼区(31.6%)で3割台であった。

(表3-2-1)

(3) さいたま市について知っているもの

問8 さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどについて、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図3-3-1 さいたま市について知っているもの



(注記) 「さいたま市民憲章」「さいたま市民の日 (5月1日)」は、令和4年度調査から選択肢に加えた。

全体結果

「岩槻の人形」が77.8%で最も高く、「浦和のうなぎ」(75.6%)、「大宮盆栽村」(67.0%)が続いた。過去2年間の調査結果と比較すると、令和4年度と比べ「さいたま市民の日 (5月1日)」(37.8%)は15.1ポイント、「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」(51.0%)は6.2ポイント増加した。

(図3-3-1)

表3-3-1 さいたま市について知っているもの一性・年代別、居住区別一（上位10項目）

												(%)
	n	岩槻の人形	浦和のうなぎ	大宮盆栽村	大宮盆栽美術館	見沼田んぼ	与野公園のバラ	さいたま・クルド・テリウム	うらわ美術館	岩槻人形博物館	市立博物館	
全 体	2,215	77.8	75.6	67.0	64.6	62.7	61.8	51.0	50.4	41.1	38.4	
<性・年代別>												
男 性	938	76.8	74.7	65.9	61.6	63.0	55.7	51.6	41.0	38.6	36.9	
18~29歳	91	57.1	49.5	35.2	34.1	40.7	35.2	29.7	42.9	25.3	23.1	
30代	122	57.4	70.5	45.1	56.6	46.7	34.4	42.6	37.7	27.0	18.9	
40代	156	76.3	76.9	69.2	64.7	59.6	55.1	55.1	40.4	38.5	34.0	
50代	185	81.6	78.9	68.6	62.2	67.0	62.7	59.5	45.9	33.5	40.5	
60代	175	82.3	78.3	76.0	67.4	75.4	59.4	59.4	36.6	49.7	43.4	
70歳以上	209	88.0	79.9	78.0	68.9	70.8	67.9	50.2	42.1	46.4	46.9	
女 性	1,238	78.6	76.4	67.6	66.6	62.3	66.3	50.6	57.2	42.8	39.3	
18~29歳	129	61.2	53.5	33.3	44.2	38.0	31.0	27.9	47.3	26.4	19.4	
30代	178	66.3	69.1	44.4	57.9	40.4	51.7	34.8	44.9	32.0	27.0	
40代	225	78.2	76.9	64.9	69.8	62.7	62.7	56.9	61.8	39.6	39.1	
50代	248	87.1	89.5	81.9	76.6	70.2	74.6	65.3	69.4	50.4	45.6	
60代	213	88.3	84.0	80.3	70.0	74.2	80.3	63.8	60.6	48.4	47.9	
70歳以上	244	79.9	73.4	79.5	68.9	72.5	78.3	41.8	52.0	49.6	44.7	
<居住区別>												
西 区	133	77.4	63.9	75.9	69.9	46.6	67.7	41.4	37.6	36.8	37.6	
北 区	243	79.0	63.4	75.7	74.5	56.8	56.8	51.0	34.2	35.8	46.9	
大 宮 区	226	70.8	68.1	76.1	76.5	57.5	65.9	59.7	38.9	39.8	47.3	
見 沼 区	269	85.9	64.3	81.4	77.0	79.6	53.5	50.9	38.7	52.8	47.2	
中 央 区	176	77.8	81.8	67.0	63.6	58.5	93.8	73.3	47.7	32.4	34.1	
桜 区	134	71.6	77.6	52.2	56.7	49.3	81.3	43.3	51.5	27.6	27.6	
浦 和 区	313	75.7	92.3	64.2	62.0	68.7	70.9	55.3	82.1	38.7	42.2	
南 区	320	70.0	87.8	57.2	53.8	60.0	53.4	45.9	60.9	31.3	28.4	
緑 区	202	79.7	85.6	56.4	53.5	79.2	50.5	47.5	57.4	31.7	38.1	
岩 槻 区	175	93.7	56.0	59.4	56.0	53.1	34.3	37.1	32.6	88.0	26.3	

属 性 別

上位10項目について、性・年代別でみると、「大宮盆栽美術館」、「与野公園のバラ」、「うらわ美術館」は、女性が男性より5ポイント以上高かった。「岩槻の人形」は、男性では年代が上がるにつれ高くなった。また、多くの項目で、男女とも30代以下と40代以上の差が大きかった。

居住区別でみると、「岩槻の人形」は岩槻区(93.7%)、「浦和のうなぎ」は浦和区(92.3%)、「与野公園のバラ」は中央区(93.8%)など、施設、名所等のある居住区及びその周辺で高かった。

(表3-3-1)

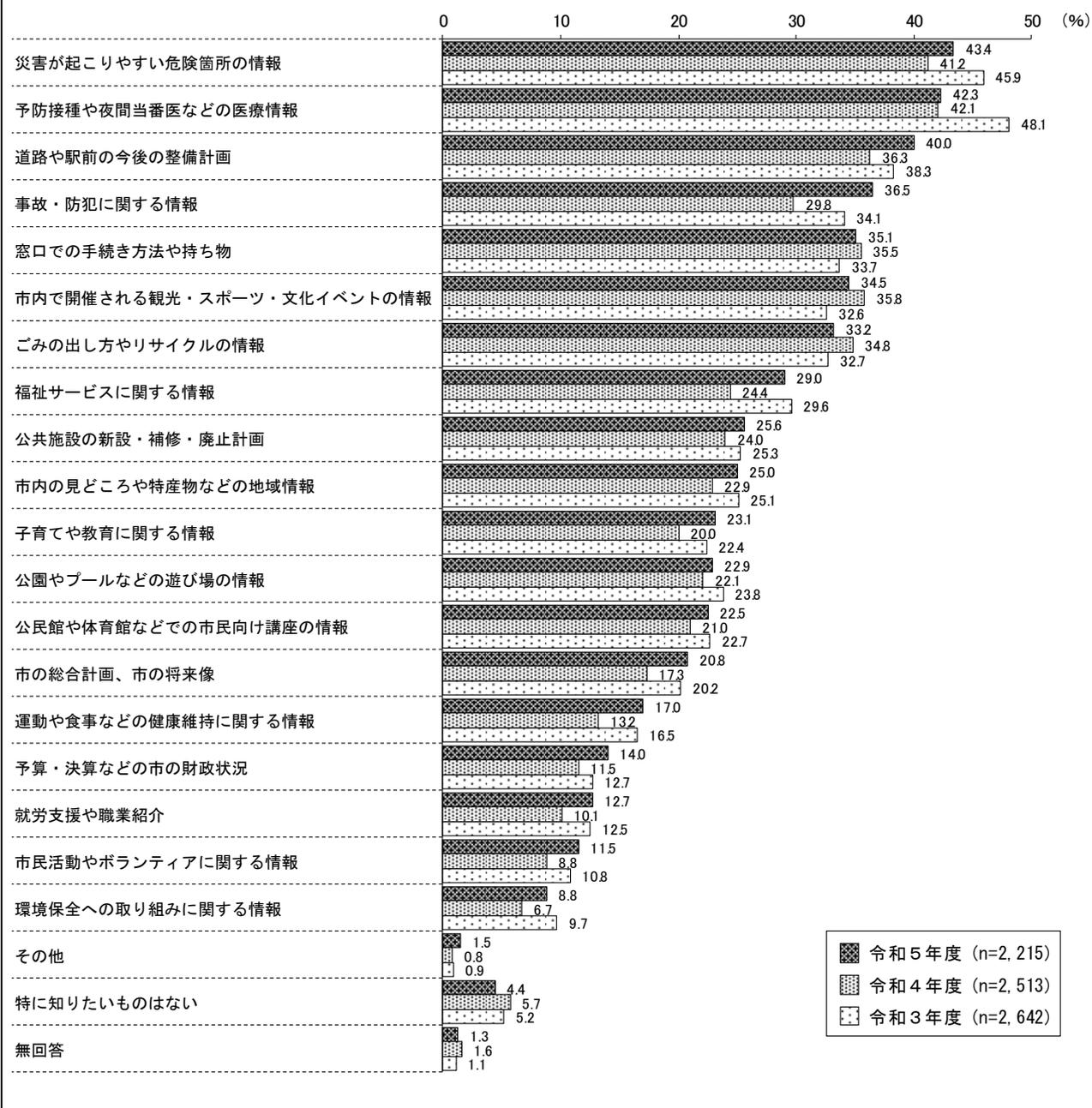
4. 市政との関わり

(1) 市が発信する情報で特に知りたいもの

問9 さいたま市役所からの情報で、あなたが特に知りたいのはどのような情報ですか。

(○はいくつでも)

図4-1-1 市が発信する情報で特に知りたいもの



全体結果

「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が43.4%で最も高く、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」(42.3%)、「道路や駅前の今後の整備計画」(40.0%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、令和4年度と比べ「事故・防犯に関する情報」(36.5%)は6.7ポイント、「福祉サービスに関する情報」(29.0%)は4.6ポイント増加した。(図4-1-1)

表4-1-1 市が発信する情報で特に知りたいもの一性・年代別、居住区別一（上位10項目）

		災害が起 こりやすい 危険箇所 の情報	医療情報 予防疫種 や夜間当 番医など の情報	道路や駅 前の今後 の整備計 画	事故・防 犯に関す る情報	窓口での 手続き方 法や持ち 物	市内で開 催される 観光・ス ポーツ・ 文化イベ ントの情 報	ごみの出 し方やリ サイクル の情報	福祉サー ビスに関 する情報	公共施設 の新設・ 補修・廃 止計画	市内の見 どころや 特産物な ど
全 体	2,215	43.4	42.3	40.0	36.5	35.1	34.5	33.2	29.0	25.6	25.0
＜性・年代別＞											
男 性	938	37.2	36.6	43.3	34.5	32.1	33.3	29.2	25.8	25.7	23.5
18～29歳	91	29.7	18.7	40.7	24.2	26.4	31.9	24.2	18.7	27.5	17.6
30 代	122	32.8	33.6	49.2	35.2	36.9	39.3	31.1	13.9	27.9	18.9
40 代	156	41.0	37.8	42.9	42.9	29.5	35.9	33.3	20.5	30.8	19.9
50 代	185	37.8	40.0	44.9	37.8	40.5	24.9	28.6	27.6	22.7	27.6
60 代	175	37.1	40.0	44.0	34.9	31.4	36.6	29.7	30.9	26.3	28.6
70歳以上	209	39.7	39.2	39.2	29.2	26.8	33.0	27.3	34.0	22.0	23.4
女 性	1,238	48.5	46.5	37.6	37.9	37.0	35.5	36.1	31.3	25.0	26.3
18～29歳	129	38.0	36.4	28.7	34.1	39.5	27.9	26.4	15.5	21.7	13.2
30 代	178	46.1	48.3	39.3	40.4	31.5	37.6	36.0	16.3	26.4	20.8
40 代	225	51.1	53.3	40.9	44.9	44.0	41.3	38.7	24.4	29.8	25.3
50 代	248	54.0	42.7	38.7	45.2	41.5	39.1	47.6	41.1	25.0	28.2
60 代	213	51.2	46.0	39.0	33.3	35.2	39.0	31.0	38.5	26.3	33.3
70歳以上	244	45.9	48.8	36.1	28.3	29.9	25.8	32.0	41.0	20.5	29.9
＜居住区別＞											
西 区	133	42.1	36.8	39.8	31.6	30.8	26.3	36.1	18.8	27.8	20.3
北 区	243	38.7	45.3	39.5	35.8	31.7	32.5	37.0	29.6	23.9	24.7
大 宮 区	226	45.6	45.6	48.2	35.8	37.2	38.1	34.1	23.9	30.1	30.5
見 沼 区	269	37.9	43.5	47.2	38.7	33.1	36.1	29.7	34.6	24.9	26.0
中 央 区	176	46.0	42.0	33.0	34.7	35.2	40.9	32.4	27.8	26.7	24.4
桜 区	134	46.3	36.6	33.6	31.3	35.1	27.6	29.1	33.6	24.6	18.7
浦 和 区	313	47.0	45.0	41.2	41.9	37.7	36.4	35.8	31.0	31.9	26.5
南 区	320	46.9	41.3	36.6	39.1	38.8	34.7	34.4	30.3	22.2	24.7
緑 区	202	44.1	48.5	45.0	39.6	37.1	31.7	34.2	29.7	21.8	24.3
岩 槻 区	175	40.0	31.4	29.1	29.1	29.1	34.3	25.7	26.9	17.7	22.9

属 性 別

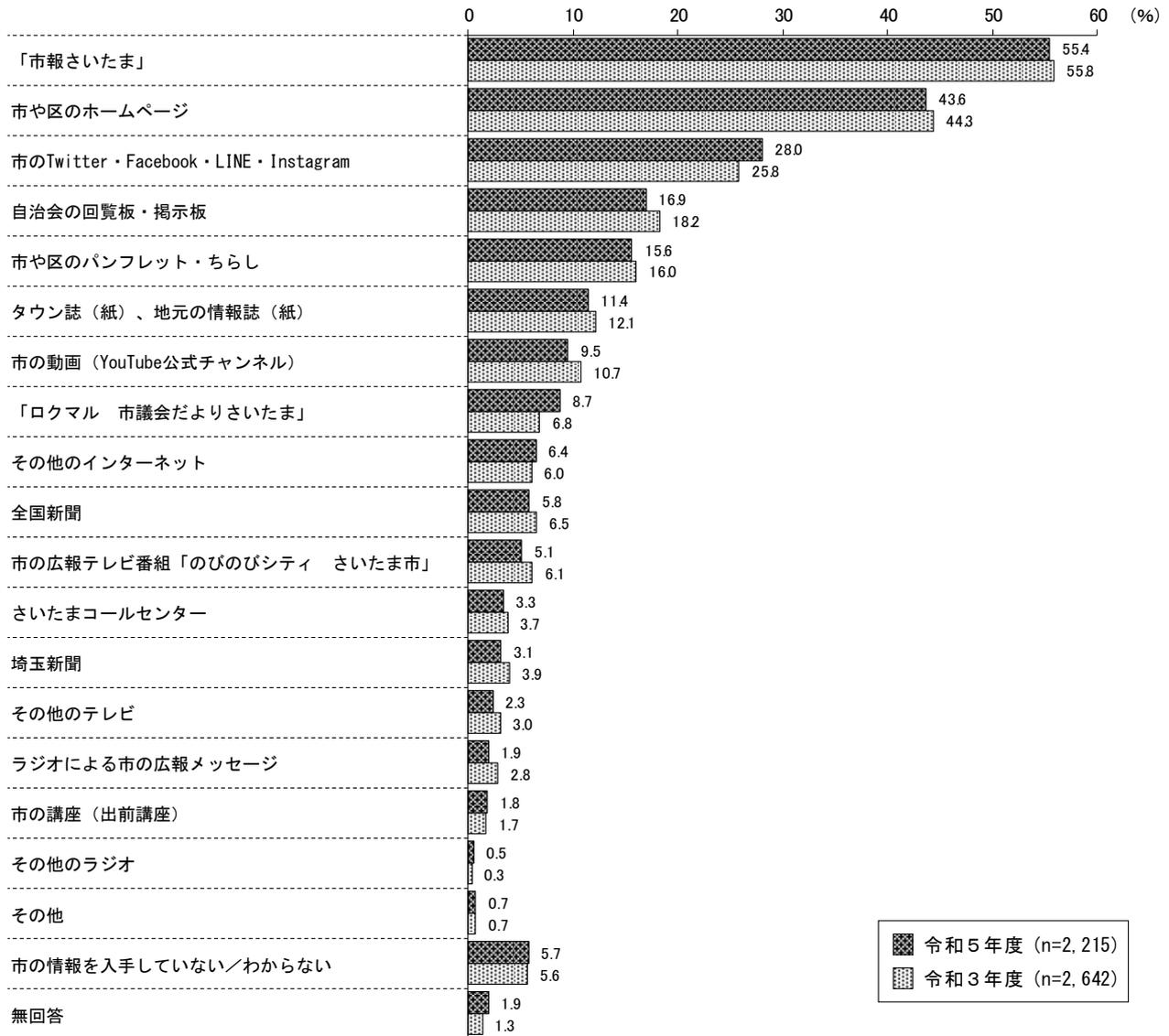
性・年代別でみると、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」は、女性が男性より9ポイント以上高かった。また、「道路や駅前の今後の整備計画」は、男性（43.3%）が女性（37.6%）より5.7ポイント高かった。

居住区別でみると、「道路や駅前の今後の整備計画」は、大宮区（48.2%）、見沼区（47.2%）で5割近かった。（表4-1-1）

(2) 市が発信する情報の入手方法として充実すべき媒体

問10 あなたは、さいたま市役所が発信する情報を入手するにあたり、今後、どのような媒体が充実するとよいと思いますか。以下の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

図4-2-1 市が発信する情報の入手方法として充実すべき媒体



(注記) この質問は、令和3年度調査から隔年で実施している。

全体結果

「市報さいたま」が55.4%で最も高く、「市や区のホームページ」(43.6%)、「市のTwitter・Facebook・LINE・Instagram」(28.0%)が続いた。

令和3年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図4-2-1)

表4-2-1 市が発信する情報の入手方法として充実すべき媒体
 -性・年代別、居住区別- (上位10項目)

	n	「市報さいたま」	市や区のホームページ	市のTwitter・Facebook・LINE・Instagram	自治会の回覧板・掲示板	市や区のパンフレット・ちらし	タウン誌(紙)、地元の情報誌(紙)	市の動画(YouTube公式チャンネル)	「ロクマル 市議会だよりさいたま」	その他のインターネット	全国新聞
全体	2,215	55.4	43.6	28.0	16.9	15.6	11.4	9.5	8.7	6.4	5.8
<性・年代別>											
男性	938	51.1	44.9	26.4	15.7	17.2	10.2	11.7	9.6	8.6	7.0
18~29歳	91	19.8	36.3	54.9	4.4	16.5	3.3	20.9	4.4	12.1	6.6
30代	122	36.9	41.8	53.3	10.7	13.9	5.7	15.6	8.2	13.1	1.6
40代	156	51.9	48.7	35.9	14.1	13.5	10.3	10.9	10.3	9.0	7.1
50代	185	47.6	58.9	22.2	10.3	14.1	11.9	15.7	5.4	9.7	4.3
60代	175	58.9	50.3	14.9	18.3	17.7	14.9	9.7	10.3	8.6	6.9
70歳以上	209	68.9	30.6	4.8	27.3	24.4	10.5	4.3	15.3	3.3	12.9
女性	1,238	58.8	43.1	29.0	18.0	14.8	12.3	7.8	8.0	4.8	4.9
18~29歳	129	24.0	43.4	56.6	9.3	11.6	7.0	10.1	1.6	5.4	3.1
30代	178	43.8	43.8	56.2	12.9	14.6	7.9	10.7	6.2	9.0	1.7
40代	225	59.1	55.1	41.8	12.0	12.4	10.2	10.2	5.3	4.0	3.1
50代	248	60.9	56.5	25.8	10.9	16.1	14.1	8.9	9.3	6.0	4.0
60代	213	72.3	42.3	12.2	17.4	15.0	21.1	7.5	9.4	1.4	6.6
70歳以上	244	73.8	18.9	0.8	39.8	17.2	10.7	1.6	12.7	3.7	9.4
<居住区別>											
西区	133	60.2	34.6	23.3	20.3	15.0	9.0	6.8	7.5	6.0	7.5
北区	243	53.1	42.4	28.8	14.8	17.3	14.0	9.9	12.8	5.3	3.3
大宮区	226	60.6	50.4	29.2	15.5	14.6	11.5	11.5	10.2	3.5	5.8
見沼区	269	59.1	40.5	21.2	20.8	16.7	10.8	4.5	9.3	5.9	8.6
中央区	176	58.5	46.6	34.7	16.5	14.8	9.7	9.1	7.4	6.8	5.1
桜区	134	50.7	40.3	26.9	16.4	18.7	14.9	11.9	6.0	3.7	4.5
浦和区	313	57.5	49.8	29.1	12.8	13.7	8.9	10.5	8.0	8.0	6.7
南区	320	54.1	41.6	32.5	16.3	16.9	10.9	11.3	9.1	8.4	5.0
緑区	202	51.5	46.0	30.2	15.8	15.8	13.4	8.9	4.5	5.9	5.0
岩槻区	175	47.4	40.6	21.1	24.6	13.7	11.4	10.3	10.3	8.0	6.9

属性別

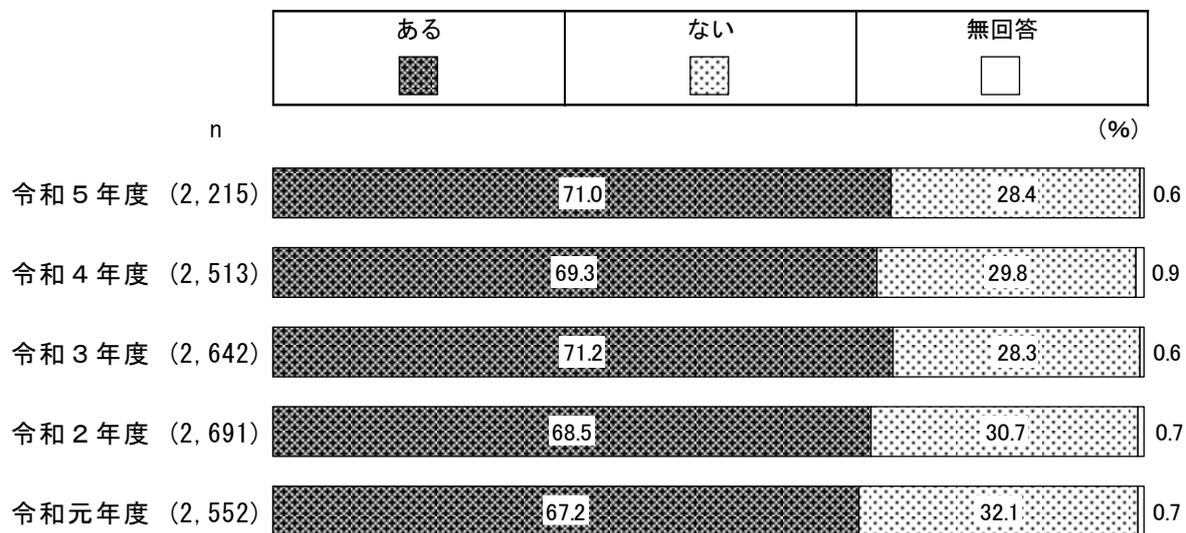
性・年代別でみると、「市報さいたま」は、女性(58.8%)が男性(51.1%)より7.7ポイント高く、男女とも年代が上がるにつれ高くなる傾向があった。また、「市のTwitter・Facebook・LINE・Instagram」は、男女とも年代が下がるにつれ高くなった。

居住区別でみると、「市報さいたま」は、岩槻区(47.4%)を除き5割以上であった。(表4-2-1)

(3) 市役所の利用実態

問 11 あなたは、この1年以内で、市・区役所を利用したり、電話で問い合わせをしたりしたことがありますか。(○は1つ)

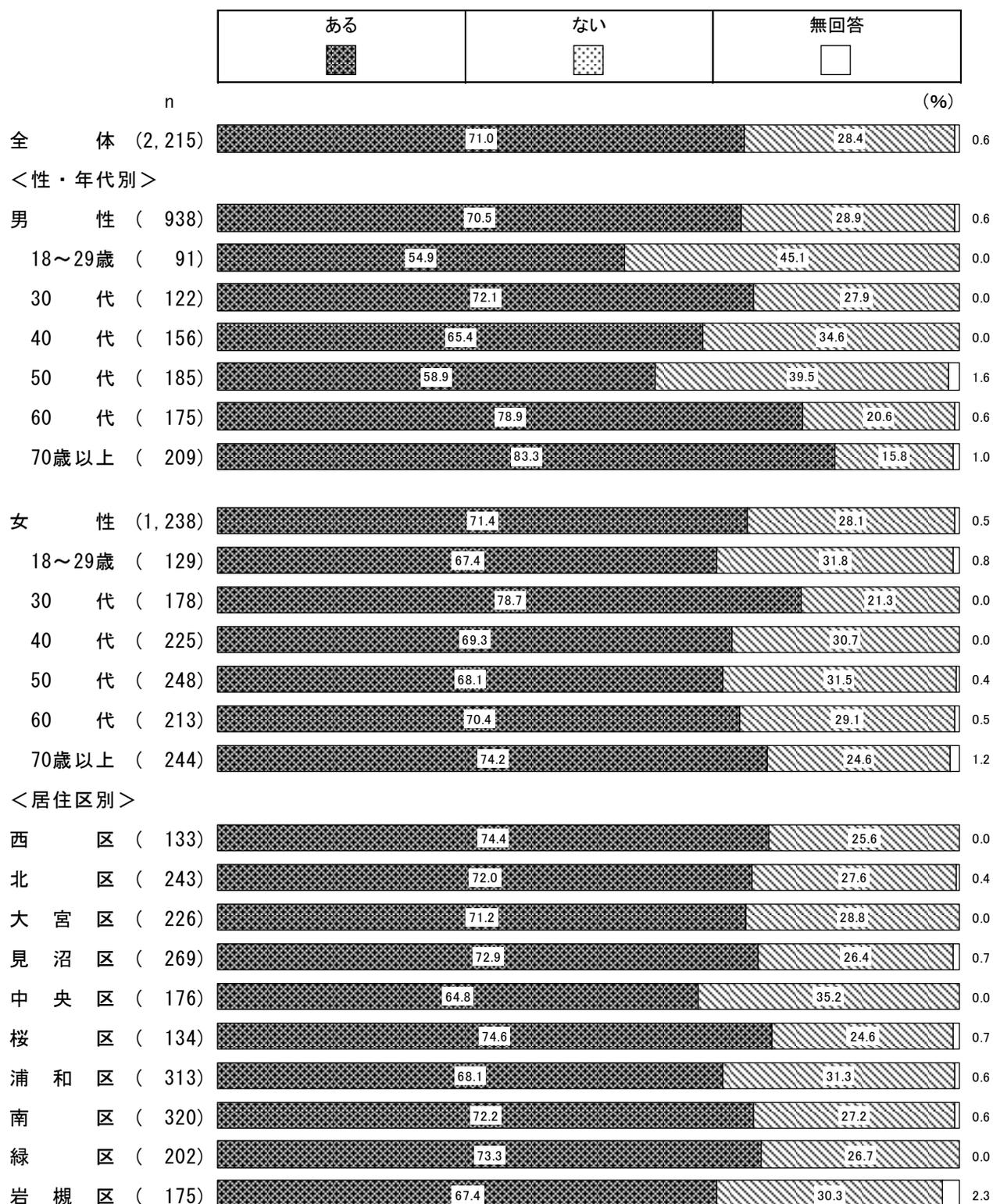
図 4-3-1 市役所の利用実態



全体結果

1年以内に利用・問合せ経験が「ある」は71.0%であった。
過去4年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図4-3-1)

図4-3-2 市役所の利用実態－性・年代別、居住区別－



属性別

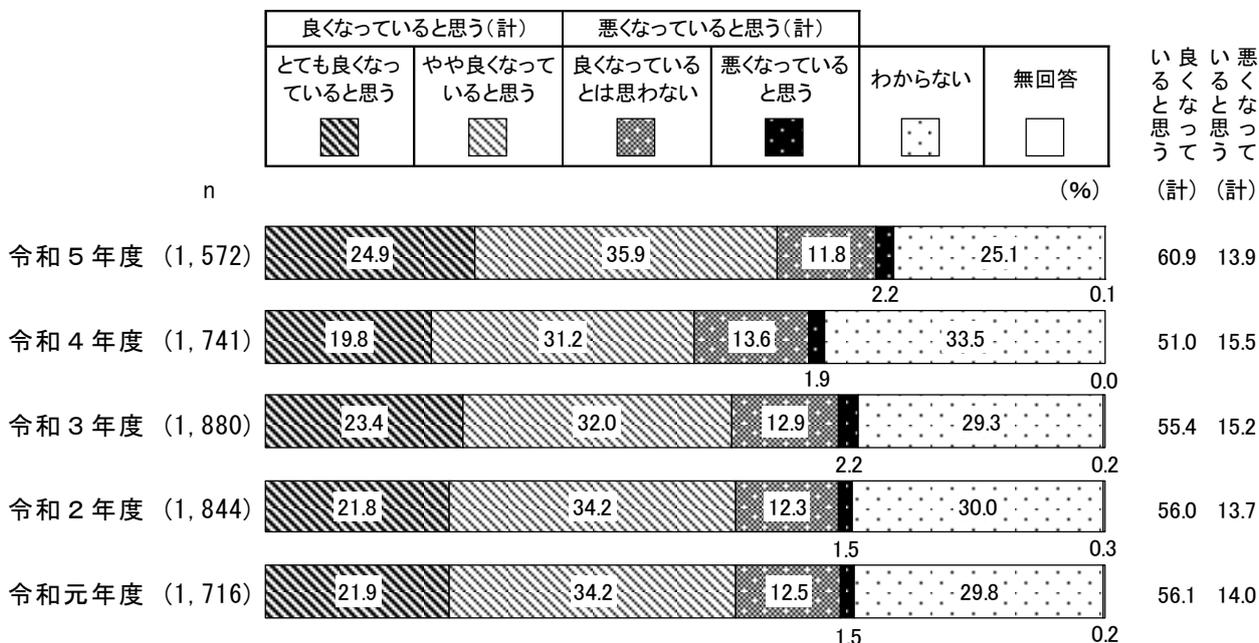
性・年代別でみると、「ある」は、すべての年代で5割を超え、男性70歳以上で8割を超えた。居住区別でみると、「ある」は、すべての区で6割以上であった。(図4-3-2)

(4) 市職員のイメージ

(問11で「ある」と答えた方に)

問11-1 あなたは、最近の市職員のイメージをどう思いますか。(○は1つ)

図4-4-1 市職員のイメージ



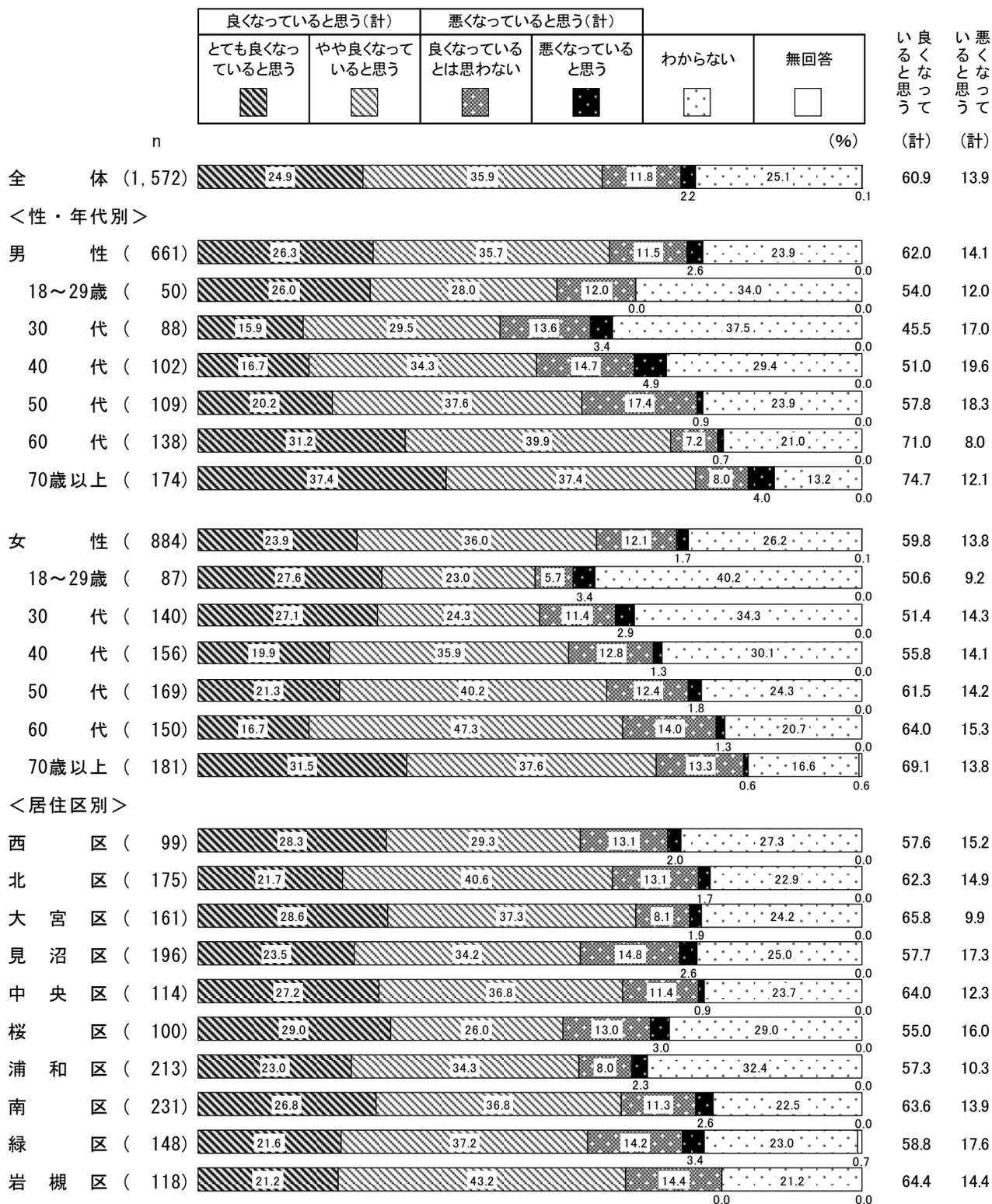
(注記) 令和4年度以前は、この1年以内に市役所を利用したことがある人を対象に再集計した結果を示している。

全体結果

「とても良くなっていると思う」(24.9%)と「やや良くなっていると思う」(35.9%)を合わせた『良くなっていると思う(計)』(60.9%)は、ほぼ6割であった。一方、「良くなっているとは思わない」(11.8%)と「悪くなっていると思う」(2.2%)を合わせた『悪くなっていると思う(計)』(13.9%)は、1割を超えた。

過去4年間の調査結果と比較すると、令和4年度と比べ『良くなっていると思う(計)』は9.9ポイント増加した。(図4-4-1)

図4-4-2 市職員のイメージ性・年代別、居住区別一



属性別

性・年代別でみると、『良くなっていると思う(計)』は、男性30代(45.5%)を除き5割以上で、女性では年代が上がるにつれ高くなった。

居住区別でみると、『良くなっていると思う(計)』は、すべての区で5割以上であった。

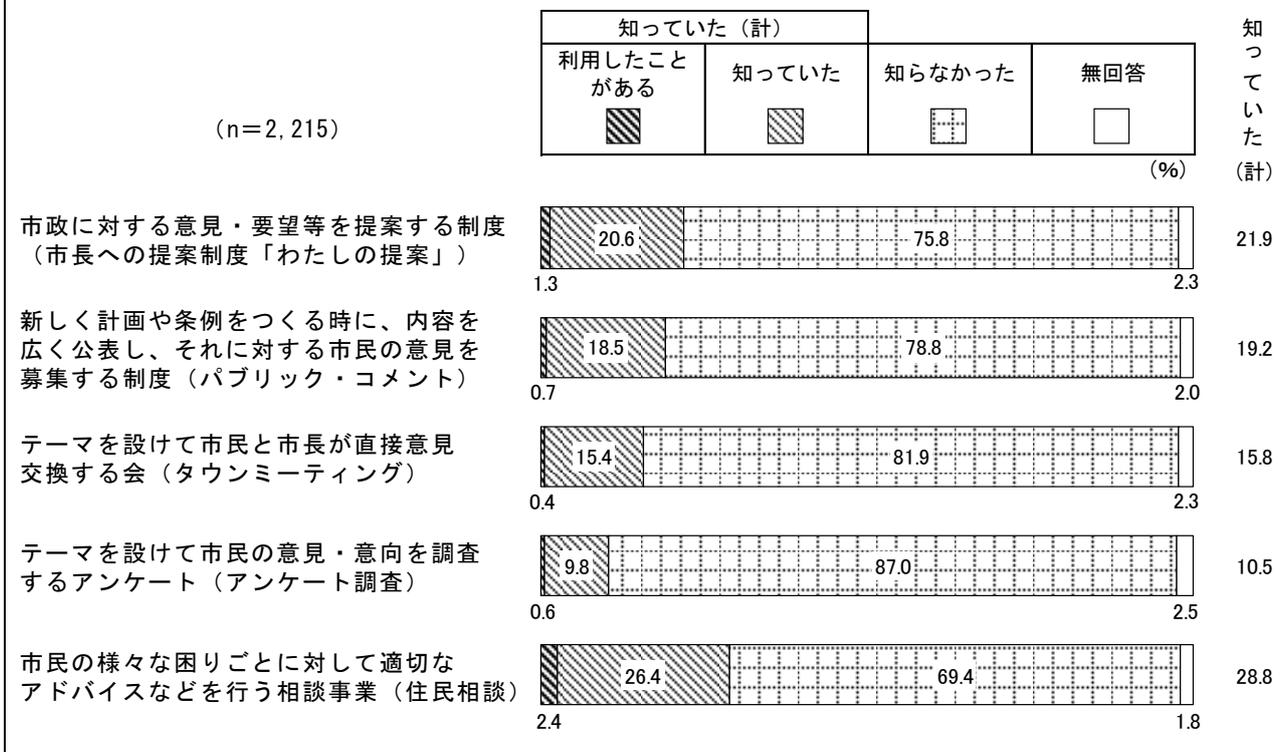
(図4-4-2)

(5) 市民の声を聴く事業の認知度

問 12 さいたま市では、広く市民の声を聴く事業を行っています。

(1) 以下の1～5の事業について、どの程度知っていましたか。(○はそれぞれ1つずつ)

図 4-5-1 市民の声を聴く事業の認知度



全体結果

「利用したことがある」と「知っていた」を合わせた『知っていた (計)』は、「住民相談」が 28.8%、「わたしの提案」が 21.9%、「パブリック・コメント」が 19.2%、「タウンミーティング」が 15.8%、「アンケート調査」が 10.5%であった。(図 4-5-1)

表4-5-1 市民の声を聴く事業の認知度－性・年代別、居住区別－（その1）

		わたしの提案					パブリック・コメント					タウンミーティング				
n		利用 した こと が あ る	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答	知 っ て い た (計)	利用 した こと が あ る	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答	知 っ て い た (計)	利用 した こと が あ る	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答	知 っ て い た (計)
全 体	2,215	1.3	20.6	75.8	2.3	21.9	0.7	18.5	78.8	2.0	19.2	0.4	15.4	81.9	2.3	15.8
<性・年代別>																
男 性	938	1.9	20.5	76.8	0.9	22.4	1.0	21.3	77.0	0.7	22.3	0.4	16.2	82.2	1.2	16.6
18～29歳	91	-	22.0	76.9	1.1	22.0	-	12.1	87.9	-	12.1	-	9.9	90.1	-	9.9
30代	122	1.6	7.4	91.0	-	9.0	0.8	15.6	83.6	-	16.4	0.8	8.2	91.0	-	9.0
40代	156	1.3	14.7	82.7	1.3	16.0	0.6	17.9	81.4	-	18.6	-	13.5	86.5	-	13.5
50代	185	1.6	21.6	75.7	1.1	23.2	1.1	23.8	74.1	1.1	24.9	1.1	15.7	80.5	2.7	16.8
60代	175	2.3	18.9	78.3	0.6	21.1	0.6	22.3	76.6	0.6	22.9	-	18.9	80.6	0.6	18.9
70歳以上	209	3.3	32.1	63.6	1.0	35.4	1.9	28.2	67.9	1.9	30.1	0.5	23.9	73.2	2.4	24.4
女 性	1,238	0.8	20.4	75.7	3.1	21.2	0.5	16.1	80.9	2.6	16.6	0.3	14.7	82.1	2.8	15.0
18～29歳	129	-	12.4	87.6	-	12.4	-	14.7	85.3	-	14.7	-	3.9	96.1	-	3.9
30代	178	0.6	9.0	89.3	1.1	9.6	1.1	9.0	88.8	1.1	10.1	0.6	5.1	93.3	1.1	5.6
40代	225	0.9	19.6	78.7	0.9	20.4	-	19.6	80.0	0.4	19.6	0.4	16.9	81.8	0.9	17.3
50代	248	0.8	23.8	75.4	-	24.6	0.8	16.9	81.9	0.4	17.7	0.8	17.7	81.0	0.4	18.5
60代	213	0.9	27.7	70.4	0.9	28.6	0.5	19.2	79.8	0.5	19.7	-	22.5	76.5	0.9	22.5
70歳以上	244	1.2	24.2	61.9	12.7	25.4	0.4	15.2	73.8	10.7	15.6	-	15.6	73.4	11.1	15.6
<居住区別>																
西 区	133	3.0	22.6	72.2	2.3	25.6	-	18.8	79.7	1.5	18.8	1.5	13.5	81.2	3.8	15.0
北 区	243	0.4	21.4	77.4	0.8	21.8	-	15.2	83.1	1.6	15.2	-	10.7	88.5	0.8	10.7
大宮区	226	1.3	20.8	76.5	1.3	22.1	-	21.2	77.9	0.9	21.2	-	14.6	84.1	1.3	14.6
見沼区	269	2.6	23.8	70.3	3.3	26.4	0.7	19.7	77.3	2.2	20.4	-	19.7	78.1	2.2	19.7
中央区	176	2.8	22.2	73.9	1.1	25.0	1.7	18.8	78.4	1.1	20.5	1.1	14.2	83.0	1.7	15.3
桜区	134	0.7	17.2	79.9	2.2	17.9	1.5	15.7	80.6	2.2	17.2	0.7	13.4	83.6	2.2	14.2
浦和区	313	0.6	20.8	76.4	2.2	21.4	1.0	21.1	75.7	2.2	22.0	0.6	19.8	77.0	2.6	20.4
南区	320	0.9	20.3	77.5	1.3	21.3	0.9	18.8	79.7	0.6	19.7	-	13.8	85.0	1.3	13.8
緑区	202	1.5	14.4	81.7	2.5	15.8	0.5	13.9	83.7	2.0	14.4	0.5	14.9	83.2	1.5	15.3
岩槻区	175	-	18.9	76.6	4.6	18.9	1.1	18.9	76.0	4.0	20.0	-	16.6	78.3	5.1	16.6

属 性 別

「わたしの提案」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、男性70歳以上（35.4%）で3割半ばであった。

「パブリック・コメント」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、男性（22.3%）が女性（16.6%）より5.7ポイント高く、男性では年代が上がるにつれ高くなる傾向があった。

「タウンミーティング」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、男性70歳以上（24.4%）、女性60代（22.5%）で2割台であった。（表4-5-1）

表4-5-1 市民の声を聴く事業の認知度－性・年代別、居住区別－（その2）

	n	アンケート調査					住民相談				
		利用 した こと が あ る	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答	知 っ て い た （ 計 ）	利 用 し た こ と が あ る	知 っ て い た	知 ら な か つ た	無 回 答	知 っ て い た （ 計 ）
全 体	2,215	0.6	9.8	87.0	2.5	10.5	2.4	26.4	69.4	1.8	28.8
<性・年代別>											
男 性	938	0.9	11.4	86.9	0.9	12.3	2.0	23.0	74.3	0.6	25.1
18～29歳	91	2.2	9.9	87.9	-	12.1	-	11.0	89.0	-	11.0
30代	122	0.8	8.2	91.0	-	9.0	1.6	8.2	90.2	-	9.8
40代	156	0.6	6.4	92.9	-	7.1	1.3	14.1	84.6	-	15.4
50代	185	1.6	14.1	82.7	1.6	15.7	2.7	27.0	68.6	1.6	29.7
60代	175	-	11.4	88.0	0.6	11.4	1.7	23.4	74.3	0.6	25.1
70歳以上	209	0.5	15.3	82.3	1.9	15.8	3.3	39.7	56.0	1.0	43.1
女 性	1,238	0.4	8.5	87.8	3.3	8.9	2.7	28.8	66.2	2.3	31.4
18～29歳	129	-	8.5	91.5	-	8.5	0.8	16.3	82.9	-	17.1
30代	178	1.1	3.4	94.4	1.1	4.5	1.1	16.3	81.5	1.1	17.4
40代	225	0.9	9.8	88.4	0.9	10.7	0.9	23.1	75.1	0.9	24.0
50代	248	-	8.1	91.5	0.4	8.1	4.4	27.8	67.7	-	32.3
60代	213	-	11.7	87.3	0.9	11.7	1.9	39.9	58.2	-	41.8
70歳以上	244	0.4	8.6	77.5	13.5	9.0	5.3	41.0	43.9	9.8	46.3
<居住区別>											
西 区	133	0.8	14.3	82.0	3.0	15.0	1.5	31.6	64.7	2.3	33.1
北 区	243	0.8	6.6	91.4	1.2	7.4	0.4	25.5	73.3	0.8	25.9
大 宮 区	226	0.4	11.5	86.7	1.3	11.9	3.1	24.3	71.2	1.3	27.4
見 沼 区	269	1.1	13.8	81.8	3.3	14.9	1.5	28.6	67.3	2.6	30.1
中 央 区	176	1.7	10.2	86.9	1.1	11.9	4.5	27.3	66.5	1.7	31.8
桜 区	134	0.7	11.2	85.8	2.2	11.9	3.0	25.4	70.1	1.5	28.4
浦 和 区	313	0.3	11.2	85.9	2.6	11.5	2.2	28.4	67.7	1.6	30.7
南 区	320	-	7.8	91.3	0.9	7.8	3.8	26.9	68.8	0.6	30.6
緑 区	202	0.5	5.0	91.6	3.0	5.4	2.0	23.3	72.3	2.5	25.2
岩 槻 区	175	0.6	6.9	87.4	5.1	7.4	2.3	20.6	74.9	2.3	22.9

属 性 別

「アンケート調査」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、男性70歳以上（15.8%）、男性50代（15.7%）で1割半ばであった。

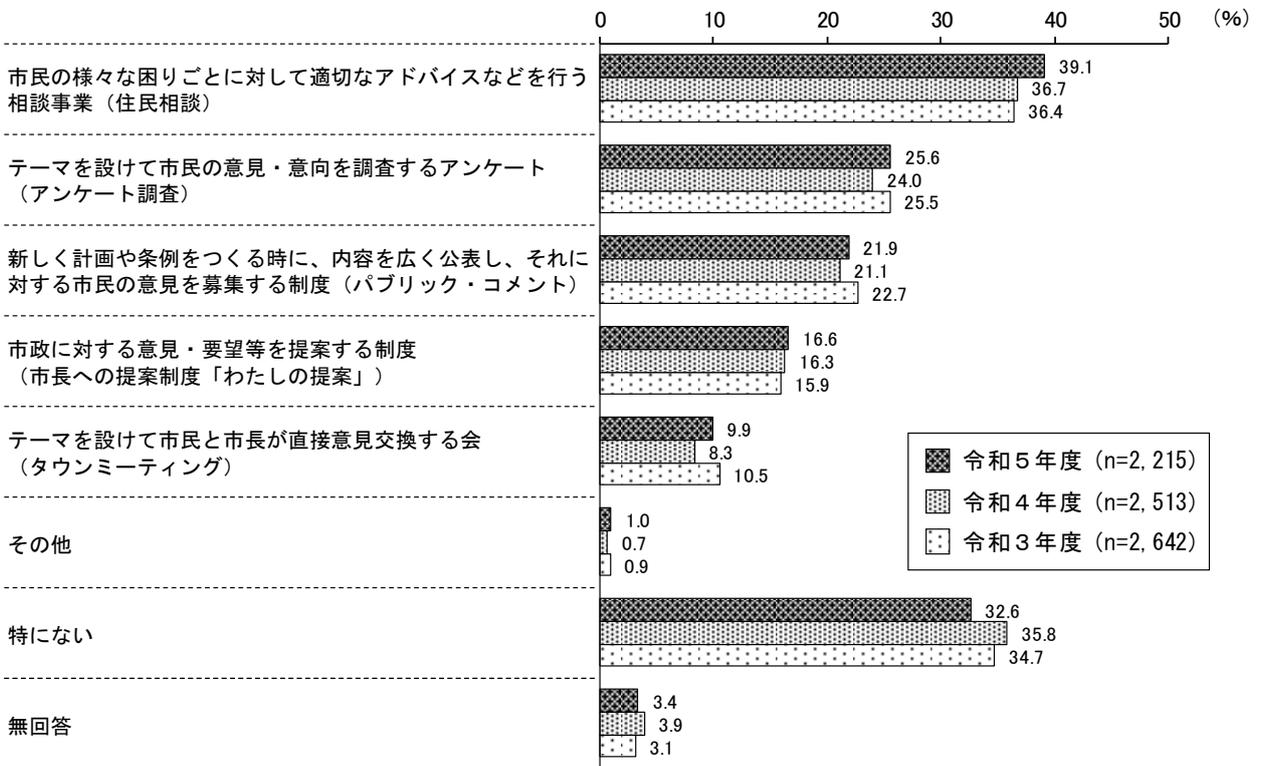
「住民相談」について、性・年代別でみると、『知っていた（計）』は、女性（31.4%）が男性（25.1%）より6.3ポイント高く、女性では年代が上がるにつれ高くなる傾向があった。（表4-5-1）

(6) 今後利用してみたい事業

問 12 さいたま市では、広く市民の声を聴く事業を行っています。

(2) 前問と同じ1～5の項目で、あなたが今後利用してみたい、あるいは、機会があれば協力してみたい事業に○をつけてください。(○はいくつでも)

図 4-6-1 今後利用してみたい事業



全体結果

「住民相談」が39.1%で最も高く、「アンケート調査」(25.6%)、「パブリック・コメント」(21.9%)が2割台が続いた。一方、「特になし」(32.6%)は、3割を超えた。

過去2年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図4-6-1)

表4-6-1 今後利用してみたい事業－性・年代別、居住区別－

		(%)							
	n	市民の様々な困りごとに対して適切なアドバイスなどを行う相談事業（住民相談）	テーマを設けて市民の意見・意向を調査するアンケート（アンケート調査）	新しく計画や条例をつくる時に、内容を広く公表し、それに対する市民の意見を募集する制度（パブリック・コメント）	市政に対する意見・要望等を提案する制度（市長への提案制度「わたしの提案」）	テーマを設けて市民と市長が直接意見交換する会（タウンミーティング）	その他	特にない	無回答
全体	2,215	39.1	25.6	21.9	16.6	9.9	1.0	32.6	3.4
＜性・年代別＞									
男性	938	37.6	27.4	24.9	20.4	12.5	0.7	30.2	2.7
18～29歳	91	25.3	28.6	24.2	26.4	13.2	-	37.4	-
30代	122	19.7	22.1	25.4	23.0	8.2	-	38.5	1.6
40代	156	31.4	32.1	22.4	20.5	10.9	-	30.1	4.5
50代	185	43.8	22.2	24.3	13.0	10.3	-	31.4	2.2
60代	175	45.7	32.6	28.6	24.0	15.4	2.3	24.0	2.3
70歳以上	209	45.9	26.8	24.4	19.6	15.3	1.4	26.3	3.8
女性	1,238	40.1	24.2	19.5	13.7	8.2	1.2	34.9	3.5
18～29歳	129	20.9	18.6	21.7	14.0	7.8	-	49.6	1.6
30代	178	32.0	28.1	18.0	16.3	8.4	-	36.0	2.8
40代	225	38.7	29.3	19.1	14.2	7.6	0.9	34.7	1.8
50代	248	45.6	24.6	21.4	14.1	8.5	1.6	32.3	2.0
60代	213	49.8	23.5	18.8	15.0	10.8	3.3	31.9	1.4
70歳以上	244	43.4	20.1	18.4	9.4	6.1	0.8	31.6	9.8
＜居住区別＞									
西区	133	40.6	26.3	15.0	12.0	8.3	3.0	34.6	6.0
北区	243	40.7	25.1	17.3	12.3	10.7	0.4	35.0	3.7
大宮区	226	41.2	30.1	28.3	17.3	10.2	1.8	26.5	2.7
見沼区	269	40.1	23.0	23.0	21.9	10.4	1.5	31.6	1.5
中央区	176	37.5	20.5	27.3	21.6	8.5	1.1	29.0	1.1
桜区	134	34.3	25.4	23.1	11.2	9.0	0.7	44.0	3.0
浦和区	313	38.3	27.5	18.8	19.2	12.5	0.3	31.6	4.5
南区	320	38.1	29.7	22.5	15.3	10.0	0.3	34.4	2.2
緑区	202	40.6	18.8	21.3	16.8	7.4	2.0	33.2	2.5
岩槻区	175	38.9	25.7	21.7	14.9	10.9	-	33.1	4.6

属性別

性・年代別でみると、「パブリック・コメント」、「わたしの提案」は、男性が女性より5ポイント以上高かった。また、「住民相談」は男女とも50代以上で4割台であった。一方、「特にない」は、女性18～29歳（49.6%）で5割であった。（表4-6-1）

5. 市政への満足度・重視度

(1) 図、表中の項目表示簡略化対照表

図、表中の項目表示簡略化対照表を示す。(表5-1-1)

表5-1-1 図、表中の項目表示簡略化対照表

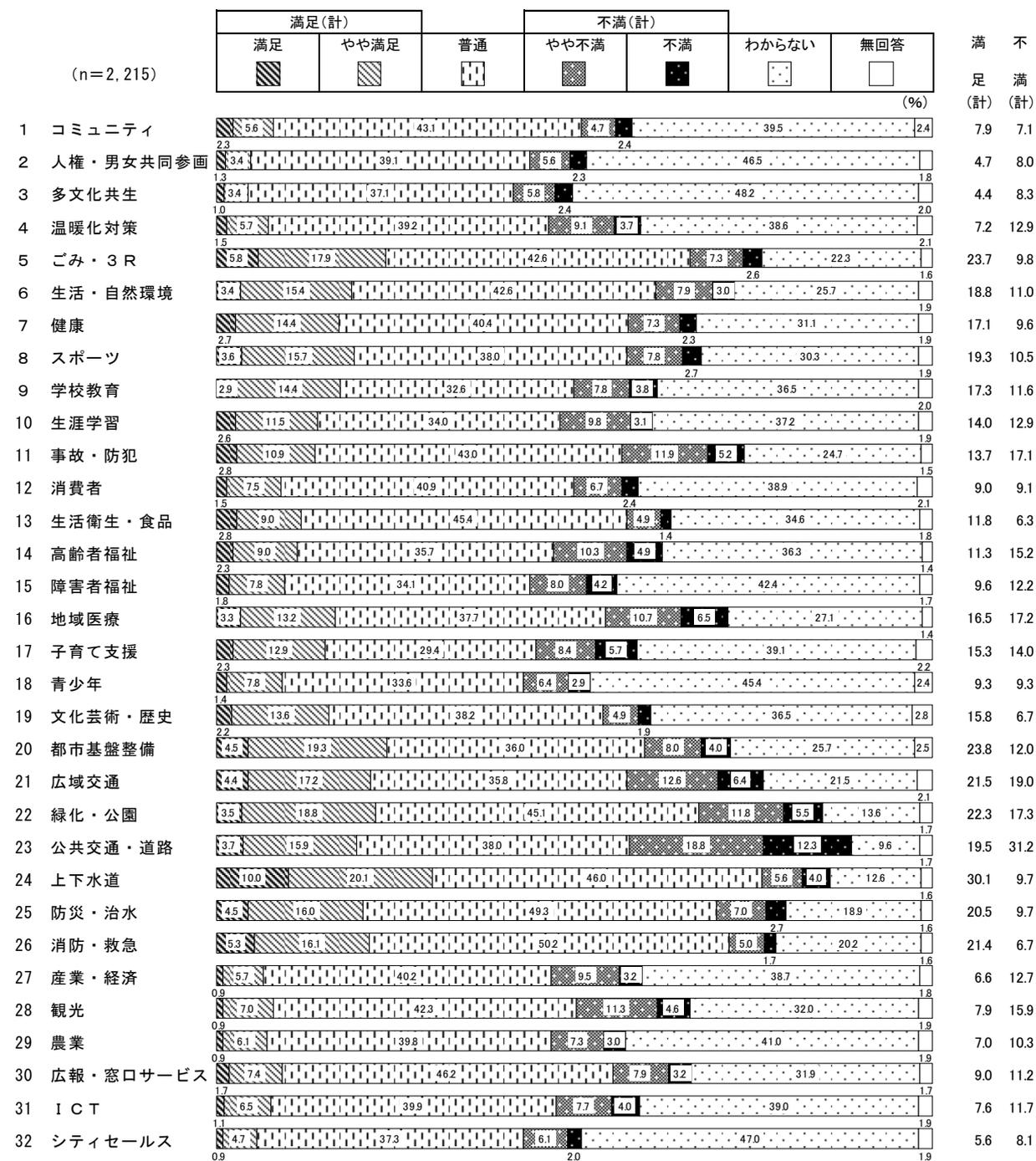
調査票内表示		報告書内表示
コミュニティ ・人権 ・多文化共生	1 地域住民等の交流や自主的活動の促進	コミュニティ
	2 人権尊重社会の実現／男女共同参画社会の実現	人権・男女共同参画
	3 国際交流・多文化共生社会の推進／恒久平和への貢献	多文化共生
環 境	4 地球温暖化対策の推進	温暖化対策
	5 ごみの適正な処理／3R（減量・再使用・再生）の推進	ごみ・3R
	6 良好な生活環境と自然環境の保全・創造	生活・自然環境
健康 ・スポーツ	7 スポーツなどを通じた健康づくりの推進	健康
	8 スポーツの振興／スポーツ環境の充実	スポーツ
教 育	9 魅力ある学校教育の推進	学校教育
	10 生涯学習の振興／学習環境の充実	生涯学習
生活安全	11 交通事故防止／防犯対策の推進	事故・防犯
	12 消費者トラブル防止	消費者
	13 生活衛生と食品の安全	生活衛生・食品
福祉・医療	14 高齢者福祉の充実	高齢者福祉
	15 障害者福祉の充実	障害者福祉
	16 地域医療体制・感染症対策の充実	地域医療
子ども ・子育て	17 子育て支援の充実	子育て支援
	18 青少年の健全育成	青少年
文 化	19 文化芸術の振興／歴史文化資源の保存・継承・活用	文化芸術・歴史
都市 インフラ	20 都心・副都心の都市基盤整備	都市基盤整備
	21 広域交通網の整備	広域交通
	22 緑化の推進・公園整備／良好な住環境の形成	緑化・公園
	23 身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備	公共交通・道路
	24 安全・安定的な水の供給／下水道の整備	上下水道
防災・消防	25 防災・治水対策	防災・治水
	26 消防・救急体制の強化	消防・救急
経済・産業	27 新たな産業の創出／地域経済支援／就労支援	産業・経済
	28 観光の振興	観光
	29 都市農業の振興	農業
質の高い 都市経営	30 広報・広聴機能の充実／効率的な窓口サービス	広報・窓口サービス
	31 ICTやデータを活用した行政サービス	ICT
	32 シティセールスの推進	シティセールス

(2) 施策や事業の満足度

問 13 あなたは、以下の 1～32 の施策や事業について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つつ)

図 5-2-1 施策や事業の満足度

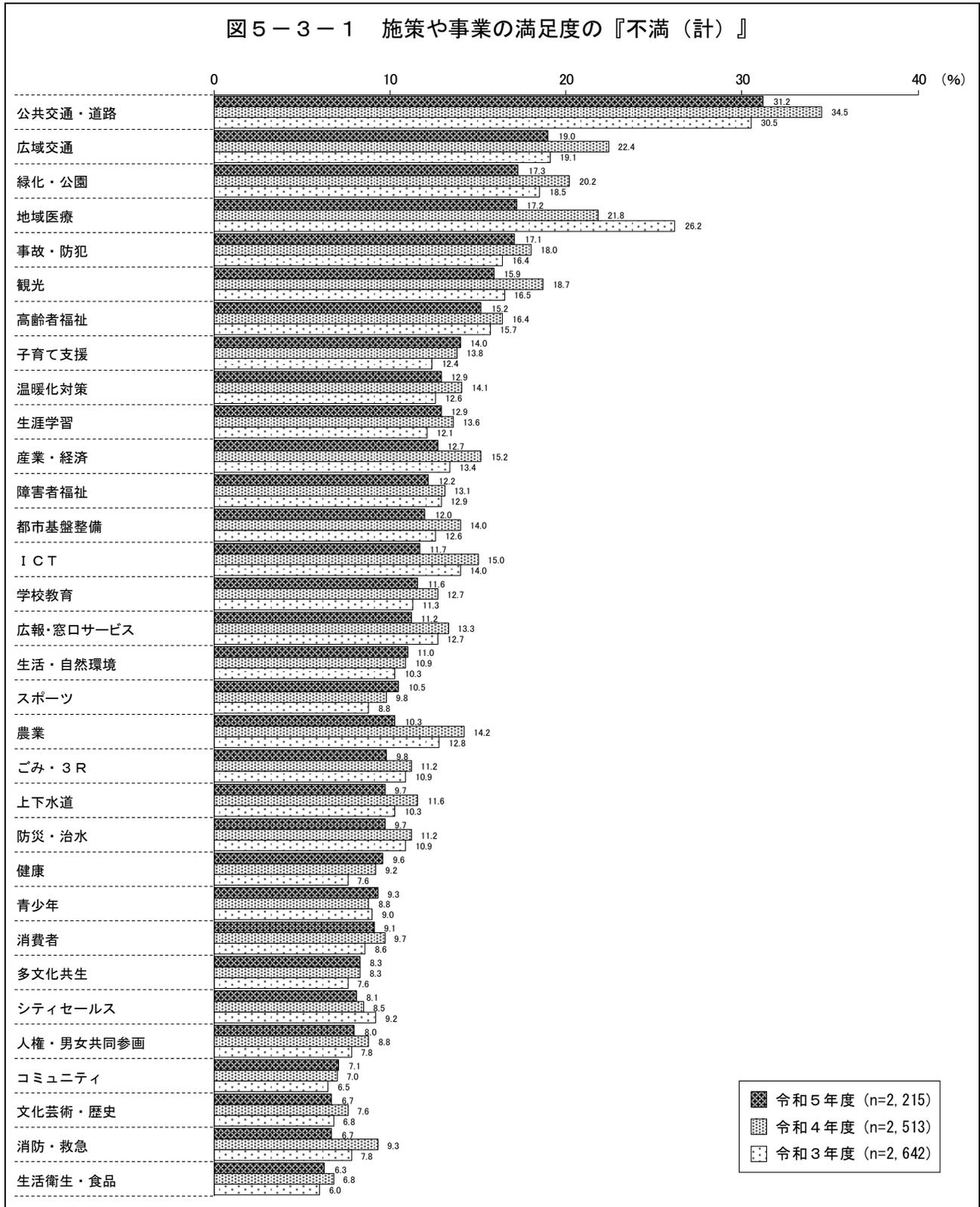


全体結果

「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』は、「上下水道」が30.1%で最も高く、「都市基盤整備」(23.8%)、「ごみ・3R」(23.7%)が続いた。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満(計)』は、「公共交通・道路」が31.2%で最も高く、「広域交通」(19.0%)、「緑化・公園」(17.3%)が続いた。

『満足(計)』が『不満(計)』を上回ったのは16項目で、『不満(計)』が『満足(計)』を上回ったのは15項目であった(「青少年」は同率)。(図5-2-1)

(3) 施策や事業の満足度の『不満(計)』



全体結果

「公共交通・道路」が31.2%で最も高く、「広域交通」(19.0%)、「緑化・公園」(17.3%)が続いた。過去2年間の調査結果と比較すると、「地域医療」は減少傾向にある。(図5-3-1)

表5-3-1 施策や事業の満足度の『不満(計)』上位6項目-性・年代別-

男性(計) (n=938)	(%)	男性18~29歳 (n=91)	(%)	男性30代 (n=122)	(%)	男性40代 (n=156)	(%)
公共交通・道路	30.7	観光	20.9	公共交通・道路	29.5	公共交通・道路	26.3
広域交通	21.0	公共交通・道路	18.7	広域交通	25.4	観光	22.4
観光	19.1	事故・防犯	17.6	事故・防犯	18.0	広域交通	19.9
事故・防犯	18.1	学校教育	15.4	子育て支援	18.0	事故・防犯	16.7
緑化・公園	17.6	健康	14.3	観光	18.0	農業	16.7
産業・経済	15.1	スポーツ	13.2	I C T	18.0	産業・経済	16.0
		生涯学習	13.2				

男性50代 (n=185)	(%)	男性60代 (n=175)	(%)	男性70歳以上 (n=209)	(%)
公共交通・道路	29.7	公共交通・道路	38.3	公共交通・道路	34.4
広域交通	19.5	広域交通	28.0	高齢者福祉	24.4
事故・防犯	18.9	高齢者福祉	25.7	緑化・公園	22.0
観光	17.3	緑化・公園	25.1	地域医療	21.1
産業・経済	15.7	事故・防犯	24.6	広域交通	20.6
緑化・公園	14.6	観光	23.4	生活・自然環境	18.2

女性(計) (n=1,238)	(%)	女性18~29歳 (n=129)	(%)	女性30代 (n=178)	(%)	女性40代 (n=225)	(%)
公共交通・道路	31.3	公共交通・道路	14.0	子育て支援	32.0	公共交通・道路	28.4
地域医療	19.3	地域医療	13.2	公共交通・道路	31.5	広域交通	20.9
広域交通	17.4	観光	13.2	事故・防犯	18.0	子育て支援	20.4
緑化・公園	17.1	学校教育	12.4	学校教育	15.2	地域医療	20.0
事故・防犯	16.4	子育て支援	12.4	生涯学習	14.0	事故・防犯	17.8
子育て支援	15.9	広域交通	11.6	青少年	14.0	緑化・公園	15.6
				広域交通	14.0		

女性50代 (n=248)	(%)	女性60代 (n=213)	(%)	女性70歳以上 (n=244)	(%)
公共交通・道路	35.9	公共交通・道路	39.0	公共交通・道路	32.0
地域医療	22.2	緑化・公園	25.8	高齢者福祉	24.6
事故・防犯	21.4	高齢者福祉	20.2	地域医療	23.4
広域交通	20.6	地域医療	20.2	温暖化対策	20.5
緑化・公園	19.0	健康	19.7	緑化・公園	18.4
高齢者福祉	16.5	スポーツ	17.8	広域交通	16.4
子育て支援	16.5	広域交通	17.8		
観光	16.5				

(注記1) 男性18~29歳は、「スポーツ」と「生涯学習」が同じ割合で6位であった。

(注記2) 女性30代は、「生涯学習」と「青少年」と「広域交通」が同じ割合で5位であった。

(注記3) 女性50代は、「高齢者福祉」と「子育て支援」と「観光」が同じ割合で6位であった。

(注記4) 女性60代は、「スポーツ」と「広域交通」が同じ割合で6位であった。

属性別

性・年代別でみると、「公共交通・道路」は、男性18~29歳、女性30代を除く年代で1位であった。また、「広域交通」は、幅広い年代で上位6項目に入った。一方、「緑化・公園」は男性50代以上、女性40代以上、「高齢者福祉」は男性60代以上、女性50代以上、「子育て支援」は男性30代、女性50代以下など、特定の年代で上位6項目に入った。(表5-3-1)

表5-3-2 施策や事業の満足度の『不満（計）』上位6項目－居住区別－

西区 (n=133)	(%)	北区 (n=243)	(%)	大宮区 (n=226)	(%)	見沼区 (n=269)	(%)	中央区 (n=176)	(%)
公共交通・道路	28.6	公共交通・道路	32.1	公共交通・道路	27.4	公共交通・道路	35.3	公共交通・道路	34.1
広域交通	19.5	事故・防犯	20.6	地域医療	17.7	広域交通	24.5	緑化・公園	18.8
事故・防犯	15.0	地域医療	20.2	事故・防犯	16.4	事故・防犯	17.5	地域医療	18.2
観光	14.3	広域交通	20.2	広域交通	15.9	地域医療	17.5	事故・防犯	17.6
地域医療	12.8	緑化・公園	19.3	子育て支援	15.0	都市基盤整備	16.0	高齢者福祉	15.9
高齢者福祉	12.0	観光	18.1	生涯学習	14.2	高齢者福祉	15.6	観光	15.9
緑化・公園	12.0								

桜区 (n=134)	(%)	浦和区 (n=313)	(%)	南区 (n=320)	(%)	緑区 (n=202)	(%)	岩槻区 (n=175)	(%)
公共交通・道路	31.3	公共交通・道路	28.1	公共交通・道路	30.6	公共交通・道路	34.7	公共交通・道路	29.1
地域医療	20.1	緑化・公園	20.4	緑化・公園	19.1	広域交通	26.2	広域交通	21.1
高齢者福祉	17.9	事故・防犯	16.9	広域交通	17.8	事故・防犯	21.3	観光	19.4
緑化・公園	17.2	地域医療	16.6	事故・防犯	15.9	緑化・公園	20.8	上下水道	16.0
防災・治水	17.2	観光	15.0	地域医療	15.9	地域医療	20.3	温暖化対策	14.9
学校教育	15.7	高齢者福祉	14.4	高齢者福祉	15.0	高齢者福祉	19.3	学校教育	14.3
生涯学習	15.7	広域交通	14.4			観光	19.3	都市基盤整備	14.3
事故・防犯	15.7								

(注記1) 西区は、「高齢者福祉」と「緑化・公園」が同じ割合で6位であった。

(注記2) 桜区は、「学校教育」と「生涯学習」と「事故・防犯」が同じ割合で6位であった。

(注記3) 浦和区は、「高齢者福祉」と「広域交通」が同じ割合で6位であった。

(注記4) 緑区は、「高齢者福祉」と「観光」が同じ割合で6位であった。

(注記5) 岩槻区は、「学校教育」と「都市基盤整備」が同じ割合で6位であった。

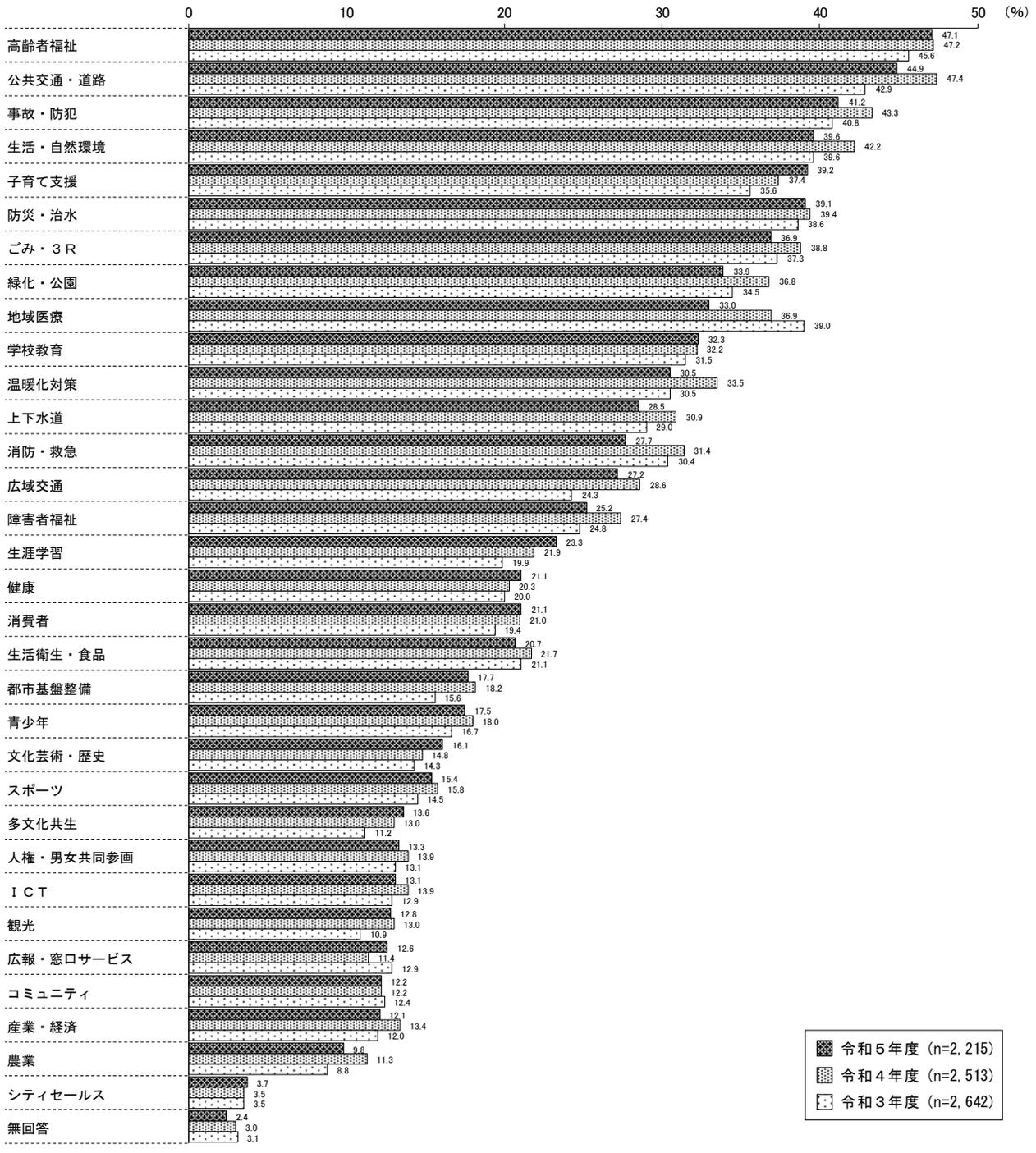
属性別

居住区別でみると、「公共交通・道路」は、すべての区で1位であった。「地域医療」、「事故・防犯」は9区、「広域交通」は8区、「緑化・公園」、「高齢者福祉」は7区、「観光」は6区で上位6項目に入った。また、「都市基盤整備」は見沼区、岩槻区の2区、「生涯学習」は大宮区、桜区の2区で上位6項目に入った。(表5-3-2)

(4) 今後力を入れてほしい施策

問 14 前問と同じ1～32の項目の中で、あなたが、今後力を入れて取り組んでほしいと思うものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図5-4-1 今後力を入れてほしい施策



全体結果

「高齢者福祉」が47.1%で最も高く、「公共交通・道路」(44.9%)、「事故・防犯」(41.2%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「子育て支援」は増加傾向にある。一方、「地域医療」は減少傾向にある。(図5-4-1)

表5-4-1 今後力を入れてほしい施策（上位6項目）－性・年代別－

男性（計） （n=938）	（%）	男性18～29歳 （n=91）	（%）	男性30代 （n=122）	（%）	男性40代 （n=156）	（%）
高齢者福祉	43.8	学校教育	39.6	子育て支援	69.7	子育て支援	44.2
事故・防犯	42.6	公共交通・道路	38.5	学校教育	49.2	学校教育	40.4
公共交通・道路	42.1	子育て支援	37.4	公共交通・道路	42.6	生活・自然環境	39.7
生活・自然環境	39.1	事故・防犯	30.8	事故・防犯	41.0	事故・防犯	37.8
防災・治水	38.8	生活・自然環境	29.7	広域交通	35.2	防災・治水	37.8
子育て支援	36.7	健康	28.6	防災・治水	35.2	公共交通・道路	34.6
		広域交通	28.6				

男性50代 （n=185）	（%）	男性60代 （n=175）	（%）	男性70歳以上 （n=209）	（%）
事故・防犯	47.6	高齢者福祉	68.6	高齢者福祉	64.1
高齢者福祉	47.6	防災・治水	45.7	ごみ・3R	50.2
公共交通・道路	43.2	事故・防犯	44.6	事故・防犯	46.4
防災・治水	41.1	公共交通・道路	44.6	生活・自然環境	45.9
ごみ・3R	37.3	ごみ・3R	43.4	公共交通・道路	45.9
生活・自然環境	34.6	生活・自然環境	43.4	地域医療	43.5

女性（計） （n=1,238）	（%）	女性18～29歳 （n=129）	（%）	女性30代 （n=178）	（%）	女性40代 （n=225）	（%）
高齢者福祉	49.4	子育て支援	46.5	子育て支援	67.4	子育て支援	56.4
公共交通・道路	47.1	防災・治水	36.4	公共交通・道路	51.7	学校教育	48.4
子育て支援	41.0	学校教育	34.1	学校教育	51.1	公共交通・道路	43.6
事故・防犯	40.2	公共交通・道路	33.3	事故・防犯	43.8	高齢者福祉	39.1
生活・自然環境	40.1	事故・防犯	32.6	防災・治水	42.1	事故・防犯	37.3
防災・治水	39.3	生活・自然環境	27.1	緑化・公園	37.1	防災・治水	36.9

女性50代 （n=248）	（%）	女性60代 （n=213）	（%）	女性70歳以上 （n=244）	（%）
高齢者福祉	56.5	高齢者福祉	65.7	高齢者福祉	75.0
公共交通・道路	50.4	ごみ・3R	46.0	ごみ・3R	59.4
防災・治水	44.4	公共交通・道路	46.0	温暖化対策	59.0
生活・自然環境	42.3	生活・自然環境	45.5	公共交通・道路	52.0
事故・防犯	42.3	温暖化対策	38.5	生活・自然環境	48.8
ごみ・3R	40.7	地域医療	38.5	地域医療	46.3
地域医療	40.7				

（注記1）男性18～29歳は、「健康」と「広域交通」が同じ割合で6位であった。

（注記2）女性50代は、「ごみ・3R」と「地域医療」が同じ割合で6位であった。

属性別

性・年代別でみると、「公共交通」はすべての年代、「高齢者福祉」は男性50代以上、女性40代以上、「子育て支援」は男女とも40代以下で上位6項目に入った。また、「事故・防犯」、「生活・自然環境」「防災・治水」も幅広い年代で上位6項目に入った。（表5-4-1）

表 5-4-2 今後力を入れてほしい施策（上位 6 項目）－居住区別－

西 区 (n=133)	(%)	北 区 (n=243)	(%)	大宮区 (n=226)	(%)	見沼区 (n=269)	(%)	中央区 (n=176)	(%)
公共交通・道路	52.6	高齢者福祉	48.6	公共交通・道路	49.6	高齢者福祉	51.7	高齢者福祉	44.3
防災・治水	43.6	公共交通・道路	46.5	事故・防犯	46.9	公共交通・道路	44.2	子育て支援	42.0
事故・防犯	42.9	事故・防犯	45.7	高齢者福祉	46.0	生活・自然環境	39.0	防災・治水	41.5
高齢者福祉	42.1	ごみ・3R	40.7	生活・自然環境	43.4	ごみ・3R	36.8	公共交通・道路	40.3
生活・自然環境	41.4	生活・自然環境	37.4	地域医療	39.4	事故・防犯	34.9	事故・防犯	39.8
子育て支援	39.8	防災・治水	35.8	緑化・公園	39.4	子育て支援	34.6	緑化・公園	38.1
				防災・治水	39.4	広域交通	34.6		

桜 区 (n=134)	(%)	浦和区 (n=313)	(%)	南 区 (n=320)	(%)	緑 区 (n=202)	(%)	岩槻区 (n=175)	(%)
高齢者福祉	50.7	高齢者福祉	48.2	高齢者福祉	47.2	高齢者福祉	44.6	高齢者福祉	44.0
公共交通・道路	50.7	事故・防犯	45.4	公共交通・道路	43.4	公共交通・道路	43.6	生活・自然環境	39.4
子育て支援	41.8	生活・自然環境	44.4	生活・自然環境	41.3	事故・防犯	43.1	防災・治水	39.4
防災・治水	41.8	公共交通・道路	44.1	子育て支援	40.6	子育て支援	43.1	公共交通・道路	38.9
事故・防犯	38.8	防災・治水	43.1	防災・治水	40.3	ごみ・3R	40.6	子育て支援	37.7
生活・自然環境	35.1	子育て支援	42.2	ごみ・3R	38.8	学校教育	37.1	事故・防犯	35.4

（注記 1）大宮区は、「地域医療」と「緑化・公園」と「防災・治水」が同じ割合で 5 位であった。

（注記 2）見沼区は、「子育て支援」と「広域交通」が同じ割合で 6 位であった。

属 性 別

居住区別でみると、「公共交通・道路」は西区、大宮区、「高齢者福祉」はそれ以外の 8 区で 1 位であった。また、「高齢者福祉」、「公共交通・道路」はすべての区、「事故・防犯」は 9 区、「生活・自然環境」、「子育て支援」、「防災・治水」は 8 区で上位 6 項目に入った。（表 5-4-2）

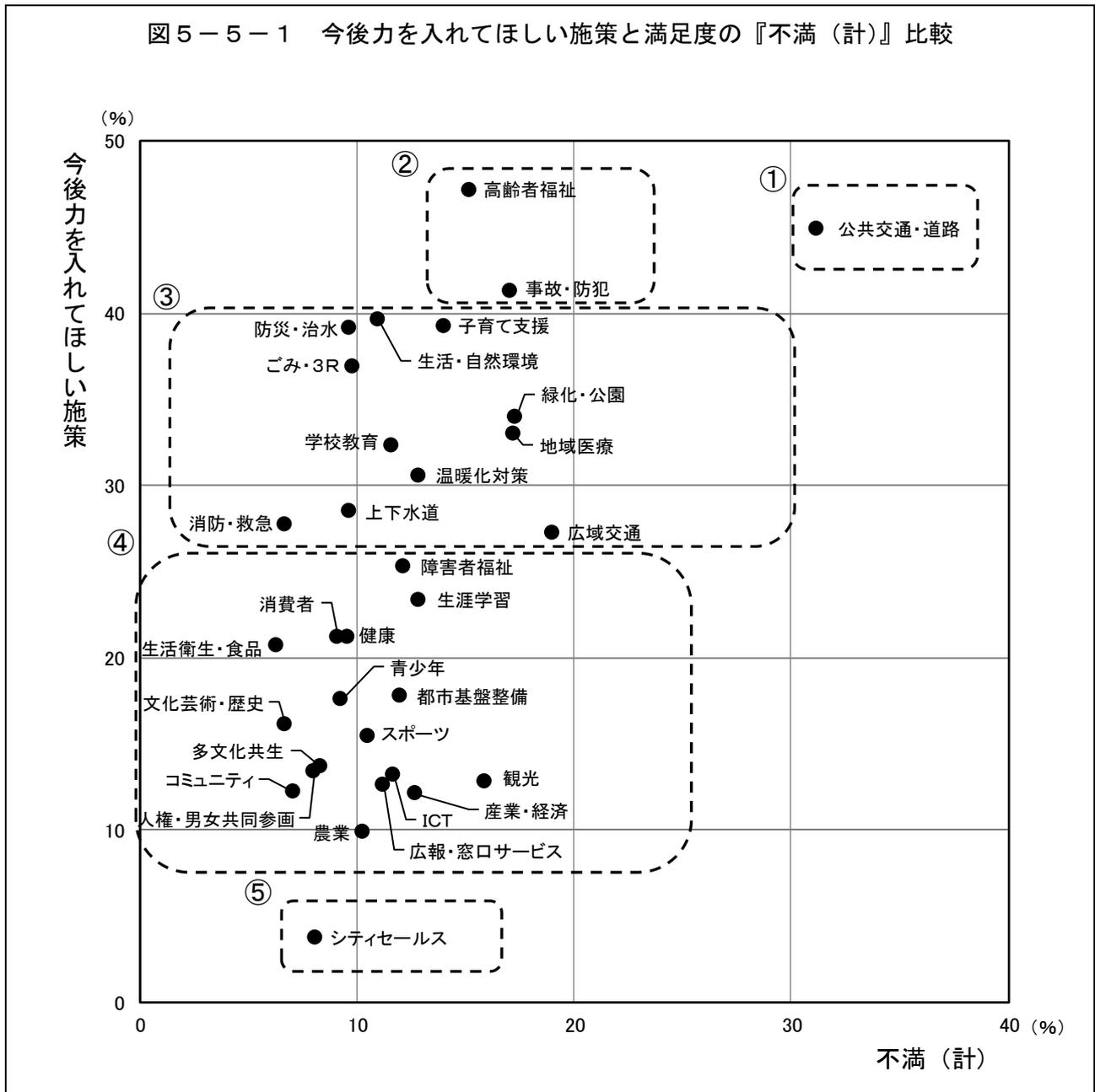
表5-4-3 今後力を入れてほしい施策一性・年代別、居住区別一（その1）

	n	(%)															
		1 高齢者福祉	2 公共交通・道路	3 事故・防犯	4 生活・自然環境	5 子育て支援	6 防災・治水	7 ごみ・3R	8 緑化・公園	9 地域医療	10 学校教育	11 温暖化対策	12 上下水道	13 消防・救急	14 広域交通	15 障害者福祉	16 生涯学習
全 体	2,215	47.1	44.9	41.2	39.6	39.2	39.1	36.9	33.9	33.0	32.3	30.5	28.5	27.7	27.2	25.2	23.3
<性・年代別>																	
男 性	938	43.8	42.1	42.6	39.1	36.7	38.8	35.5	33.6	29.7	30.0	28.3	26.5	24.5	31.6	23.7	22.0
18~29歳	91	11.0	38.5	30.8	29.7	37.4	23.1	23.1	27.5	13.2	39.6	20.9	16.5	17.6	28.6	12.1	16.5
30代	122	12.3	42.6	41.0	34.4	69.7	35.2	22.1	34.4	13.9	49.2	17.2	21.3	16.4	35.2	8.2	17.2
40代	156	28.2	34.6	37.8	39.7	44.2	37.8	22.4	30.1	26.9	40.4	19.9	21.8	20.5	32.7	19.2	21.8
50代	185	47.6	43.2	47.6	34.6	27.0	41.1	37.3	33.5	32.4	18.9	23.8	31.9	28.1	28.1	23.8	22.7
60代	175	68.6	44.6	44.6	43.4	25.7	45.7	43.4	35.4	32.6	20.6	37.1	28.0	28.6	36.0	37.7	26.3
70歳以上	209	64.1	45.9	46.4	45.9	29.2	40.7	50.2	36.8	43.5	24.4	40.7	31.6	28.7	29.2	29.2	23.0
女 性	1,238	49.4	47.1	40.2	40.1	41.0	39.3	38.1	34.2	35.3	34.1	32.4	29.9	30.0	23.7	26.0	24.1
18~29歳	129	19.4	33.3	32.6	27.1	46.5	36.4	21.7	20.2	24.0	34.1	14.7	19.4	19.4	21.7	12.4	14.0
30代	178	20.2	51.7	43.8	34.3	67.4	42.1	20.8	37.1	29.8	51.1	18.0	28.1	27.0	24.2	13.5	26.4
40代	225	39.1	43.6	37.3	34.7	56.4	36.9	27.6	33.3	24.9	48.4	20.0	25.3	28.0	21.8	24.9	22.2
50代	248	56.5	50.4	42.3	42.3	32.7	44.4	40.7	33.9	40.7	28.2	31.5	34.3	36.7	29.8	32.7	27.0
60代	213	65.7	46.0	35.7	45.5	30.5	37.6	46.0	38.0	38.5	25.4	38.5	28.2	30.0	19.2	27.2	27.2
70歳以上	244	75.0	52.0	45.9	48.8	21.7	36.9	59.4	37.7	46.3	21.7	59.0	38.1	33.2	24.2	35.2	23.8
<居住区別>																	
西 区	133	42.1	52.6	42.9	41.4	39.8	43.6	34.6	21.1	33.1	26.3	35.3	25.6	19.5	30.8	24.8	12.8
北 区	243	48.6	46.5	45.7	37.4	35.4	35.8	40.7	33.3	35.4	29.6	30.5	29.2	26.7	25.9	27.6	24.3
大 宮 区	226	46.0	49.6	46.9	43.4	36.7	39.4	35.8	39.4	39.4	30.5	30.1	30.5	31.0	27.4	27.4	23.0
見 沼 区	269	51.7	44.2	34.9	39.0	34.6	34.2	36.8	30.5	31.6	30.5	31.6	30.1	33.5	34.6	27.5	20.1
中 央 区	176	44.3	40.3	39.8	35.2	42.0	41.5	32.4	38.1	28.4	27.8	25.0	27.8	29.0	19.3	22.7	23.3
桜 区	134	50.7	50.7	38.8	35.1	41.8	41.8	31.3	32.8	33.6	33.6	23.1	32.1	29.9	24.6	23.1	16.4
浦 和 区	313	48.2	44.1	45.4	44.4	42.2	43.1	38.7	38.3	34.2	35.5	32.9	30.7	26.5	28.8	24.3	28.4
南 区	320	47.2	43.4	38.4	41.3	40.6	40.3	38.8	37.8	32.2	35.3	30.0	27.5	26.9	25.0	25.3	30.3
緑 区	202	44.6	43.6	43.1	34.7	43.1	35.1	40.6	35.1	30.7	37.1	30.7	24.3	28.2	24.8	27.7	24.8
岩 槻 区	175	44.0	38.9	35.4	39.4	37.7	39.4	33.1	22.9	29.7	32.0	33.7	26.9	22.9	29.1	18.9	16.0

表5-4-3 今後力を入れてほしい施策一性・年代別、居住区別一（その2）

		(%)																
		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
		健康	消費者	生活衛生・食品	都市基盤整備	青少年	文化芸術・歴史	スポーツ	多文化共生	人権・男女共同参画	ICT	観光	広報・窓口サービス	コミュニティ	産業・経済	農業	シテイセールス	
n																		
全 体		2,215	21.1	21.1	20.7	17.7	17.5	16.1	15.4	13.6	13.3	13.1	12.8	12.6	12.2	12.1	9.8	3.7
<性・年代別>																		
男 性		938	22.4	20.5	17.3	20.6	16.8	15.6	19.2	12.9	11.6	16.3	14.6	12.3	12.8	13.8	9.7	4.2
18~29歳		91	28.6	13.2	17.6	27.5	17.6	11.0	25.3	11.0	12.1	25.3	27.5	8.8	6.6	13.2	11.0	4.4
30代		122	19.7	9.8	8.2	28.7	19.7	9.8	22.1	6.6	1.6	24.6	11.5	11.5	6.6	13.1	9.0	4.1
40代		156	26.9	14.1	14.1	19.9	21.2	12.8	25.6	12.2	9.0	15.4	14.7	9.6	10.3	18.6	6.4	8.3
50代		185	20.0	28.6	17.8	16.8	15.1	18.4	17.3	14.1	10.8	14.6	14.6	13.5	6.5	15.1	8.6	2.2
60代		175	25.1	23.4	18.9	19.4	12.0	15.4	17.1	14.9	12.6	16.0	13.1	9.7	17.1	8.0	9.1	2.9
70歳以上		209	17.7	24.9	23.0	17.7	17.2	20.6	13.4	15.3	19.1	10.0	12.0	17.2	23.0	14.4	13.4	3.8
女 性		1,238	19.9	21.0	23.5	15.5	17.9	16.4	12.5	14.1	14.3	10.5	11.2	12.8	11.6	10.7	9.5	3.1
18~29歳		129	13.2	17.1	13.2	19.4	9.3	9.3	15.5	15.5	12.4	10.9	10.9	3.9	5.4	4.7	3.9	3.1
30代		178	14.0	14.0	16.9	18.5	23.6	15.7	11.8	11.8	18.0	21.3	15.2	10.7	7.3	11.8	6.7	3.4
40代		225	17.8	11.1	17.8	16.4	23.6	14.2	12.9	11.1	9.3	11.6	11.1	11.1	6.7	10.2	7.6	2.2
50代		248	19.0	27.8	27.4	16.5	13.3	17.7	12.5	14.9	13.7	9.3	14.9	12.9	9.7	14.5	11.3	2.8
60代		213	25.8	24.9	22.1	10.3	18.3	19.7	13.1	16.4	14.6	8.0	8.9	15.0	14.1	10.3	13.6	2.8
70歳以上		244	25.4	27.0	36.5	13.9	17.2	18.4	10.7	14.8	17.2	4.9	7.0	18.9	22.1	9.8	10.7	4.1
<居住区別>																		
西 区		133	16.5	19.5	17.3	15.8	15.8	9.8	9.8	9.8	12.8	7.5	14.3	9.0	10.5	9.0	11.3	3.8
北 区		243	21.4	22.2	20.6	18.5	13.6	15.6	12.8	11.9	12.3	10.7	11.9	12.3	14.4	11.9	8.2	1.6
大 宮 区		226	24.8	24.3	26.1	24.8	23.0	20.4	17.3	14.2	12.4	17.7	11.9	15.9	12.4	13.3	10.2	4.4
見 沼 区		269	19.0	22.7	21.2	17.1	15.2	15.6	16.0	16.4	13.4	8.9	13.0	11.2	15.2	13.0	10.8	4.1
中 央 区		176	17.6	18.2	18.8	21.6	10.8	14.8	14.8	9.1	9.7	13.6	15.3	11.4	10.2	9.1	6.3	2.8
桜 区		134	20.1	23.1	21.6	11.2	14.2	11.9	14.9	13.4	14.2	11.2	12.7	13.4	11.2	10.4	3.7	3.0
浦 和 区		313	21.4	20.4	20.1	18.8	21.4	17.6	15.7	11.5	14.7	14.4	12.5	13.1	11.5	15.7	9.3	4.8
南 区		320	22.5	21.3	24.7	16.9	20.0	19.4	16.3	19.1	16.3	17.2	11.9	15.6	13.8	13.4	10.9	4.1
緑 区		202	24.8	19.3	18.8	13.4	17.3	16.3	18.3	15.8	12.4	12.9	8.4	13.9	8.9	9.4	13.4	4.0
岩 槻 区		175	20.6	17.1	14.3	14.9	18.9	12.6	16.0	10.9	10.9	12.6	18.3	7.4	10.3	10.3	10.3	2.9

(5) 今後力を入れてほしい施策と満足度の『不満（計）』比較



全体結果

施策や事業の満足度の『不満（計）』（現状の満足度）と、今後力を入れてほしい施策（今後の重視度）の関係をみると、以下の5つのグループに分かれた。

- ①『不満（計）』が高く、今後の重視度が高い「公共交通・道路」
- ②『不満（計）』が中位で、今後の重視度が高い「高齢者福祉」、「事故・防犯」
- ③『不満（計）』と、今後の重視度がともに中位の「生活・自然環境」、「防災・治水」など
- ④『不満（計）』が中位で、今後の重視度が低い「障害者福祉」、「生涯学習」など
- ⑤『不満（計）』と、今後の重視度がともに低い「シティセールス」

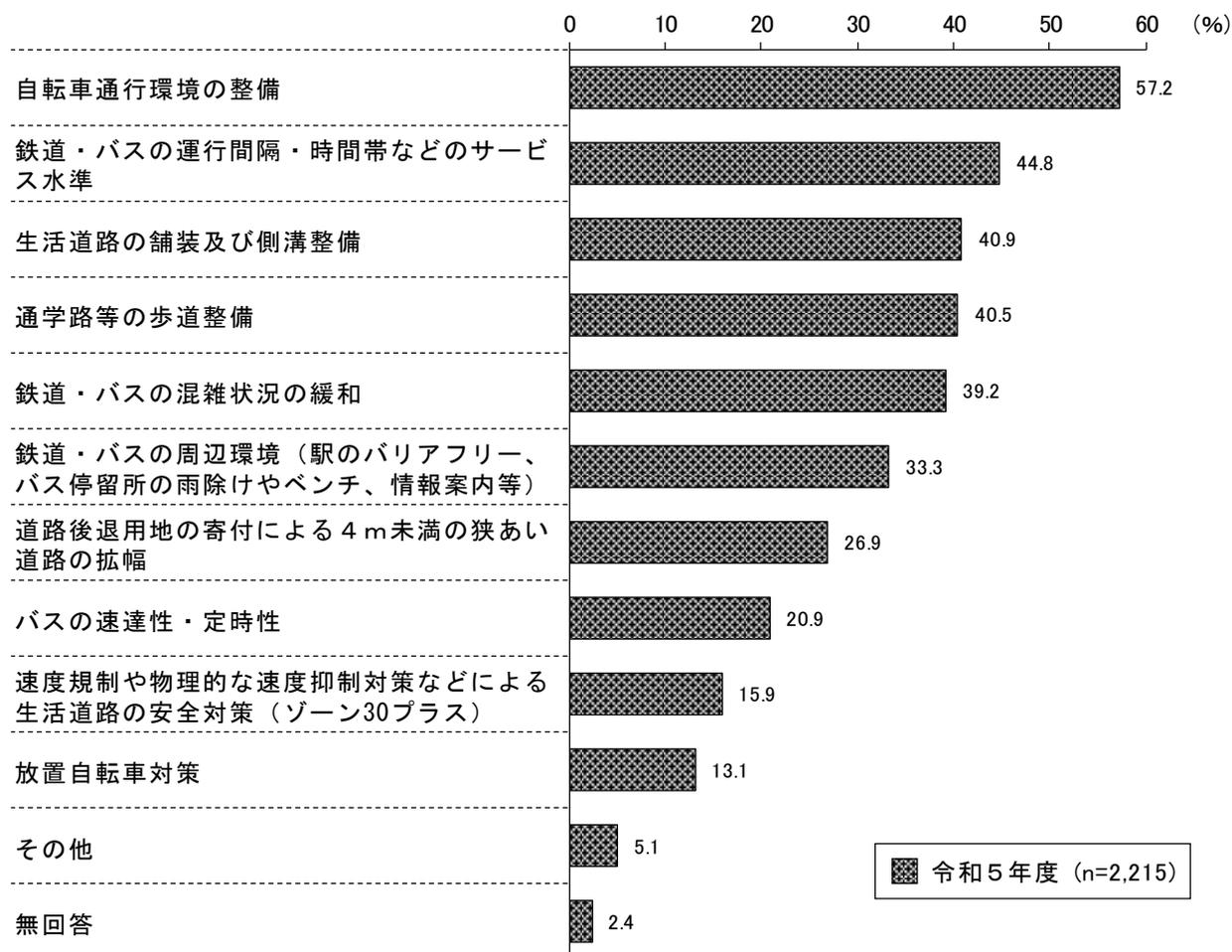
(図5-5-1)

6. さいたま市の道路

(1) 公共交通・生活道路・自転車利用環境の向上で特に重視すべき施策

問 15 市内の公共交通・生活道路・自転車利用環境の向上に関して、あなたが特に重視することは何ですか。(〇はいくつでも)

図 6-1-1 公共交通・生活道路・自転車利用環境の向上で特に重視すべき施策



全体結果

「自転車通行環境の整備」が 57.2%で最も高く、「鉄道・バスの運行間隔・時間帯などのサービス水準」(44.8%)、「生活道路の舗装及び側溝整備」(40.9%)、「通学路等の歩道整備」(40.5%)が4割台で続いた。(図6-1-1)

表6-1-1 公共交通・生活道路・自転車利用環境の向上で特に重視すべき施策
— 性・年代別、居住区別 —

	n	自転車 通行環境 の整備	鉄道・ バスの 運行間 隔・時 間帯 などの サービ ス水準	生活道 路の舗 装及び 側溝整 備	通学路 等の歩 道整備	鉄道・ バスの 混雑状 況の緩和	鉄道・ バスの 周辺環 境（駅 の除け やベン チ、情 報案内 等）	道路後 退用地 の寄付 による 4m未 満の狭 い道路 の拡幅	バス の速達 性・定 時性	速度規 制や物 理的な 速度抑 制対策 （ゾー ン30 プラス）	放置自 転車対 策	その他	無回 答
全 体	2,215	57.2	44.8	40.9	40.5	39.2	33.3	26.9	20.9	15.9	13.1	5.1	2.4
<性・年代別>													
男 性	938	54.7	43.4	39.9	38.6	39.0	29.9	31.6	20.5	17.4	13.9	5.7	2.1
18～29歳	91	51.6	44.0	29.7	25.3	57.1	33.0	25.3	15.4	9.9	14.3	1.1	2.2
30代	122	54.9	54.1	36.9	50.8	56.6	24.6	32.0	29.5	13.1	7.4	5.7	0.8
40代	156	51.3	46.8	41.0	47.4	45.5	22.4	34.6	19.2	12.8	5.1	7.1	0.6
50代	185	55.7	48.6	42.7	32.4	48.1	30.3	31.9	21.1	17.8	16.8	5.9	1.6
60代	175	52.0	36.6	41.1	30.9	28.6	34.3	29.7	20.6	16.0	17.7	8.0	2.9
70歳以上	209	59.8	35.4	41.6	42.6	16.7	33.0	33.0	17.7	27.3	18.2	4.3	3.8
女 性	1,238	59.3	45.9	41.9	42.1	39.9	35.8	23.6	21.6	14.9	12.5	4.6	2.3
18～29歳	129	46.5	57.4	20.9	29.5	65.1	31.8	17.8	28.7	6.2	10.1	1.6	-
30代	178	59.6	52.2	43.8	57.3	46.6	38.2	26.4	24.2	14.0	10.1	3.9	0.6
40代	225	63.1	49.3	36.0	53.3	43.1	27.6	23.1	20.4	14.7	13.8	4.9	1.3
50代	248	60.5	53.2	50.4	40.3	45.6	39.1	28.2	25.8	14.1	11.3	6.0	0.4
60代	213	60.1	38.0	51.6	40.4	30.0	38.0	20.7	16.0	17.8	13.1	6.6	2.3
70歳以上	244	60.2	31.6	39.8	30.7	21.7	38.5	23.0	17.6	18.9	15.2	3.3	7.4
<居住区別>													
西 区	133	47.4	61.7	39.8	43.6	27.8	26.3	27.1	27.8	13.5	9.0	3.8	3.0
北 区	243	58.8	50.6	37.0	39.1	44.4	33.7	25.5	21.4	12.8	14.0	2.9	2.9
大宮区	226	57.1	40.3	42.0	38.1	45.1	39.4	28.8	23.5	15.0	16.8	5.8	2.2
見沼区	269	58.7	42.8	46.5	36.1	34.2	36.4	30.1	20.4	16.0	11.5	6.3	1.9
中央区	176	63.6	37.5	34.7	33.5	31.3	29.0	30.1	15.3	17.6	13.1	8.0	3.4
桜 区	134	56.0	49.3	41.8	44.0	44.0	33.6	26.1	27.6	12.7	14.2	4.5	1.5
浦和区	313	61.7	38.0	40.3	41.5	44.7	30.7	25.9	15.7	19.2	15.3	5.4	0.3
南区	320	57.5	45.9	36.6	44.4	42.8	35.3	23.1	20.0	15.0	15.9	4.4	1.6
緑 区	202	57.9	52.5	43.6	43.6	43.1	35.6	28.2	30.7	17.3	8.4	5.4	1.5
岩槻区	175	47.4	39.4	50.3	42.3	26.3	26.9	27.4	15.4	18.3	9.1	4.6	6.3

属 性 別

性・年代別でみると、「鉄道・バスの周辺環境（駅のバリアフリー、バス停留所の雨除けやベンチ、情報案内等）」は、女性（35.8%）が男性（29.9%）より5.9ポイント高かった。「道路後退用地の寄付による4m未満の狭い道路の拡幅」は、男性（31.6%）が女性（23.6%）より8.0ポイント高かった。また、「鉄道・バスの混雑状況の緩和」は、男女とも年代が下がるにつれ高くなる傾向があった。

居住区別でみると、「鉄道・バスの運行間隔・時間帯などのサービス水準」は、西区（61.7%）で6割を超えた。また、「生活道路の舗装及び側溝整備」は、岩槻区（50.3%）で5割であった。

（表6-1-1）

表6-1-2 公共交通・生活道路・自転車利用環境の向上で特に重視すべき施策
-よく使う移動手段別-

	n	自転車通行環境の整備	鉄道・バスの運行間隔・時間帯などのサービス水準	生活道路の舗装及び側溝整備	通学路等の歩道整備	鉄道・バスの混雑状況の緩和	鉄道・バスの周辺環境（駅のバリアフリー、バス停留所の雨除けやベンチ、情報案内等）	道路後退用地の寄付による4m未満の狭あい道路の拡幅	バスの速達性・定時性	生活道路の安全対策（ゾーン30プラス）	速度規制や物理的な速度抑制対策などによる生活道路の安全対策（ゾーン30プラス）	放置自転車対策	その他	無回答
全 体	2,215	57.2	44.8	40.9	40.5	39.2	33.3	26.9	20.9	15.9	13.1	5.1	2.4	
<よく使う移動手段別>														
徒 歩	1,174	58.6	45.6	42.8	41.8	40.6	35.5	28.3	20.1	18.1	14.2	5.6	1.5	
自 転 車	998	69.7	45.1	41.6	42.8	39.4	33.7	26.4	19.8	15.0	13.3	4.8	1.7	
自 家 用 車	1,123	56.6	43.4	45.9	43.5	37.8	31.1	31.4	20.7	17.6	12.5	5.6	1.9	
バ イ ク	51	62.7	39.2	54.9	41.2	45.1	23.5	35.3	31.4	13.7	9.8	5.9	-	
電 車	1,219	58.0	50.6	40.0	40.5	46.1	36.2	28.0	21.7	16.0	13.1	5.5	1.4	
バ ス	545	58.5	53.8	39.3	37.2	45.3	44.4	30.5	36.5	16.3	14.3	7.9	2.8	
タ ク シ ー	93	49.5	38.7	40.9	32.3	29.0	38.7	32.3	30.1	21.5	12.9	10.8	5.4	

属 性 別

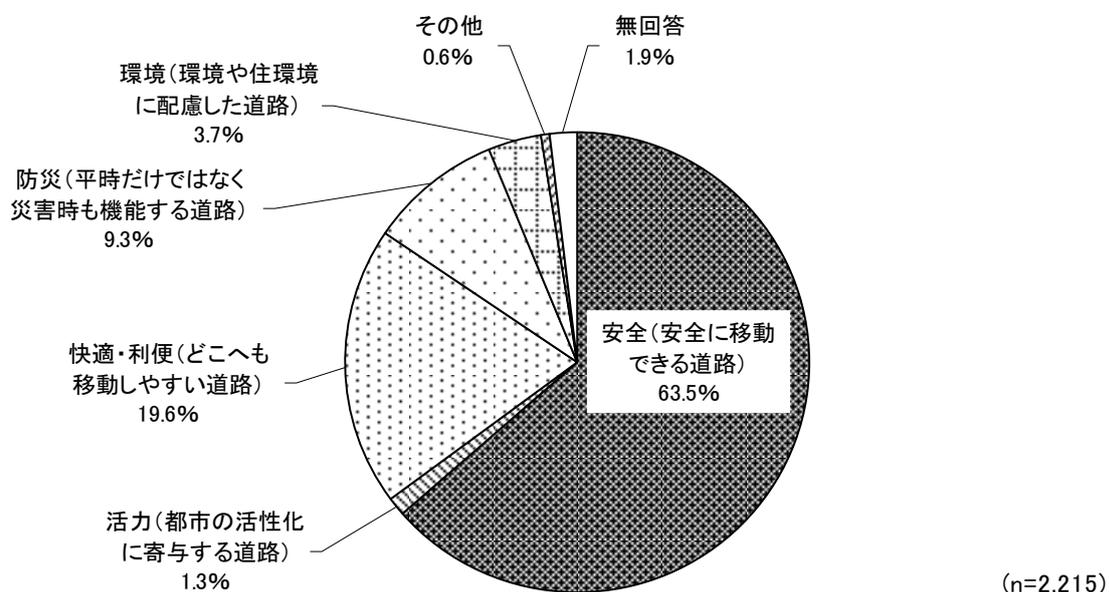
よく使う移動手段別でみると、「自転車通行環境の整備」は、自転車（69.7%）、バイク（62.7%）で6割台、「鉄道・バスの運行間隔・時間帯などのサービス水準」は、バス（53.8%）、電車（50.6%）で5割台であった。また、「生活道路の舗装及び側溝整備」は、バイク（54.9%）で5割半ばであった。

（表6-1-2）

(2) 市内の幹線道路に最も求める機能（こと）

問 16 あなたが市内の幹線道路に最も求める機能（こと）は何ですか。（○は1つ）

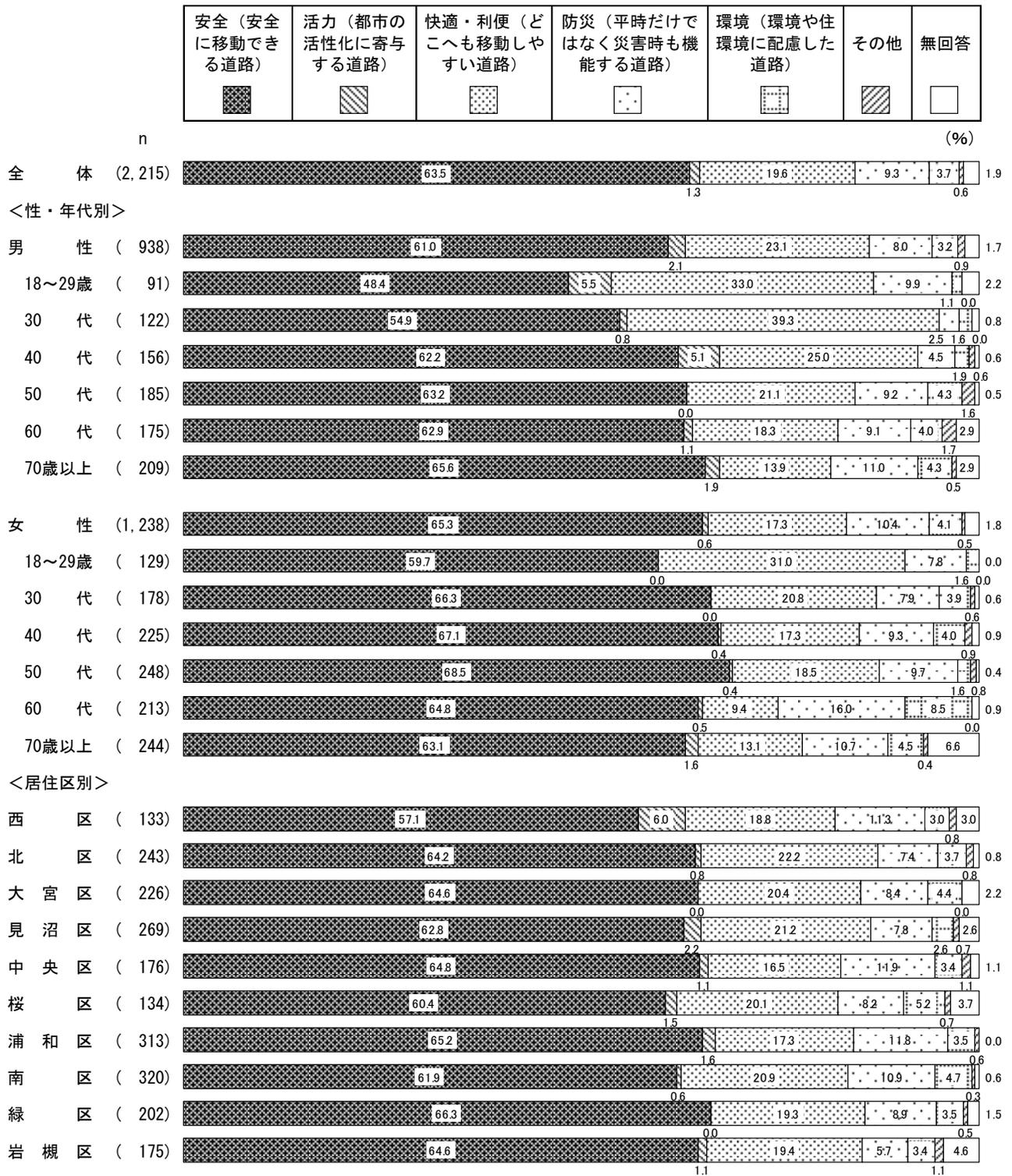
図 6-2-1 市内の幹線道路に最も求める機能（こと）



全体結果

「安全（安全に移動できる道路）」は 63.5%、「活力（都市の活性化に寄与する道路）」は 1.3%、「快適・利便（どこへも移動しやすい道路）」は 19.6%、「防災（平時だけではなく災害時も機能する道路）」は 9.3%、「環境（環境や住環境に配慮した道路）」は 3.7%であった。（図 6-2-1）

図6-2-2 市内の幹線道路に最も求める機能（こと）－性・年代別、居住区別－



属性別

性・年代別で見ると、「安全」は、男女ともすべての年代で最も高く、男性18～29歳（48.4%）を除き5割以上であった。また、「快適・利便」は、男性30代以下、女性18～29歳で3割台であった。

居住区別で見ると、「安全」は、すべての区で最も高く、西区（57.1%）を除き6割台であった。

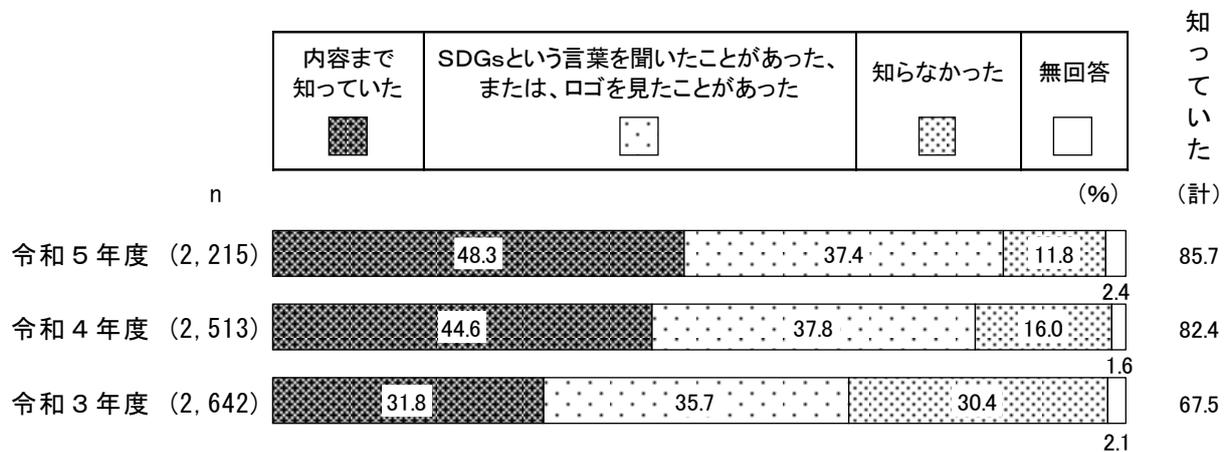
(図6-2-2)

7. SDGs

(1) SDGsの認知度

問17 あなたは、SDGsについてどの程度知っていましたか。(〇は1つ)

図7-1-1 SDGsの認知度

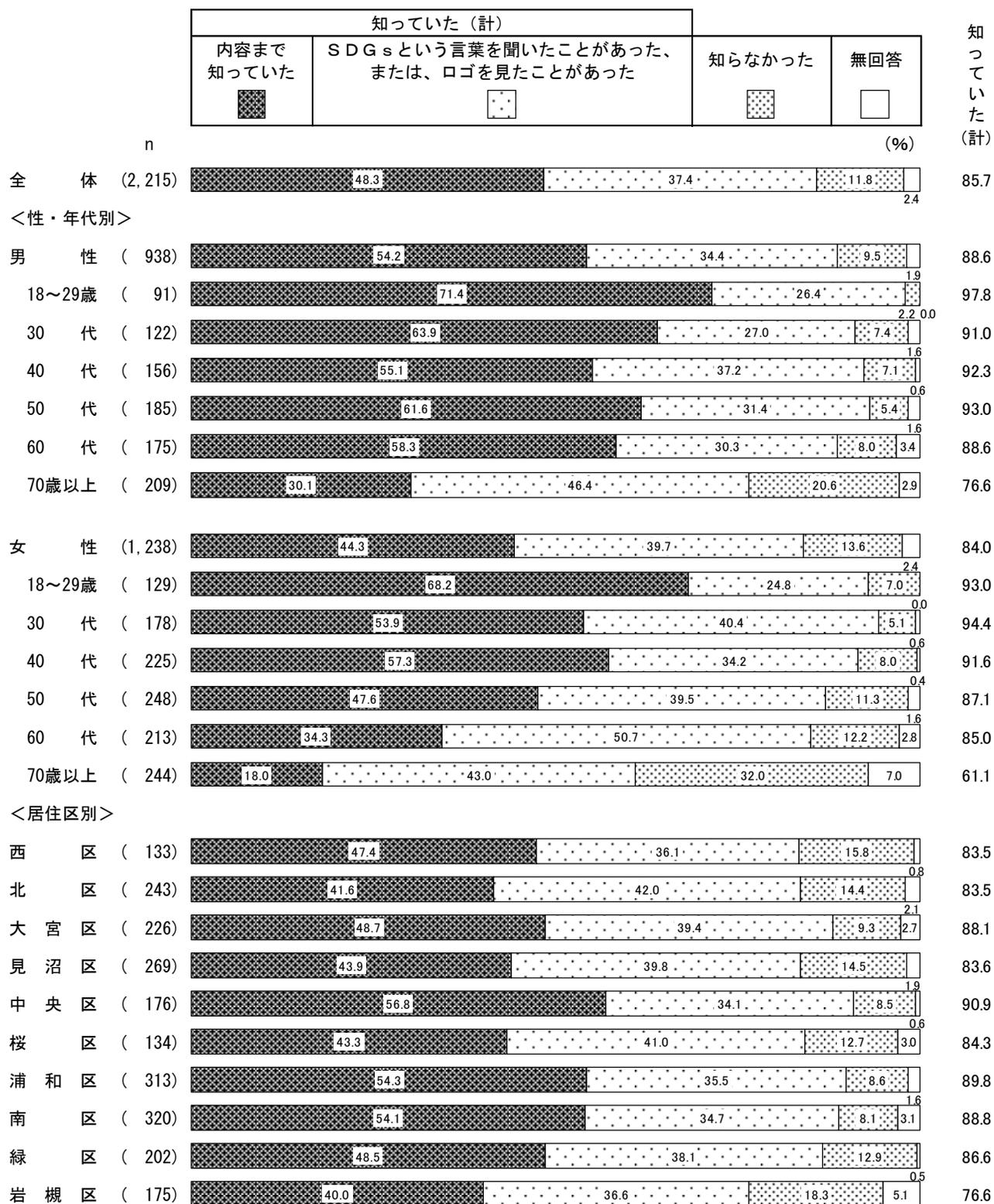


全体結果

「内容まで知っていた」(48.3%)と「SDGsという言葉聞いたことがあった、または、ロゴを見たことがあった」(37.4%)を合わせた『知っていた(計)』(85.7%)は、8割半ばであった。一方、「知らなかった」(11.8%)は、1割を超えた。

過去2年間の調査結果と比較すると、『知っていた(計)』は増加傾向にある。(図7-1-1)

図7-1-2 SDGsの認知度—性・年代別、居住区別—



属性別

性・年代別でみると、『知っていた (計)』は、男性 50 代以下、女性 40 代以下で 9 割台であった。一方、女性 70 歳以上 (61.1%) は、6 割を超えた。

居住区別でみると、『知っていた (計)』は、中央区が 90.9% で最も高く、すべての区で 7 割以上であった。(図 7-1-2)

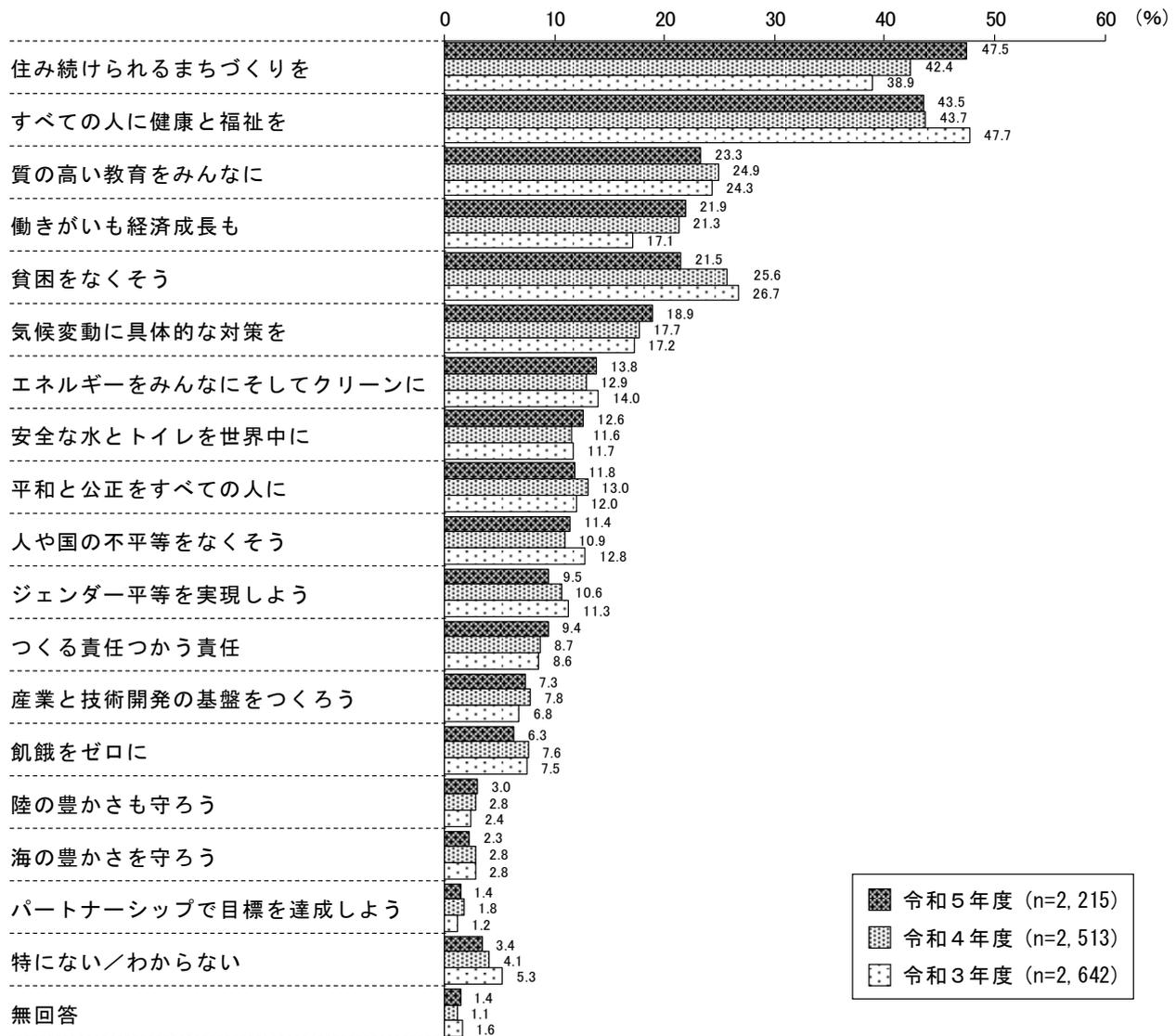
(2) さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために実現を重視する目標

問 18 SDGsは国際的な目標ですが、様々な地域で一人ひとりがその達成に向けて取り組んでいます。

今後、さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために、どの目標の実現を重視するとよいと思いますか。以下の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。

(○は3つまで)

図7-2-1 さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために実現を重視する目標



全体結果

「住み続けられるまちづくりを」が47.5%で最も高く、「すべての人に健康と福祉を」(43.5%)、「質の高い教育をみんなに」(23.3%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「住み続けられるまちづくりを」は増加傾向にあり、令和4年度と比べ5.1ポイント増加した。一方、「貧困をなくそう」は減少傾向にある。(図7-2-1)

表7-2-1 さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために実現を重視する目標
 -性・年代別、居住区別- (上位10項目)

	n	住み続けられるまちづくりを	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	働きがいも経済成長も	貧困をなくそう	気候変動に具体的な対策を	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	安全な水とトイレを世界中に	平和と公正をすべての人に	人や国の不平等をなくそう
全体	2,215	47.5	43.5	23.3	21.9	21.5	18.9	13.8	12.6	11.8	11.4
<性・年代別>											
男性	938	48.7	42.0	26.1	23.1	21.9	17.3	14.2	13.3	10.2	11.1
18~29歳	91	49.5	33.0	34.1	35.2	17.6	5.5	15.4	14.3	4.4	7.7
30代	122	57.4	27.9	46.7	32.0	18.9	10.7	12.3	14.8	4.1	4.1
40代	156	47.4	42.9	34.6	31.4	19.9	12.8	14.1	9.6	7.1	8.3
50代	185	51.9	43.8	23.2	22.2	21.6	15.7	13.5	12.4	13.5	11.4
60代	175	42.3	45.7	16.6	18.3	24.6	22.3	18.3	17.7	10.9	10.9
70歳以上	209	46.9	48.8	14.8	11.5	24.9	26.8	12.0	12.0	15.3	18.7
女性	1,238	47.1	44.8	21.4	21.0	21.3	20.2	13.3	12.2	12.9	11.8
18~29歳	129	48.8	50.4	27.9	27.9	19.4	8.5	7.8	7.8	10.1	10.1
30代	178	54.5	47.2	40.4	27.5	19.7	10.1	12.9	9.6	5.6	11.2
40代	225	49.3	37.8	26.7	22.2	21.8	12.4	13.3	10.2	11.6	10.7
50代	248	46.4	44.8	20.6	25.4	21.8	21.0	13.7	13.3	16.1	13.3
60代	213	44.6	48.4	11.7	16.4	20.2	30.5	18.8	13.6	15.0	11.7
70歳以上	244	41.8	43.9	8.6	11.1	23.8	30.7	11.5	16.0	16.0	12.7
<居住区別>											
西区	133	52.6	39.8	18.0	24.8	21.1	18.0	12.8	10.5	12.8	14.3
北区	243	48.6	43.2	20.6	24.7	25.5	16.5	12.3	16.5	11.5	8.6
大宮区	226	46.5	42.5	21.2	23.9	22.1	22.1	15.0	15.5	10.2	10.6
見沼区	269	44.6	43.9	19.0	25.3	23.4	14.9	13.4	11.5	15.6	11.5
中央区	176	47.7	48.3	28.4	21.0	16.5	19.9	12.5	8.5	10.2	13.1
桜区	134	39.6	41.8	20.9	14.9	25.4	22.4	10.4	15.7	9.7	14.2
浦和区	313	51.8	41.5	30.0	24.3	20.4	20.8	14.7	10.9	11.5	9.9
南区	320	48.1	43.1	26.9	20.0	19.1	20.6	16.3	13.8	13.1	9.4
緑区	202	45.0	44.6	26.7	20.8	21.3	15.8	14.9	10.9	10.4	13.4
岩槻区	175	49.1	46.9	15.4	17.1	21.7	18.3	11.4	12.0	10.9	14.3

属性別

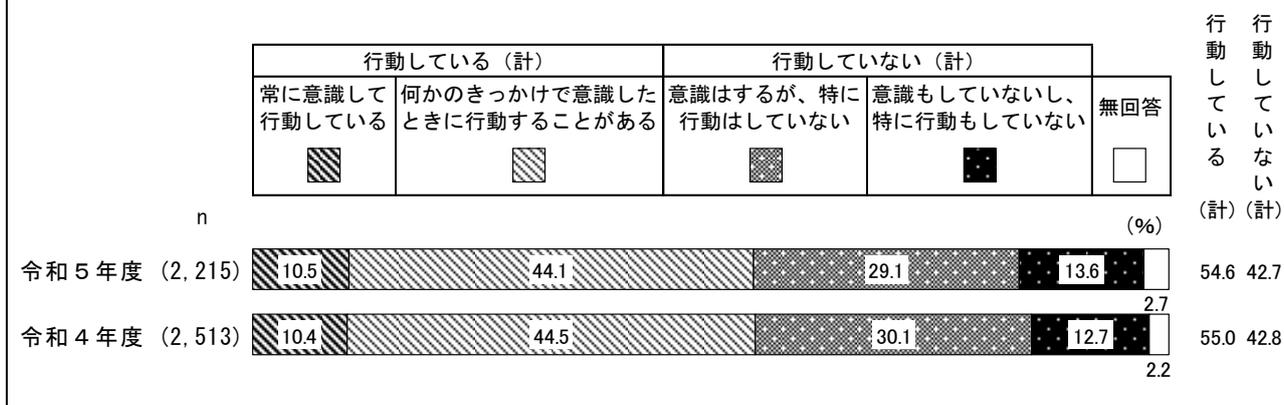
性・年代別でみると、「質の高い教育をみんなに」は、男女とも30代で4割台であった。また、「働きがいも経済成長も」は、男女とも年代が下がるにつれ高くなる傾向があった。「気候変動に具体的な対策を」は、男女とも年代が上がるにつれ高くなる傾向があった。

居住区別でみると、「住み続けられるまちづくりを」は、西区(52.6%)、浦和区(51.8%)で5割台であった。(表7-2-1)

(3) SDGsを意識した行動の有無

問 19 あなたは、家庭や仕事などの日常生活において、SDGsの17の目標のうち、1つでも意識して行動をしていますか。(〇は1つ)

図 7-3-1 SDGsを意識した行動の有無

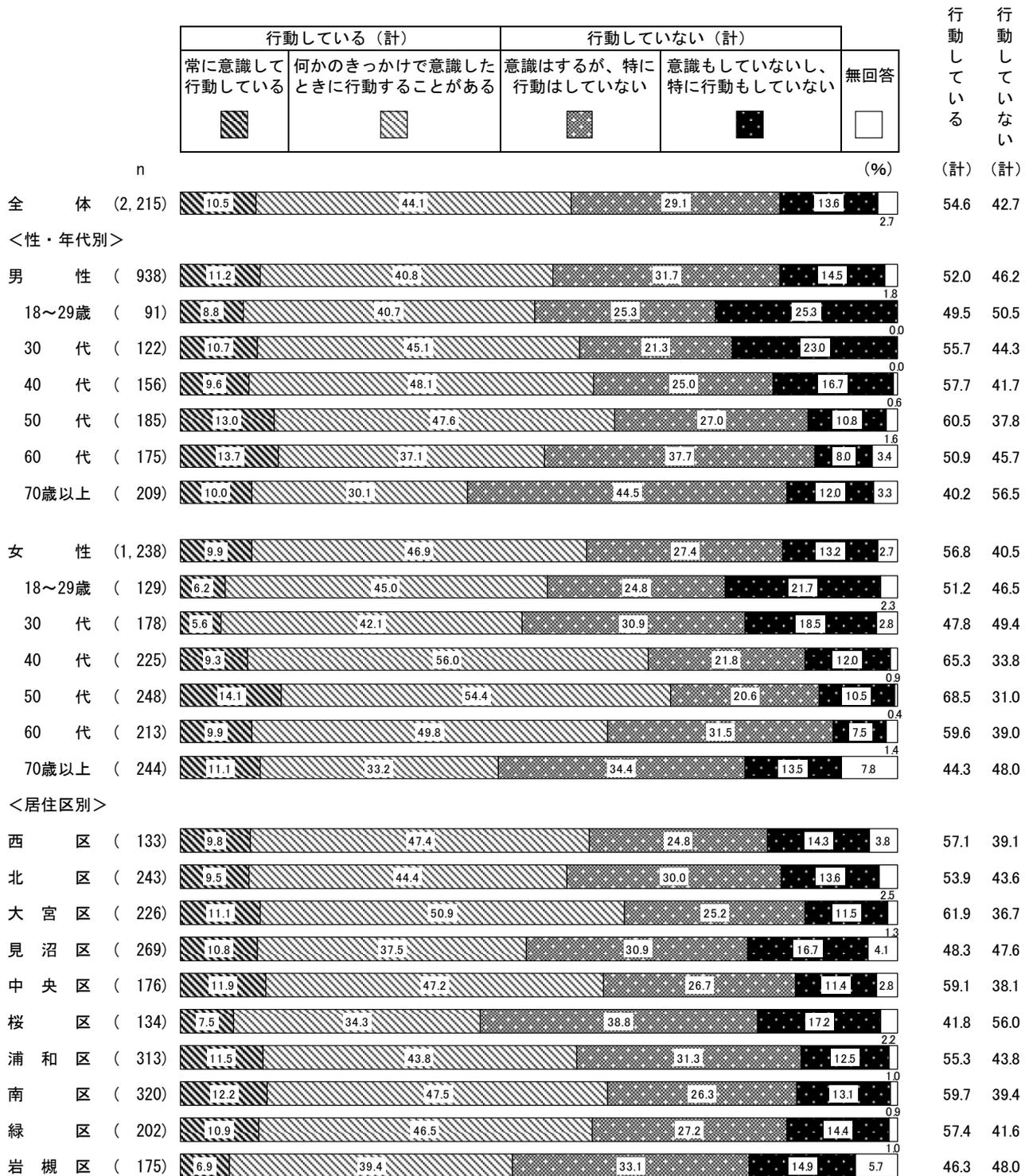


全体結果

「常に意識して行動している」(10.5%)と「何かのきっかけで意識したときに行動することがある」(44.1%)を合わせた『行動している(計)』(54.6%)は、5割半ばであった。一方、「意識はするが、特に行動はしていない」(29.1%)と「意識もしていないし、特に行動もしていない」(13.6%)を合わせた『行動していない(計)』(42.7%)は、4割を超えた。

令和4年度の調査結果と、おおむね同じであった。(図7-3-1)

図7-3-2 SDGsを意識した行動の有無一性・年代別、居住区別一



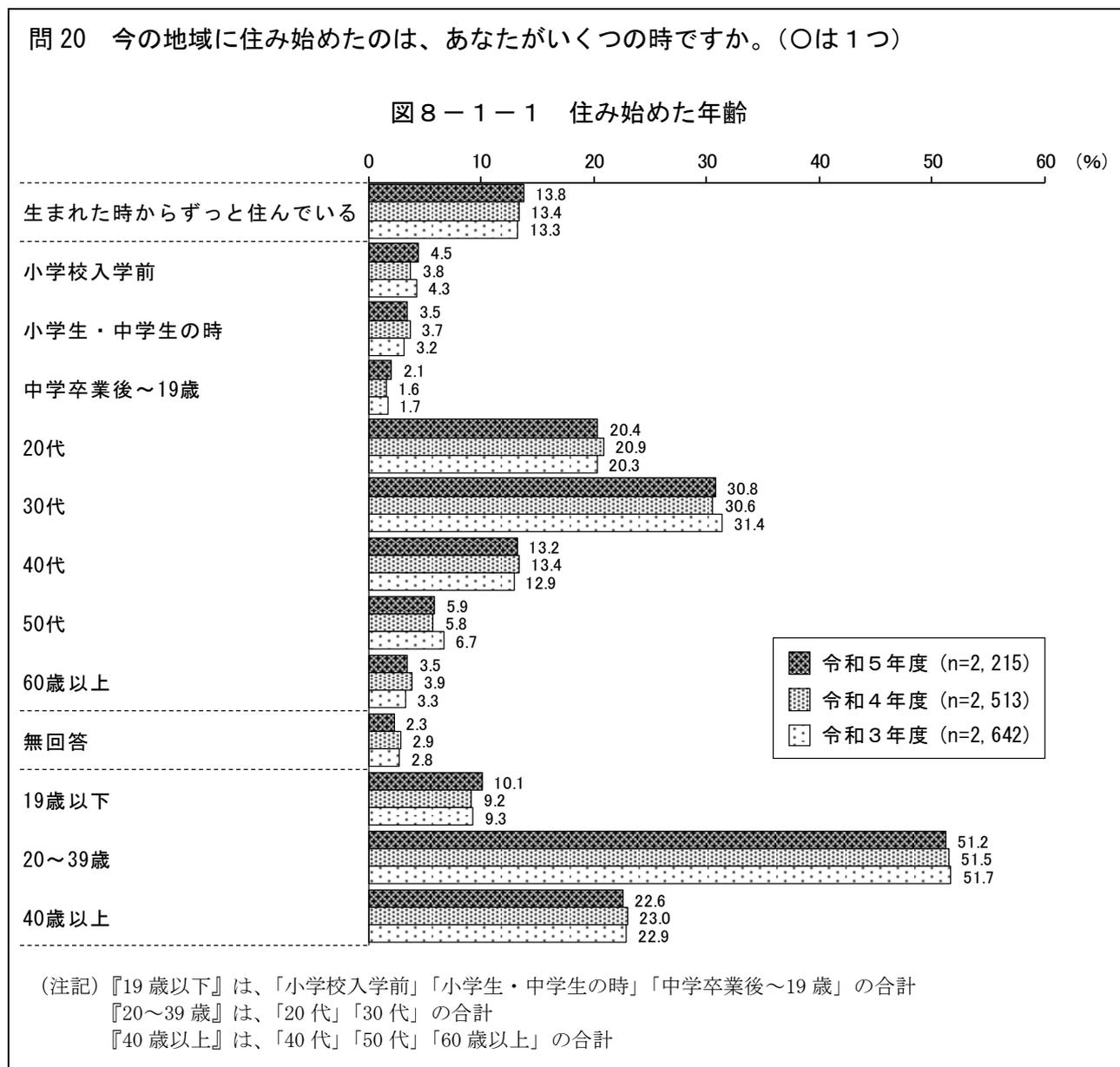
属性別

性・年代別で見ると、『行動している (計)』は、男女とも 50 代が 6 割台で最も高く、女性 40 代 (65.3%) も 6 割半ばであった。

居住区別で見ると、『行動している (計)』は、大宮区が 61.9% で最も高く、南区 (59.7%)、中央区 (59.1%) が続いた。(図 7-3-2)

8. 今の地域を選んだ理由

(1) 住み始めた年齢



全体結果

「30代」が30.8%で最も高く、「20代」(20.4%)、「生まれた時からずっと住んでいる」(13.8%)が続いた。全体の半数以上が20～30代に転入している。

過去2年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図8-1-1)

表8-1-1 住み始めた年齢-性・年代別、居住区別-

	n	生まれ つと 住ん で い る	19歳以下			20~39歳		40歳以上			無 回 答	(%)		
			小 学 校 入 学 前	小 学 生 ・ 中 学 生 の 時	中 学 卒 業 後 5 ~ 1 9 歳	2 0 代	3 0 代	4 0 代	5 0 代	6 0 歳 以 上		1 9 歳 以 下	2 0 ~ 3 9 歳	4 0 歳 以 上
全 体	2,215	13.8	4.5	3.5	2.1	20.4	30.8	13.2	5.9	3.5	2.3	10.1	51.2	22.6
<性・年代別>														
男 性	938	16.6	4.8	3.7	2.2	16.8	29.7	16.1	5.3	3.4	1.2	10.8	46.6	24.8
18~29歳	91	37.4	14.3	12.1	5.5	30.8	-	-	-	-	-	31.9	30.8	-
30代	122	9.0	8.2	4.1	1.6	27.9	47.5	-	-	-	1.6	13.9	75.4	-
40代	156	15.4	5.1	3.8	1.3	17.9	37.2	18.6	-	-	0.6	10.3	55.1	18.6
50代	185	17.3	4.9	1.6	2.2	9.7	28.6	25.9	9.2	-	0.5	8.6	38.4	35.1
60代	175	19.4	1.1	2.3	2.3	9.1	32.0	22.9	6.3	3.4	1.1	5.7	41.1	32.6
70歳以上	209	10.0	1.4	2.9	1.9	16.3	25.8	16.3	10.5	12.4	2.4	6.2	42.1	39.2
女 性	1,238	12.0	4.4	3.2	1.9	23.4	32.1	11.1	6.5	3.6	1.7	9.5	55.6	21.3
18~29歳	129	33.3	12.4	12.4	5.4	36.4	-	-	-	-	-	30.2	36.4	-
30代	178	10.1	2.8	5.1	1.1	28.7	48.9	-	-	-	3.4	9.0	77.5	-
40代	225	13.3	5.3	1.8	1.3	20.0	41.8	16.0	-	-	0.4	8.4	61.8	16.0
50代	248	10.1	4.0	1.2	1.2	19.8	36.7	18.1	7.7	-	1.2	6.5	56.5	25.8
60代	213	10.8	2.3	2.8	3.3	18.8	29.1	11.7	15.0	4.7	1.4	8.5	47.9	31.5
70歳以上	244	3.7	2.5	0.4	0.8	23.8	25.8	13.1	12.3	14.3	3.3	3.7	49.6	39.8
<居住区別>														
西 区	133	18.0	4.5	6.0	2.3	28.6	22.6	8.3	3.8	3.0	3.0	12.8	51.1	15.0
北 区	243	16.0	2.9	4.1	3.7	17.7	27.6	13.6	7.4	4.9	2.1	10.7	45.3	25.9
大 宮 区	226	13.3	4.9	3.5	0.9	19.0	32.7	12.8	7.1	4.9	0.9	9.3	51.8	24.8
見 沼 区	269	9.7	4.8	4.8	1.9	15.6	34.9	16.0	6.7	3.7	1.9	11.5	50.6	26.4
中 央 区	176	9.7	4.5	1.7	2.8	18.8	39.2	15.9	4.0	3.4	-	9.1	58.0	23.3
桜 区	134	14.9	8.2	5.2	3.7	20.9	29.1	9.7	6.7	1.5	-	17.2	50.0	17.9
浦 和 区	313	16.9	4.5	2.9	1.0	19.8	31.9	14.4	5.1	2.9	0.6	8.3	51.8	22.4
南 区	320	9.7	5.6	2.5	2.8	23.4	31.3	12.8	7.2	3.8	0.9	10.9	54.7	23.8
緑 区	202	15.8	3.0	3.0	1.5	18.8	29.7	16.3	5.9	3.0	3.0	7.4	48.5	25.2
岩 槻 区	175	18.3	3.4	2.3	1.1	28.6	27.4	9.7	4.0	2.3	2.9	6.9	56.0	16.0

属 性 別

性・年代別でみると、『20~39歳』は、女性（55.6%）が男性（46.6%）より9.0ポイント高かった。居住区別でみると、「生まれた時からずっと住んでいる」は、岩槻区（18.3%）が最も高かった。一方、見沼区、中央区、南区（ともに9.7%）は、1割未満であった。（表8-1-1）

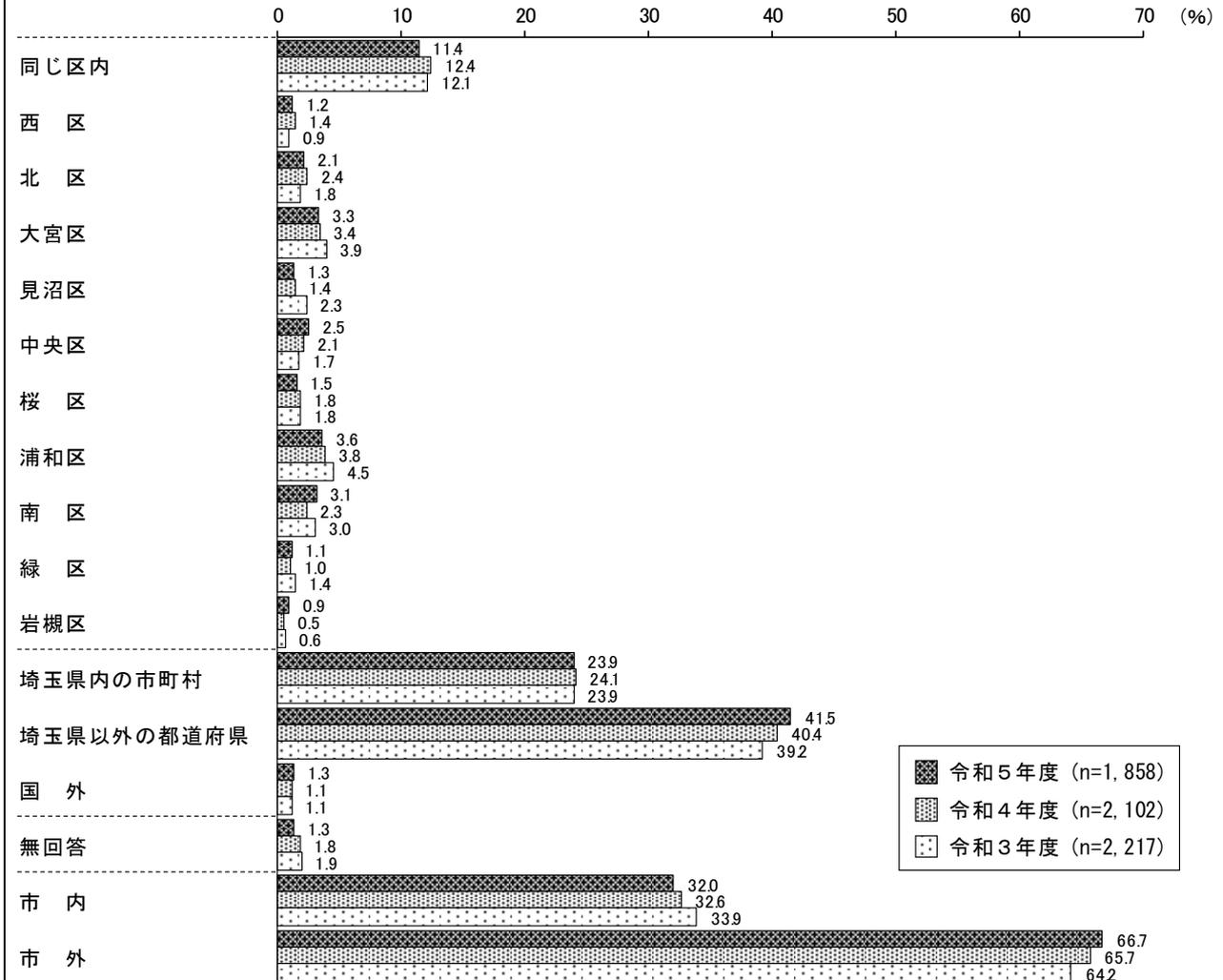
(2) 以前住んでいた地域

(引っ越してきた人に質問します。)

問 20-1 どこから、今の地域に引っ越してきましたか。

同じ区内で転居した方は、現在お住まいの区を選んでください。(○は1つ)

図 8-2-1 以前住んでいた地域



(注記1) 『市内』は、「同じ区内」「西区」「北区」「大宮区」「見沼区」「中央区」「桜区」「浦和区」「南区」「緑区」「岩槻区」の合計

『市外』は、「埼玉県内の市町村」「埼玉県以外の都道府県」「国外」の合計

(注記2) この質問でさいたま市内の10区を答えた人の回答が、居住区(参照:報告書7ページ・(4)居住区)の回答と同じである人を「同じ区内」に区分して再集計した結果を示している。

全体結果

『市内』は32.0%、「埼玉県内の市町村」は23.9%、「埼玉県以外の都道府県」は41.5%であった。過去2年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図8-2-1)

表8-2-1 以前住んでいた地域-性別、今の地域に住み始めた年齢別、居住区別-

	n	市内											市外				(%)	
		同じ区内	西区	北区	大宮区	見沼区	中央区	桜区	浦和区	南区	緑区	岩槻区	埼玉県内の市町村	埼玉県以外の都道府県	国外	無回答	市内	市外
全体	1,858	11.4	1.2	2.1	3.3	1.3	2.5	1.5	3.6	3.1	1.1	0.9	23.9	41.5	1.3	1.3	32.0	66.7
<性別>																		
男性	771	11.2	0.8	1.9	3.1	0.8	3.0	1.9	2.6	3.0	0.8	0.5	23.7	45.0	1.3	0.4	29.6	70.0
女性	1,069	11.3	1.5	2.2	3.5	1.7	2.2	1.2	4.1	3.2	1.3	1.2	24.3	38.9	1.4	2.0	33.4	64.6
<今の地域に住み始めた年齢別>																		
小学校入学前	100	5.0	1.0	2.0	4.0	-	5.0	2.0	6.0	4.0	3.0	1.0	21.0	40.0	1.0	5.0	33.0	62.0
小学生・中学生の時	77	18.2	1.3	1.3	2.6	-	1.3	2.6	5.2	5.2	-	-	15.6	45.5	1.3	-	37.7	62.3
中学卒業後～19歳	46	8.7	-	2.2	8.7	2.2	2.2	-	6.5	2.2	2.2	-	15.2	43.5	2.2	4.3	34.8	60.9
20代	452	8.6	1.5	1.5	3.5	1.3	1.5	0.9	2.2	1.8	0.7	1.3	29.4	43.8	0.9	0.9	25.0	74.1
30代	682	9.8	1.2	2.3	2.6	1.2	2.8	1.6	3.1	3.1	1.2	0.9	24.2	42.7	1.9	1.5	29.8	68.8
40代	293	15.4	1.0	2.0	3.4	1.7	3.4	0.3	3.1	4.1	0.7	-	21.8	41.3	1.4	0.3	35.2	64.5
50代	131	17.6	0.8	3.8	4.6	0.8	-	3.8	7.6	4.6	1.5	3.1	20.6	29.0	0.8	1.5	48.1	50.4
60歳以上	77	18.2	2.6	1.3	2.6	3.9	3.9	3.9	3.9	2.6	1.3	-	19.5	36.4	-	-	44.2	55.8
<居住区別>																		
西区	105	9.5	-	6.7	5.7	1.9	1.9	3.8	4.8	2.9	-	-	23.8	35.2	-	3.8	37.1	59.0
北区	199	14.1	4.0	-	7.0	1.5	1.5	0.5	4.0	2.5	-	1.0	21.1	41.2	1.0	0.5	36.2	63.3
大宮区	194	10.3	3.1	2.6	-	1.5	3.1	0.5	4.1	1.5	2.1	2.1	19.1	47.9	0.5	1.5	30.9	67.5
見沼区	238	12.2	0.4	6.7	5.5	-	2.5	0.8	3.8	1.7	-	1.7	24.4	38.7	0.4	1.3	35.3	63.4
中央区	159	7.5	3.1	1.9	3.1	1.3	-	1.9	5.7	3.8	0.6	0.6	20.8	46.5	2.5	0.6	29.6	69.8
桜区	114	9.6	-	0.9	2.6	-	7.9	-	3.5	3.5	2.6	1.8	26.3	39.5	0.9	0.9	32.5	66.7
浦和区	258	9.7	0.4	0.8	2.7	1.2	4.3	1.6	-	4.7	1.9	0.4	19.4	48.1	3.9	1.2	27.5	71.3
南区	286	11.9	0.7	0.7	1.0	1.7	1.0	2.1	4.5	-	2.1	1.0	27.3	43.0	1.4	1.4	26.9	71.7
緑区	164	10.4	-	-	1.8	2.4	1.8	3.7	5.5	12.2	-	-	26.8	35.4	-	-	37.8	62.2
岩槻区	138	18.1	-	2.2	5.8	1.4	2.2	0.7	0.7	0.7	0.7	-	34.1	29.7	1.4	2.2	32.6	65.2

属性別

今の地域に住み始めた年齢別でみると、『市外』は、すべての年代で5割を超え、20代(74.1%)で7割半ばであった。一方、『市内』は、50代以上で4割台であった。

居住区別でみると、『市内』は緑区(37.8%)、『市外』は南区(71.7%)が最も高かった。

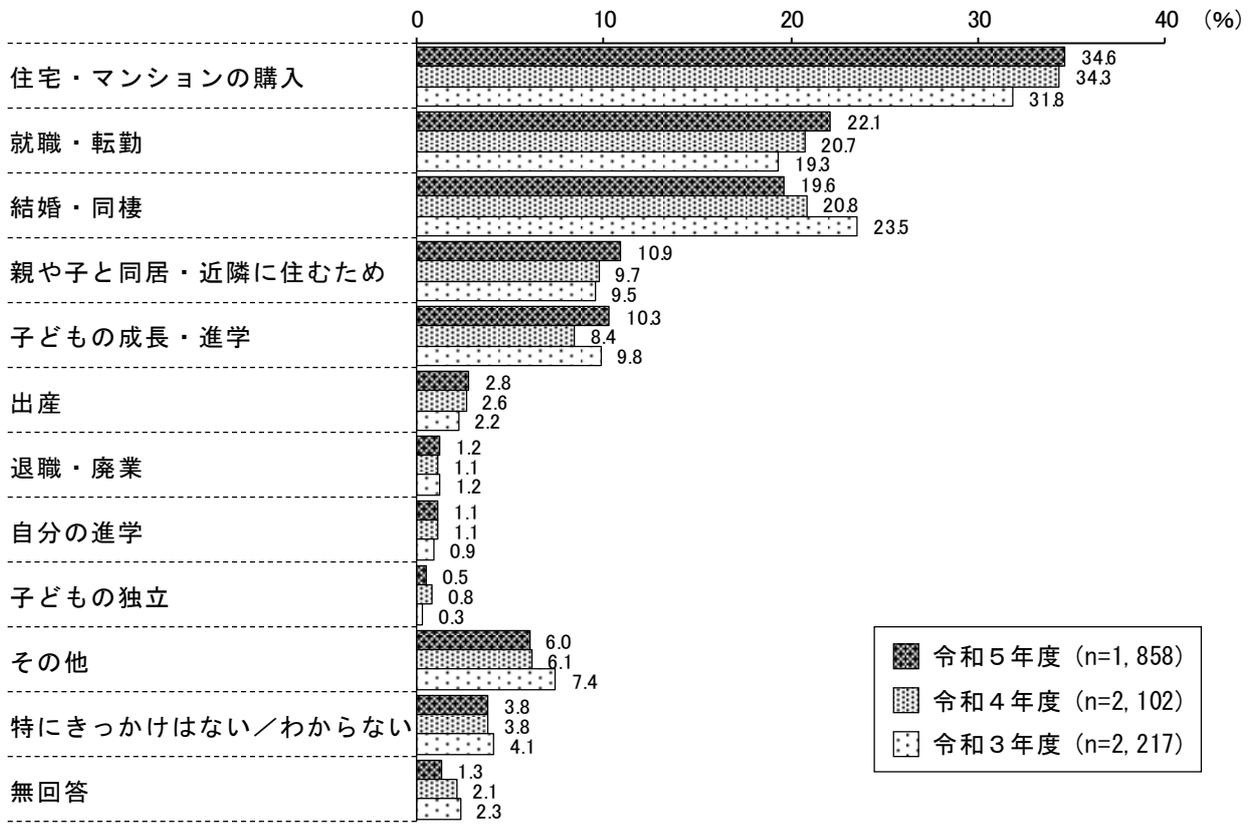
(表8-2-1)

(3) 以前の場所から引っ越してきたきっかけ

(引っ越してきた人に質問します。)

問 20-2 以前の地域から引っ越してきたきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

図 8-3-1 以前の場所から引っ越してきたきっかけ



全体結果

「住宅・マンションの購入」が34.6%で最も高く、「就職・転勤」(22.1%)、「結婚・同棲」(19.6%)が続いた。

過去2年間の調査結果と、おおむね同じであった。(図8-3-1)

表 8-3-1 以前の場所から引っ越してきたきっかけ—性別、今の地域に住み始めた年齢別、
以前住んでいた地域別、居住区別—

(%)													
	n	購住宅・マンションの	就職・転勤	結婚・同棲	に親や子と同居・近隣	子どもの成長・進学	出産	退職・廃業	自分の進学	子どもの独立	その他	／特にかつかけはない	無回答
全体	1,858	34.6	22.1	19.6	10.9	10.3	2.8	1.2	1.1	0.5	6.0	3.8	1.3
<性別>													
男性	771	37.2	28.4	13.5	9.1	9.2	1.9	1.7	0.8	0.1	5.8	4.9	1.0
女性	1,069	32.6	17.6	24.2	12.0	11.3	3.5	0.7	1.4	0.8	6.1	3.0	1.5
<今の地域に住み始めた年齢別>													
小学校入学前	100	34.0	15.0	1.0	13.0	5.0	-	-	3.0	-	9.0	20.0	7.0
小学生・中学生の時	77	35.1	32.5	1.3	10.4	2.6	-	-	6.5	-	2.6	10.4	2.6
中学卒業後～19歳	46	32.6	19.6	4.3	10.9	2.2	-	-	19.6	2.2	8.7	4.3	2.2
20代	452	20.8	20.4	48.0	7.1	3.8	3.1	0.7	0.7	0.2	3.8	2.4	0.2
30代	682	40.0	23.6	18.5	9.1	16.9	4.8	0.3	0.1	-	5.4	1.3	0.7
40代	293	39.6	27.3	5.1	12.6	15.7	1.7	1.0	-	-	5.5	3.8	0.7
50代	131	43.5	16.8	2.3	17.6	4.6	-	3.8	-	3.8	13.7	3.1	1.5
60歳以上	77	33.8	9.1	-	28.6	-	-	11.7	-	3.9	11.7	7.8	5.2
<以前住んでいた地域別>													
市内	594	48.7	6.6	14.8	10.9	11.1	2.9	1.7	0.7	0.7	6.2	5.1	1.5
同 じ 区 内	211	43.6	8.5	12.3	12.8	10.4	3.3	2.4	-	-	7.1	6.6	2.8
西 区	23	47.8	4.3	30.4	4.3	8.7	4.3	-	-	-	8.7	-	-
北 区	39	53.8	15.4	10.3	5.1	10.3	-	2.6	-	-	7.7	5.1	-
大 宮 区	62	51.6	3.2	19.4	8.1	9.7	3.2	1.6	3.2	1.6	6.5	6.5	-
見 沼 区	24	37.5	4.2	29.2	12.5	4.2	4.2	4.2	-	-	4.2	8.3	-
中 央 区	46	58.7	4.3	13.0	2.2	19.6	4.3	-	-	-	6.5	4.3	-
桜 和 区	28	46.4	7.1	7.1	17.9	7.1	-	3.6	-	3.6	-	10.7	-
浦 和 区	66	48.5	7.6	15.2	16.7	9.1	4.5	1.5	1.5	3.0	6.1	-	1.5
南 区	58	63.8	1.7	10.3	12.1	20.7	1.7	-	-	-	1.7	1.7	-
緑 区	20	50.0	5.0	10.0	5.0	10.0	-	-	5.0	-	5.0	5.0	10.0
岩 槻 区	17	29.4	-	35.3	11.8	-	-	-	-	-	17.6	5.9	-
市外	1,240	28.3	29.9	21.9	10.8	10.0	2.8	1.0	1.4	0.4	6.0	3.2	0.4
埼玉県内の市町村	444	37.6	11.9	27.0	9.2	14.0	3.4	0.7	1.1	0.9	8.3	4.1	0.2
埼玉県以外の都道府県	771	23.7	39.8	19.2	11.7	7.8	2.6	1.2	1.4	0.1	4.4	2.7	0.5
国	25	4.0	44.0	12.0	12.0	8.0	-	-	4.0	-	16.0	4.0	-
<居住区別>													
西 区	105	32.4	18.1	22.9	15.2	5.7	6.7	1.0	1.0	1.0	5.7	1.9	2.9
北 区	199	30.2	27.6	18.1	10.1	8.0	2.0	0.5	1.0	1.0	9.0	3.5	0.5
大 宮 区	194	30.9	24.2	17.0	10.8	11.9	5.2	1.5	1.5	0.5	7.7	3.1	1.0
見 沼 区	238	36.1	20.6	18.9	11.8	11.3	4.2	2.5	0.4	0.4	3.4	4.2	0.8
中 央 区	159	34.0	27.7	16.4	8.8	8.2	2.5	0.6	0.6	-	7.5	4.4	1.3
桜 和 区	114	33.3	20.2	17.5	7.9	8.8	4.4	0.9	5.3	-	5.3	7.0	0.9
浦 和 区	258	35.3	24.0	19.4	10.1	13.2	1.9	0.8	1.2	0.4	4.7	3.9	1.6
南 区	286	33.9	26.2	19.6	10.5	10.1	0.7	1.0	0.7	1.4	6.6	3.1	1.0
緑 区	164	38.4	13.4	22.6	12.8	14.0	2.4	1.8	0.6	-	5.5	4.9	1.8
岩 槻 区	138	42.0	10.9	26.8	12.3	8.0	0.7	0.7	0.7	-	5.1	2.9	1.4

属 性 別

性別でみると、「就職・転勤」は、男性（28.4%）が女性（17.6%）より10.8ポイント高かった。また、「結婚・同棲」は、女性（24.2%）が男性（13.5%）より10.7ポイント高かった。

今の地域に住み始めた年齢別でみると、「住宅・マンションの購入」は50代（43.5%）、「結婚・同棲」は20代（48.0%）、「親や子と同居・近隣に住むため」は60歳以上（28.6%）で最も高かった。

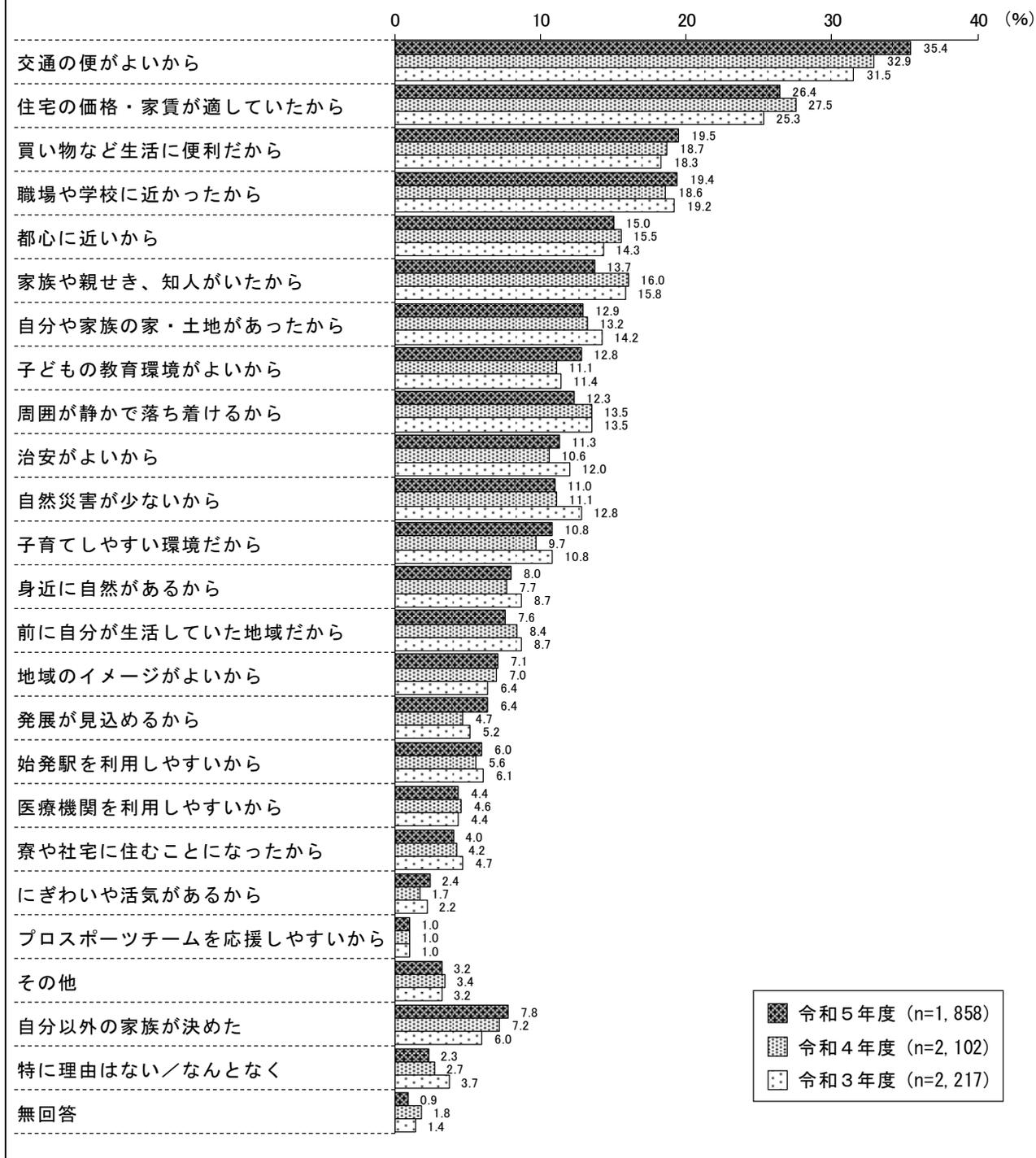
以前住んでいた地域別でみると、「住宅・マンションの購入」は、『市内』（48.7%）が『市外』（28.3%）より20.4ポイント高かった。一方、「就職・転勤」は、『市外』（29.9%）が『市内』（6.6%）より23.3ポイント高かった。（表8-3-1）

(4) 今の地域を選んだ理由

(引っ越してきた人に質問します。)

問 20-3 今の地域を選んだ大きな理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図 8-4-1 今の地域を選んだ理由



全体結果

「交通の便がよいから」が35.4%で最も高く、「住宅の価格・家賃が適していたから」(26.4%)、「買い物など生活に便利だから」(19.5%)、「職場や学校に近かったから」(19.4%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、「交通の便がよいから」は増加傾向にある。(図8-4-1)

表 8-4-1 今の地域を選んだ理由－性別、今の地域に住み始めた年齢別、
以前住んでいた地域別、居住区別－（上位 10 項目）

	n	交通の便がよいから	住宅の価格・家賃が適していたから	買い物など生活に便利だから	職場や学校に近かったから	都心に近いから	家族や親せき、知人がいたから	自分や家族の家・土地があつたから	子どもの教育環境がよいから	周囲が静かで落ち着けるから	治安がよいから
全体	1,858	35.4	26.4	19.5	19.4	15.0	13.7	12.9	12.8	12.3	11.3
<性別>											
男性	771	36.7	28.8	19.5	22.0	14.9	12.8	9.1	12.2	13.6	10.8
女性	1,069	34.2	24.7	19.7	17.8	15.2	14.5	15.5	13.4	11.6	11.8
<今の地域に住み始めた年齢別>											
小学校入学前	100	8.0	7.0	3.0	2.0	6.0	9.0	14.0	3.0	4.0	3.0
小学生・中学生の時	77	15.6	2.6	5.2	7.8	7.8	11.7	10.4	7.8	3.9	7.8
中学卒業後～19歳	46	21.7	8.7	13.0	21.7	13.0	15.2	23.9	2.2	4.3	6.5
20代	452	30.3	25.0	16.2	19.7	14.2	13.5	22.1	6.9	9.5	9.1
30代	682	39.1	31.2	20.4	24.2	16.4	14.4	10.4	20.2	13.5	14.5
40代	293	45.7	31.7	27.3	21.5	17.7	12.3	6.1	16.7	16.0	12.6
50代	131	41.2	32.8	22.9	13.7	18.3	16.0	9.9	6.1	21.4	11.5
60歳以上	77	45.5	19.5	35.1	10.4	11.7	18.2	6.5	1.3	13.0	7.8
<以前住んでいた地域別>											
市内	594	35.4	30.5	23.4	19.2	10.1	10.9	11.6	13.0	15.7	12.0
同じ区内	211	32.7	25.1	25.1	21.8	8.1	8.1	10.0	11.8	13.3	11.8
西区	23	47.8	30.4	26.1	34.8	17.4	8.7	17.4	17.4	4.3	8.7
北区	39	38.5	30.8	23.1	20.5	5.1	7.7	12.8	12.8	15.4	10.3
大宮区	62	27.4	41.9	16.1	19.4	9.7	11.3	11.3	8.1	25.8	11.3
見沼区	24	50.0	37.5	37.5	12.5	20.8	12.5	12.5	4.2	16.7	16.7
中央区	46	50.0	32.6	34.8	10.9	10.9	17.4	10.9	13.0	8.7	10.9
桜浦区	28	28.6	35.7	28.6	17.9	7.1	14.3	14.3	14.3	14.3	7.1
浦和区	66	31.8	28.8	19.7	16.7	4.5	16.7	13.6	10.6	16.7	10.6
南区	58	29.3	44.8	17.2	15.5	13.8	10.3	10.3	27.6	27.6	20.7
緑区	20	50.0	15.0	15.0	15.0	5.0	5.0	10.0	10.0	15.0	5.0
岩槻区	17	41.2	5.9	11.8	23.5	41.2	17.6	17.6	11.8	-	11.8
市外	1,240	35.7	24.8	17.8	19.9	17.4	15.2	13.3	12.9	11.0	11.0
埼玉県内の市町村	444	37.8	26.1	19.4	23.0	13.1	10.6	12.8	13.3	12.8	10.6
埼玉県以外の都道府県	771	34.4	24.8	17.1	18.3	20.1	17.9	13.5	12.3	10.1	11.2
国	25	40.0	4.0	12.0	16.0	12.0	16.0	16.0	24.0	4.0	16.0
<居住区別>											
西区	105	14.3	30.5	5.7	12.4	9.5	14.3	16.2	6.7	19.0	4.8
北区	199	39.2	28.1	28.6	27.1	12.6	12.6	9.5	9.0	8.0	6.5
大宮区	194	55.7	17.5	26.8	17.0	19.6	12.4	15.5	8.2	8.8	11.9
見沼区	238	26.1	34.5	18.1	18.9	7.6	13.0	12.2	8.4	16.0	4.2
中央区	159	49.7	22.6	23.9	22.0	20.1	12.6	8.8	14.5	11.3	10.1
桜浦区	114	17.5	28.9	10.5	25.4	10.5	19.3	7.0	5.3	14.0	5.3
浦和区	258	39.9	20.9	20.9	18.2	21.3	12.4	16.3	27.9	10.1	26.7
南区	286	48.6	24.5	21.3	19.6	23.8	14.7	10.8	14.7	8.7	12.2
緑区	164	22.0	31.1	16.5	17.1	9.8	16.5	11.6	17.1	20.7	16.5
岩槻区	138	10.1	30.4	8.7	15.2	3.6	12.3	22.5	3.6	13.8	4.3

属性別

今の地域に住み始めた年齢別でみると、「交通の便がよいから」は、40代以上で4割台であった。「住宅の価格・家賃が適していたから」は、30～50代で3割台であった。また、「買い物など生活に便利だから」は、60歳以上（35.1%）で3割半ばであった。

以前住んでいた地域別でみると、「住宅の価格・家賃が適していたから」、「買い物など生活に便利だから」は、『市内』が『市外』より5ポイント以上高かった。一方、「都心に近いから」は、『市外』（17.4%）が『市内』（10.1%）より7.3ポイント高かった。

居住区別でみると、「交通の便がよいから」は、大宮区が55.7%で最も高く、中央区（49.7%）、南区（48.6%）が続いた。「子どもの教育環境がよいから」、「治安がよいから」は浦和区で3割近かった。

（表 8-4-1）